原遺跡 3

－第 5・6・10・15・16・17・19・21 次調査－

平成 26(2014) 年

太宰府市教育委員会

太宰府市の文化財第121集

原遺跡 3

－第5・6・10・15・16・17・19・21次調査－

平成26(2014)年

太宰府市教育委員会

序

本書は、四王寺山南東麓で行われた原遺跡の発掘調査報告書です。

調査地は太宰府天満宮の西側にある四王寺山の裾部に位置し、太宰府の市街地を見渡すような立地で、調査地一帯にはかつて原山無量寺が存在し、足利尊氏ら多くの歴史上の人物がかかわったことで知られています。

今回の調査では、中世を中心とした多くの遺物と共に、建物跡や石組み、集石遺構など寺院や祭祀に関係する遺構が見つかりました。また、原遺跡では初めて平安時代前期の遺構も確認されるなど、原山無量寺の解明に繋がる成果が得られています。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

最後になりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました、関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成26年3月
太宰府市教育委員会
教育長　木村甚治

例言

1. 本書は太宰府市三条や連歌屋で行われた原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第Ⅱ座標系（日本測地系）を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限りG.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 遺構の実測及び写真撮影は各担当者が行った。
4. 遺構の空中写真撮影は㈲空中写真企画（代表諫山広宣）が行った。
5. 出土した鉄製品の保存処理は㈱タクトが行った。
6. 遺物の実測は、福井円、吉富千春、今岡一恵、山村、宮崎が行った。
7. 表入力・写真整理は瀬戸口みな子、市川晴美、吉村有紀が行った。
8. 遺物の整理接合・復元作業は馬場由美、住山景子、末永亜由子が行った。
9. 遺物の写真撮影は㈲文化財写真工房（代表 岡紀久夫）、山村が行った。
10. 図の浄書は、福井円、吉富千春、今岡一恵、山村、宮崎が行った。
11. 本書に用いた分類は以下のとおり。

須恵器・・・『宮ノ本遺跡Ⅱ　－窯跡篇－』（太宰府市の文化財第10集）1992
陶磁器・・・『大宰府条坊跡XV　－陶磁器分類－』（太宰府市の文化財 第49集）2000
土器・・・・『大宰府条坊跡Ⅱ』（太宰府市の文化財第7集）1983
瓦　・・・・『宝満山遺跡群4』（太宰府市の文化財第79集）2005

12. 執筆は第5・6・10・15・16・19次調査・調査まとめを山村、第17・21次調査を宮崎、編集は宮崎が担当した。

目次

Ⅰ、遺跡の位置と歴史 …… 1
Ⅱ、調査体制 …… 2
Ⅲ、調査および整理方法 …… 5
Ⅳ、調査報告
1、第5次調査 …… 9
(1) 調査に至る経過 …… 9
(2) 立地と基本層位 …… 9
(3) 検出遺構 …… 9
(4) 出土遺物 …… 14
(5) 小結 …… 26
2、第6次調査 …… 34
(1) 調査に至る経過 …… 34
(2) 立地と基本層位 …… 35
(3) 検出遺構 …… 35
(4) 出土遺物 …… 35
(5) 小結 …… 38
3、第10次調査 …… 43
(1) 調査に至る経過 …… 43
(2) 立地と基本層位 …… 43
(3) 検出遺構 …… 43
(4) 出土遺物 …… 43
(5) 小結 …… 43
4、第15次調査 …… 45
(1) 調査に至る経過 …… 45
(2) 立地と基本層位 …… 45
(3) 検出遺構 …… 46
(4) 出土遺物 …… 51
(5) 小結 …… 70
5、第16次調査 …… 78
(1) 調査に至る経過 …… 78
(2) 立地と基本層位 …… 78
(3) 検出遺構 …… 79
(4) 出土遺物 …… 80
(5) 小結 …… 81
6、第17次調査 …… 84
(1) 調査に至る経過 …… 84
(2) 立地と基本層位 …… 84
(3) 検出遺構 …… 84
(4) 出土遺物 …… 85
(5) 小結 …… 85
7、第19次調査 …… 86
(1) 調査に至る経過 …… 86
(2) 立地と基本層位 …… 86
(3) 検出遺構 …… 86
(4) 出土遺物 …… 92
(5) 小結 …… 103
8、第21次調査 …… 108
(1) 調査に至る経過 …… 108
(2) 立地と基本層位 …… 108
(3) 検出遺構 …… 108
(4) 出土遺物 …… 110
(5) 小結 …… 116
Ⅴ、調査まとめ …… 121

写真図版……主な遺構および遺物写真
付録……CD（遺構および遺物写真）

I、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に脊振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。二つの平野に挟まれたこの狭い平野に古代には大宰府政庁が置かれ、政庁の博多側には水城の土塁が築造されたほか、大野城・基肄城・阿志岐城などの古代山城が周囲の山々に築造されるなど、いわゆる羅城を形成していたと考えられる。

古代にはこの狭い平野の北端に大宰府政庁を置き、前面にいわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。その規模は南北22条、東西各12坊におよび、南辺部は筑紫野市まで広がっている。条坊の外側西部では、カヤノ遺跡で7世紀末～8世紀初頃の掘立柱建物群が確認され、宮ノ本遺跡では官人墓地が約100基確認されている。

原遺跡は四王寺山の南裏麓に位置し、一帯は原山無量寺（原八坊）があったとされる場所である。原山無量寺は9世紀に創建された天台宗の寺院で、大宰府に左遷された菅原道真が延喜3(903)年に亡くなった際に、原山無量寺が葬儀を執り行ったとされている。しかし、古代の文献資料がほとんどなく、発掘調査でも創建時に遡るような明確な遺構はほとんど確認されていない。遺構としては平安後期以降に寺院の存在を示すような礎石建物や石垣などが見つかり、12～14世紀にかけて遺構や遺物が最も多く見つかっている。文献史料でも中世から「原山」のことが散見される。元弘3(1333)年には、尊良親王が原山に入り、延元元(1336)年には新田義貞らとの戦いに敗れ、九州に下った足利尊氏は多々良浜の戦いで菊池勢を破ったあと、この原山の一坊に入ったとされている。しかし、天正14(1587)年の岩屋城の戦いにより、全て灰燼に帰した後、原八坊の僧侶たちは下山し、安楽寺天満宮に奉仕する社僧になったといわれている。

原遺跡が所在する四王寺山には、宝亀5(774)年に四王院が創建されている（『扶桑略記』）。この時期は新羅との緊張が高まった頃で、建立の目的は新羅による宗教的呪詛に対抗するためであった。その後円珍が滞在した記録もあり、天正14(1586)年の岩屋城の戦いで焼失するまでは存続していたと言われている。

四王寺山の南麓には観世音寺がある。『続日本紀』によると、天智天皇が斉明天皇の菩提と弔うために発願した寺とされ、天平18(746)年に落慶供養が行われている。天平宝字5(761)年に戒壇院を設け、府の大寺として発展していき、中世には49の子院があったとされている。創建後度重なる火災や大風、戦乱によって堂宇は失われ、中世後半に至る頃には衰微していたものの、現在残る仏像群が当時の隆盛を物語っている。

四王寺山の東側平野部には、太宰府天満宮が所在するが、これは菅原道真が延喜3(903)年に亡くなったと葬られた場所に、延喜5(905)年に廟を建立したのが始まりとされ、その後中世・近世と発展し現在に至っている。

Ⅱ、調査体制

(昭和 62 ／ 1987 年度) ・・・第 5 次調査

総括	教育長	藤　寿人
庶務	社会教育課長	花田勝彦
	文化財係長	鬼木冨士夫
	主事	岡部大治　白水伸司
調査	技師	山本信夫　狭川真一（調査担当）　緒方俊輔
	技師（嘱託）	山村信榮（62 年 9 月 1 日～）（調査担当）

(昭和 63 ／ 1988 年度) ・・・第 6 次調査

総括	教育長	藤　寿人
庶務	教育部長	西山義則（63 年 12 月 1 日～）
	社会教育課長	花田勝彦（～ 63 年 11 月 30 日）
		間岡　勉（63 年 12 月 1 日～）
	文化財係長	鬼木冨士夫
	主事	岡部大治（63 年 12 月 1 日～）
		白水伸司
		川原和典（～ 63 年 11 月 30 日）
調査	技師	山本信夫　狭川真一（調査担当）　緒方俊輔（調査担当）
	技師（嘱託）	山村信榮

(平成 4 ／ 1992 年度) ・・・第 10 次調査

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	中川シゲ子
	文化課長	佐藤恭宏
	埋蔵文化財係長	高田克二
	文化振興係長	大田重信
	主任主事	岡部大治　川谷　豊
調査	主任技師	山本信夫（調査担当）　狭川真一　城戸康利
		緒方俊輔（調査担当）　山村信榮（4 年 7 月 1 日～）
	技師	山村信榮（～ 4 年 6 月 30 日）
		中島恒次郎　塩地潤一
	技師（嘱託）	田中克子（調査担当）

(平成 10 ／ 1998 年度) ・・・第 15 次調査

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	小田勝弥
	文化財課長	津田秀司
	文化財保護係長	和田敏信

	文化財調査係長	山本信夫
	主任主事	藤井泰人
	主事	今村江利子
	嘱託	鈴木弘江
調査	技術主査	狭川真一
	主任技師	城戸康利　山村信榮（調査担当）　中島恒次郎　井上信正
	技師	髙橋　学　宮崎亮一
	技師（嘱託）	下川可容子　森田レイ子

(平成 11 ／ 1999 年度) ・・・第 16 次調査

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	小田勝弥（～ 6 月 30 日）
		白石純一（7 月 1 日～）
	文化財課長	津田秀司
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	山本信夫
	主任主事	藤井泰人
		今村江利子（～ 6 月 30 日）
		野寄美希（7 月 1 日～）
	嘱託	鈴木弘江
調査	技術主査	城戸康利
	主任技師	山村信榮（調査担当）　中島恒次郎　井上信正
	技師	髙橋　学　宮崎亮一
	技師（嘱託）	下川可容子　森田レイ子

(平成 13 ／ 2001 年度) ・・・第 17 次調査

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	白石純一
	文化財課長	木村和美
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	神原　稔
	事務主査	藤井泰人
	主任主事	大石敬介
調査	主任主査	城戸康利
	主任技師	山村信榮　中島恒次郎　井上信正　髙橋　学
		宮崎亮一（調査担当）
	技師（嘱託）	下川可容子　森田レイ子　佐藤道文

(平成 18 ／ 2006 年度) ・・・第 19 次調査

総括	教育長	關　敏治

庶務	教育部長	松永栄人
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	齋藤実貴男
		吉原慎一（7月1日～）
	事務主査	大石敬介（～6月30日）
調査	主任主査	城戸康利　山村信榮（調査担当）　中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	髙橋　学　宮崎亮一
	技師（嘱託）	柳　智子　下高大輔

（平成19／2007年度）・・・第21次調査

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松永栄人（～9月30日）
		松田幸夫（10月1日～）
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	久保山元信（～9月30日）
		菊武良一（10月1日～）
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	吉原慎一　齋藤実貴男
調査	主任主査	城戸康利　山村信榮　中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	髙橋　学　宮崎亮一（調査担当）
	技師（嘱託）	柳　智子　下高大輔　大塚正樹　塩野晋平

（平成25／2013年度）・・・報告書発行

総括	教育長	木村甚治
庶務	教育部長	今泉憲治
	文化財課長	菊武良一
	文化財副課長	城戸康利
	保護活用係長	友添浩一
	調査係長	山村信榮
	事務主査	橋川史典（～6月30日）
		廣見京子（7月1日～）
	主事	古川あや　有田ゆきな
調査	主任主査	井上信正　髙橋　学　宮崎亮一
	主任技師	遠藤　茜
	技師	沖田正大（10月1日～）　中村茂央（10月1日～）
	事務取扱	中島恒次郎（景観歴史のまち推進係長・文化財課併任）

Ⅲ、調査および整理方法

調査および整理方法については、『太宰府・佐野地区遺跡群Ⅰ』（太宰府市の文化財第14集 1989）、『太宰府市における埋蔵文化財調査指針』（太宰府市教育委員会 2001年9月改訂）に基づいている。

調査では、表土剥ぎをバックホーによって行った。遺構図や土層図は適時1/20等で記録し、遺構全体図は人力によって1/20の縮尺で実測を行った。調査の写真撮影は、ブローニーフィルムを中心に35mmフィルム等で行い、遺物の写真撮影は全てデジタルカメラを使用している。

整理報告に際し、国内からの搬入品については形状が確認できるものは極力報告することに努めたが、整理報告作業の効率化と報告書のスリム化のため、規格性が強い輸入陶磁器については『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類－』を基に分類し、出土遺物一覧表に分類と破片数を掲載したのみで、実測作業は基本的に行っていない。しかし、未分類のものや稀な陶磁器などについては実測し報告している。よって、遺構時期の検証については、出土遺物一覧表も同時に確認して頂きたい。

また、今回の調査では土師器が多量に出土した調査区も多い。土師器の小皿や坏については、規格性を持って生産され、形状に変化を見出せないため、実測図は削減し、時期的に違いが応じる大きさや調整について観察を行い、計測表としてまとめている。

これらの調査で得られた出土遺物や実測図は太宰府市文化ふれあい館に保管している。

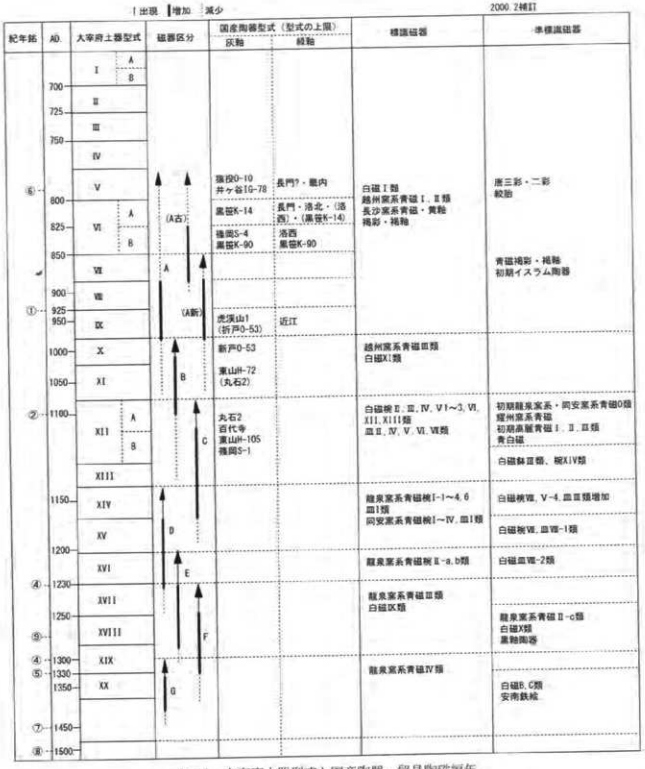
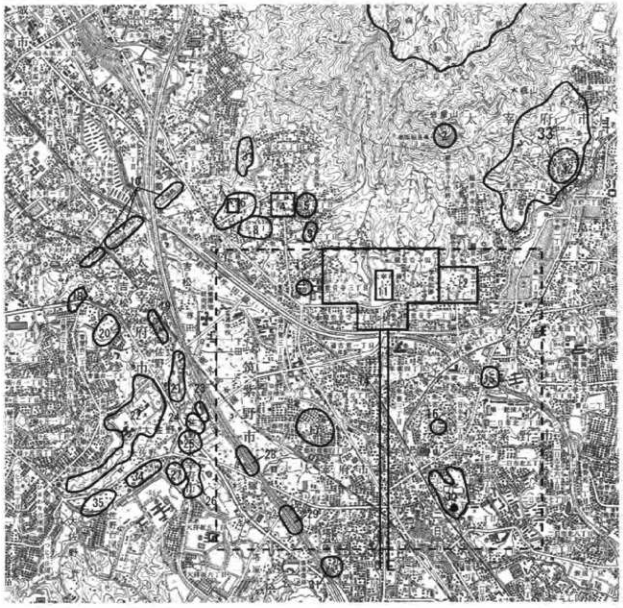


Fig. 1　大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁編年

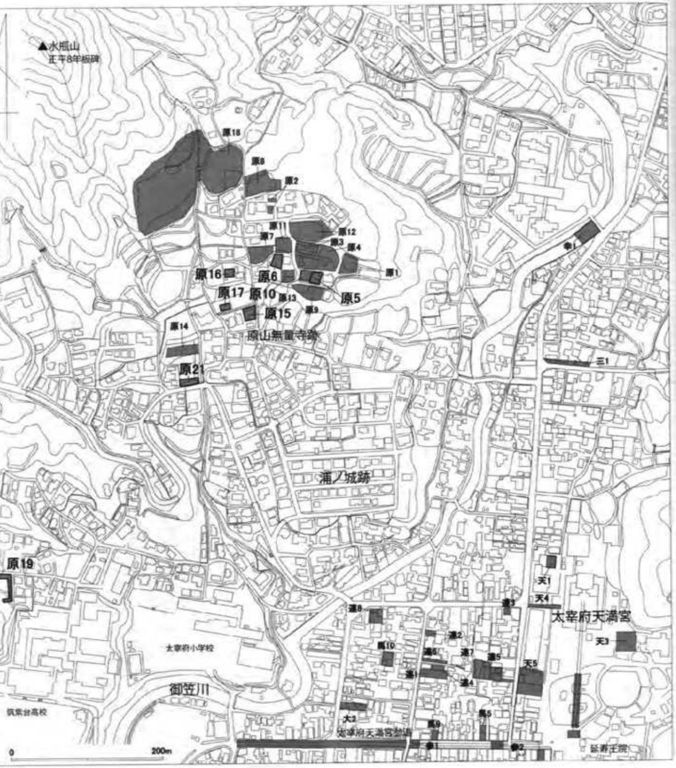
紀年銘資料
①A.D. 927　延長5年, 大宰府74次SD205A溝
②A.D. 1091　寛治5年, 平安京左京4条1坊SE8井戸
③A.D. 1224　貞応3年, 大宰府33次SD605溝
④A.D. 1304　嘉元2年, 大宰府109・111次SD3200溝
⑤A.D. 1330　元徳2年, 大宰府45次SX1200池
⑥A.D. 784　延暦3年, 長岡京102次SD1091溝
⑦A.D. 1459・1465　長禄3・寛正5年, 福岡市井相田C11・SE16池
⑧A.D. 1501　文亀元年, 大宰府70次SD1805溝
⑨A.D. 1265　文永2年, 博多62次713土壙

文献
①九州歴史資料館　「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
②田辺昭三・吉川義彦　「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会
③九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
④九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
⑤九州歴史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
⑥長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1988
⑦福岡市教育委員会「井相田C遺跡11」「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988
⑧九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
⑨福岡市教育委員会「博多48」「福岡市埋蔵文化財調査報告書397」1995



1. 大野城跡
2. 岩屋城跡
3. 陣ノ尾遺跡
4. 筑前国分寺跡
5. 辻遺跡
6. 国分松本遺跡
7. 筑前国分尼寺跡
8. 国分千足町遺跡
9. 御笠団印出土地
10. 水城跡
11. 大宰府政庁跡
12. 観世音寺
13. 通賀団印出土地
14. 大宰府条坊跡(破線内)
15. 君畑遺跡
16. 般若寺跡
17. 市ノ上遺跡
18. 神ノ前窯跡
19. 原口遺跡
20. 篠振遺跡
21. 前田遺跡
22. 宮ノ本遺跡
23. 麓川遺跡
24. フケ遺跡
25. 尾崎遺跡
26. 脇遺遺跡
27. 殿城戸遺跡
28. 剣塚遺跡
29. 唐人塚遺跡
30. 峯・峯畑遺跡（●は峯火葬墓）
31. 太宰府天満宮(安楽寺跡)
32. 浦城跡
33. 原遺跡（報告地点）
34. 京ノ尾遺跡
35. カヤノ遺跡

Fig. 2　太宰府市とその周辺の遺跡（1/30000）



略称
馬・・・馬場遺跡
天・・・太宰府天満宮遺跡
参・・・太宰府天満宮参道遺跡
連・・・連歌屋遺跡
大・・・大町遺跡
三・・・三条遺跡
幸・・・幸ノ元井堰

Fig. 3 調査地とその周辺調査地点（1/5000）

Ⅳ、調査報告

1、原遺跡第5次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市大字太宰府1739-1で、個人住宅の基礎工事によって遺構に影響が及ぶため、発掘調査をすることとなった。調査は狭川真一・山村信榮が担当し、昭和62(1987)年11月6日～12月11日に実施した。開発対象面積は859㎡で、調査面積は120㎡である。

(2) 立地と基本層位

調査地付近は四王寺山南東裾の標高約80mに展開する中世寺院通称「原八坊」の寺域内、推定中堂の下方に位置する。調査前の調査地は宅地で、東西に長い段状の造成地に位置する。

基本層位は表面の有機質な黒色土壌の下に宅地造成に伴う橙色、淡灰色、暗灰色の造成土があり（以上、表土）、調査区北西側では黄色土、黒褐色土、暗茶色土の順で遺物包含層が検出された。そのうち黄色土は第4次調査でも検出され、周辺の広域に存在する層と見られる。015区の東側は下の造成面に傾斜するが、ここでは黄色土の上に礫が多く入る茶灰色土が乗っている。先の暗茶色土の下は遺構検出面となっているが、包含層は部位によっては南西に行くに従い茶色土、暗灰色土、茶褐色土などに漸移している。

(3) 検出遺構

掘立柱建物

5SB065（Fig. 6）

調査区中央で検出された南北1間、東西3間の建物で、検出長は桁行7.2m、梁行1.8mで、柱間は平均2.6m、方位はW-11°19′-Nを示す。柱掘方の残りは深さ30～40cm程度であった。地形が落ちるためこれより東側への延伸はない。

5SB075（Fig. 6）

調査区南側で検出された南北1間、東西2間の建物で、検出長は桁行3.7m、梁行1.8mで、柱間は平均1.8m、方位はW-13°4′-Nを示す。5SB065に並行するような小型の建物で、柱掘方の残りは深さ30～40cm程度であった。5SB065同様に地形が落ちるためこれより東側への延伸はない。

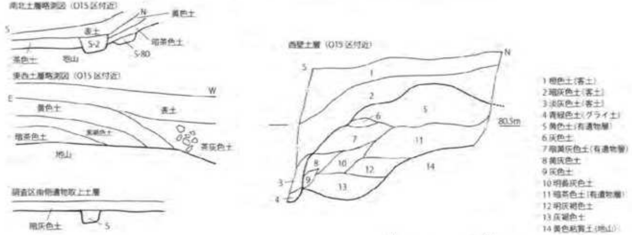


Fig. 4 調査区土層模式図及び西壁（015区）土層実測図（1/40）

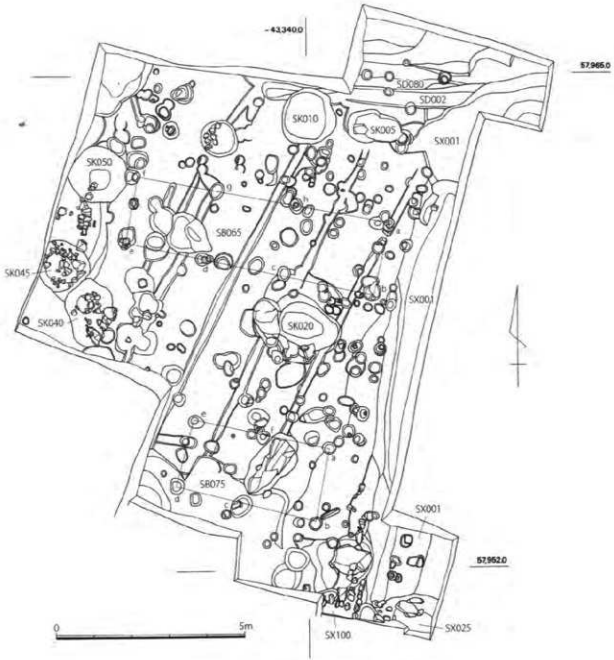


Fig. 5　第5次調査遺構全体図（1/100）

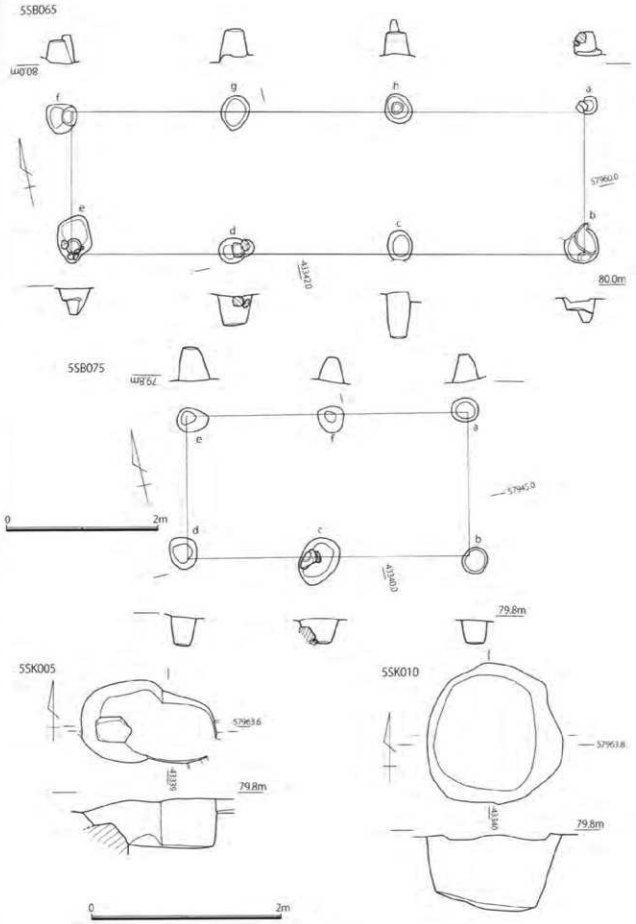


Fig. 6　SSB065・075、SSK005・010 遺構実測図（1/40、1/50）

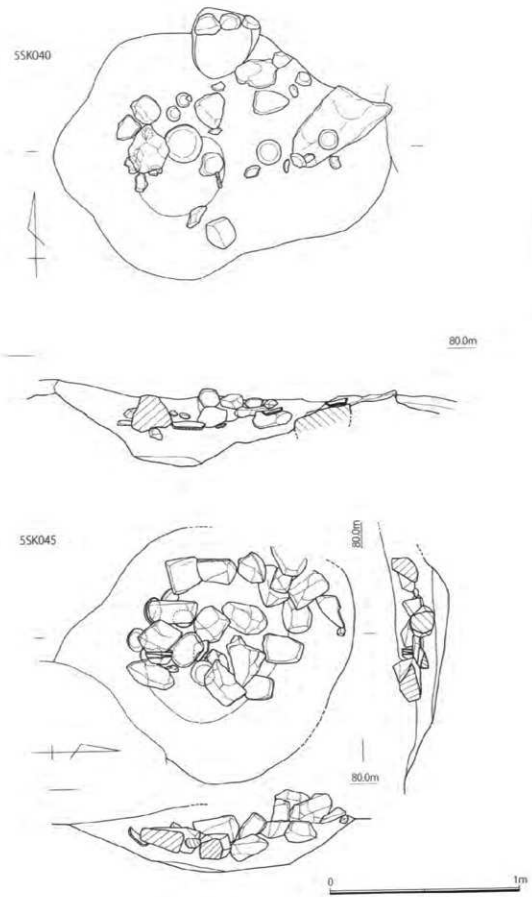


Fig. 7　5SK040・045 遺構実測図（1/20）

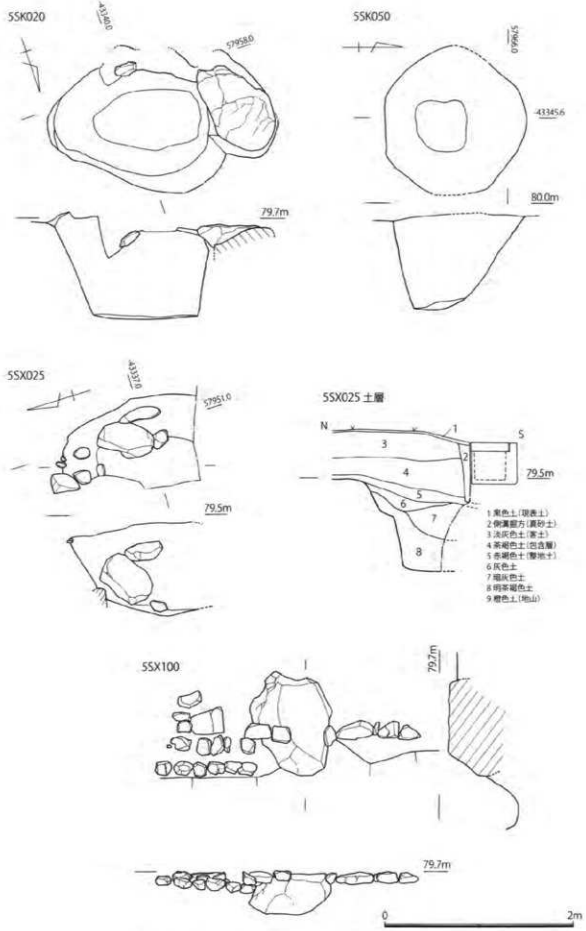


Fig. 8　5SK020・050、SX025・100 遺構実測図（1/40）

土坑

5SK005 (Fig.6)

調査区北側で検出された南北0.8m、東西1.4m、深さ0.5mの東西に長い土坑である。13世紀代の遺物が出土している。

5SK010 (Fig.6)

調査区北側、5SK005の西側で検出された南北1.5m、東西1.4m、深さ0.8mの隅丸方形を呈す土坑である。13世紀代の遺物と鉱滓が出土している。

5SK020 (Fig.8)

調査区中央付近で検出された南北1.9m、東西1.2m、深さ1.1mの楕円形を呈す土坑である。掘方西側に花崗岩の露頭があり、それを避けて掘ったような位置関係にある。礫が多く混じり、下層は灰色の粘質土であった。12世紀代の遺物が出土している。

5SK040 (Fig.7)

調査区西側で検出された南北1.3m、東西1.8m、深さ0.4mのすり鉢状を呈す土坑で、埋土上層から礫と土器群が検出されている。13世紀代の遺物と鉱滓が出土している。

5SK045 (Fig.7)

調査区西側で検出された南北1.4m、東西1.5m、深さ0.3mのすり鉢状を呈す土坑で、埋土上層から礫と土器群が検出されている。5SK040に遅れて形成される。

5SK050 (Fig.8)

調査区西側で検出された南北1.6m、東西1.5m、深さ1.0mのすり鉢状を呈す土坑で、12世紀代の遺物が出土している。

段状遺構

5SX001・025・100 (Fig.8)

調査区南西側で検出された遺構で、調査区東辺に南北に延びる大きな落ち5SX001があり、その西側の落ち際に花崗岩の大石とそれを取り込む形で直線的に石を並べた遺構5SX100がある。遺構全体は検出面が東に急落する地形になっており、5SX025は落ちに対してステップを刻むように1mほど掘り窪められた遺構のように見える。調査区の南は東西方向の現道路に接するが、この道路の南側、5SX025の対面に位置する場所にはこの遺跡が形成された段造成面の下の段に下る小径のスロープがあり、これが古道として生きている可能性がある。とすれば5SX025と連続する5SX100はこのスロープからこの遺構が展開する面への入口のステップであった可能性が考えられる。

(4) 出土遺物

溝

5SD002 出土遺物 (Fig.9、Pla.9)

土師器

坏c×皿c (1) 底径が8.2cmほどに復元される。

石製品

石鍋A類 (2) 口径18.2cm、高さ8.8cm、底径10.8cmに復元される小型のものである。外面下半部に煤が付着している。

5SD003 出土遺物 (Fig.9)

瓦質土器

火鉢 (3) 輪花状の平面形を呈す。新安の沈没船出土遺物に類例があるタイプのものである。

土製品

焼土塊 (4) 長さ6.9cm、幅6.0cm、厚さ4.2cmの橙色を呈す土師質のもので、工具を押し当てたような痕跡がある。

石製品

砥石 (5) 長さ13.8cm、幅12.1cm、厚さ7.4cmの砂岩を用いた荒砥石である。4面が使用される。

5SD080 出土遺物 (Fig.9)

土師器

小皿a (6) 口径9.6cm、高さ1.3cm、底径7.2cmに復元される。底部は糸切りが残る。

土坑

5SK005 出土遺物 (Fig.9)

土師器

小皿a (7、8) 7は口径8.0cm、高さ1.3cm、底径6.4cm、8は口径8.3cm、高さ1.1cm、底径6.4cmに復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

坏a (9、10) 9は口径12.0cm、高さ2.6cm、底径8.4cm、10は口径11.5cm、高さ2.2cm、底径9.2cmに復元される。底部は糸切りと板状圧痕が残る。

器台 (11) 口径7.2cm、高さ7.9cm、底径5.0cmに復元される。土師質でロクロ成形した皿に手づくねの脚を付ける。皿の中央は穿孔している。

須恵質土器

甕 (12) 厚さ1.3cmの灰色を呈す。外面に並行刻みのタタキがあり、内面は横方向のナデを施す。

土製品

瓦玉 (13) 長さ3.1cm、幅2.7cm、厚さ2.32cmの灰色を呈す瓦質のもので、形状は円盤形というより球形に近い。

焼土塊 (14) 長さ3.6cm、幅3.3cm、厚さ2.8cmの灰橙色を呈す土師質のもので、平坦な面があることから土壁の可能性がある。

5SK010 灰茶色粘土出土遺物 (Fig.9)

土師器

坏a (15、16) 15は口径14.7cm、高さ3.0cm、底径9.5cm、16は口径15.3cm、高さ3.0cm、底径11.0cmに復元される。底部は糸切りで2はやや内から外に押し出し気味に成形される。

土製品

瓦玉 (17) 長さ2.9cm、幅2.5cm、厚さ2.7cmの灰色を呈す瓦質のもので、瓦の表皮部分を残している。

5SK010 出土遺物 (Fig.9)

金属類

鉱滓 (18、19) 18は高さ2.4cm、幅2.1cm、厚さ約1.5cm、19は高さ2.3cm、幅2.0cm、厚さ約1.4cmで灰色を基調とし黄褐色の斑の入る鉱物質の滓である。

5SK020 上層出土遺物 (Fig.10)

土師器

小皿a (1) 口径8.0cm、高さ1.3cm、底径6.4cmに復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

坏a (2～4) 2は口径12.6cm、高さ2.8cm、底径8.1cm、3は口径12.8cm、高さ3.0cm、底径10.0cm、4は口径12.9cm、高さ2.6cm、底径8.8cmに復元される。4の底部は糸切りで板状圧痕が残る。

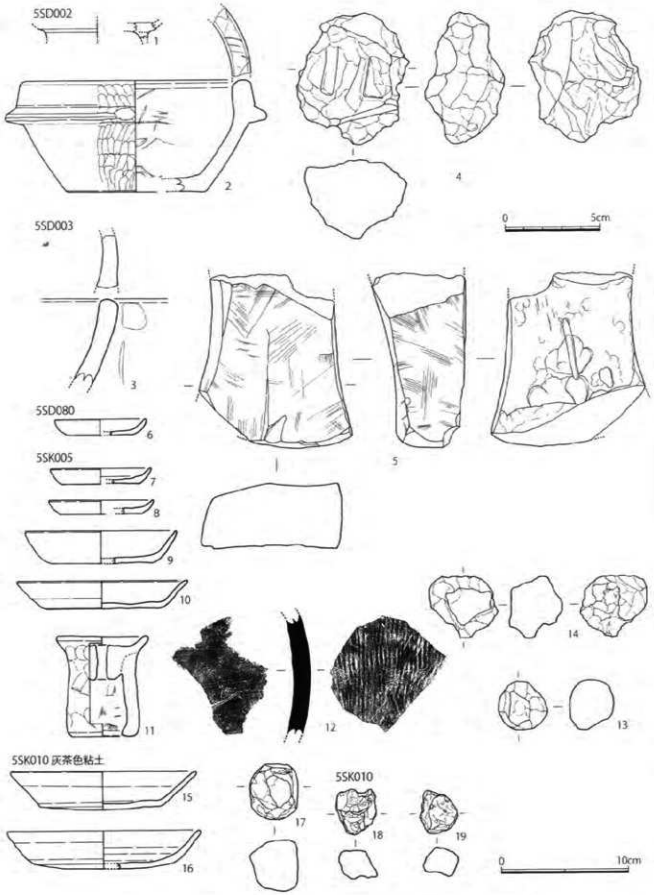


Fig. 9　5SD002・003・080、SK005・010 出土遺物実測図（1/2、1/3）

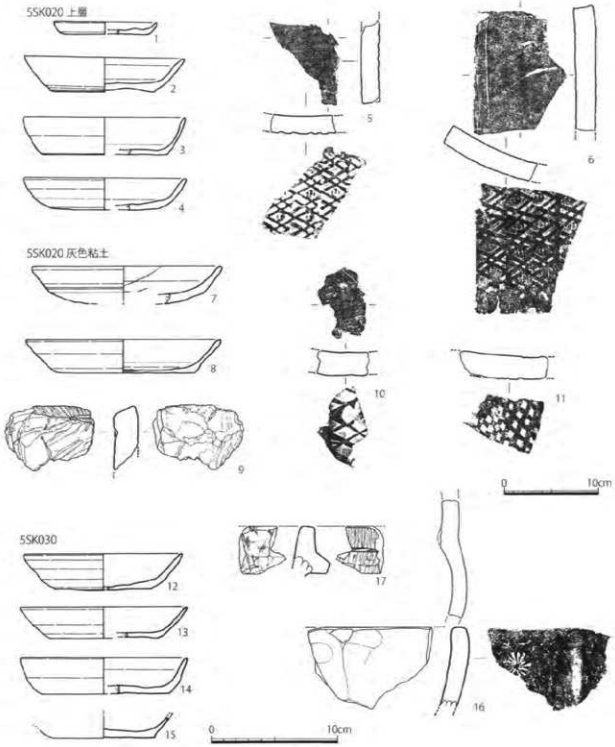


Fig. 10　5SK020・030 出土遺物実測図（1/3、1/4）

瓦類

平瓦（5、6）5は厚さ約2.0cmで硬い須恵質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。格子目中に「小」のような文様が一対入る。6は厚さ約2.2cmで硬い須恵質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。格子目中に丸に点のような文様が縦に4つ連続して入る。

5SK020 灰色粘土出土遺物（Fig. 10）

土師器

丸底坏ａ（7）　口径15.0cm、高さ3.0cm、底径12.2cmに復元される。底部はヘラ切りか。

坏ａ（8）　口径15.9cm、高さ2.7cm、底径11.0cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が残る。

石製品

滑石加工品（9）　滑石を方形に切断したもので、長さ7.1cm、幅5.1cm、厚さ1.9cmである。

瓦類

平瓦（10、11）　10は厚さ約2.6cmで須恵質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。格子目中に菱形に4弁の花びら文様が入る。11は厚さ約2.5cmで柔らかい瓦質に焼成される。線が太い格子目が施され老司式の可能性がある。

5SK030 出土遺物（Fig. 10）

土師器

坏ａ（12～15）　12は口径12.6cm、高さ2.9cm、底径7.8cm、13は口径13.2cm、高さ2.5cm、底径8.6cm、14は口径13.2cm、高さ2.9cm、底径10.2cm、15は底径8.2cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が残る。

瓦質土器

火鉢（16）　直立気味に立ち上がる口縁を持ち、輪花状の平面形を呈す。外面には菊花文のスタンプを押す。焼成は淡黄灰色を呈す。5SD003出土例と同じタイプのものである。

石製品

石鏃Ｂ（17）　鍔を持つ形状のもので、口縁外面に煤が付着している。

5SK035 灰色粘土出土遺物（Fig. 11）

土師器

小皿ａ（1）　口径7.7cm、高さ1.1m、底径6.1cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が残る。

坏ａ（2）　口径11.8cm、高さ2.6cm、底径8.5cmに復元される。底部には板状圧痕が残る。

瓦質土器

擂鉢（3）　厚さ1cmで内面はハケの上に3条を単位とする擂り目が施される。

5SK035 茶色砂出土遺物（Fig. 11）

土師器

小皿ａ（4）　口径8.2cm、高さ1.3m、底径6.4cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が残る。

皿ａ（5、6）　5は口径11.2cm、高さ1.1cm、底径8.2cm、6は口径12.4cm、高さ1.4cm、底径10.4cmに復元される。5には底部は回転糸切り痕が残る。

坏ａ（7）　口径10.4cm、高さ2.2cm、底径7.6cmに復元される。

大皿ａ（8）　厚さ1.2cm、高さ2.7cmに復元される。

5SK039 出土遺物（Fig. 11）

土師器

坏ａ（9、10）　9は口径12.8cm、高さ2.6cm、底径8.2cm、10は口径12.8cm、高さ2.7cm、底径8.6cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

5SK040 出土遺物（Fig. 11）

金属類

鉱滓（11）　長さ3.2cm、幅2.3cm、厚さ約1.5cmの黒灰色を基調とした鉱物質の滓である。

5SK050 出土遺物（Fig. 11）

須恵質土器

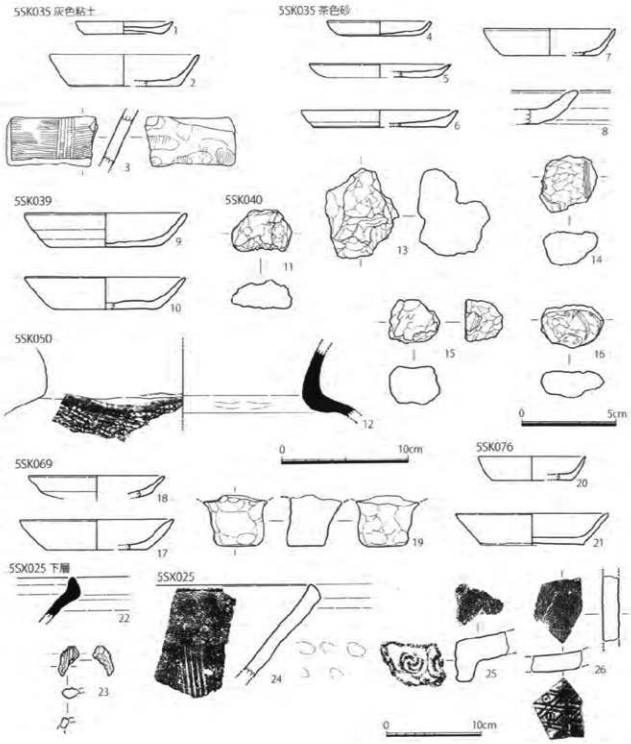


Fig. 11　5SK035・039・040・050・069・076、SX025出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

甕（12）　頸部の径が22cmに復元される硬質の甕で、胴部外面に疑似格子目のタタキと内面に同心円状の充て具痕跡が僅かに残る。

土製品

焼土塊（13～16）　橙色を基調とし藁状の植物繊維のスサを含む。15には平坦な面があり土壁の可能性がある。

5SK069 出土遺物（Fig. 11）

土師器

坏a（17）　口径12.2cm、高さ2.4cm、底径8.1cmに復元される。

黒色土器B類

皿（18）　口径10.8cm、高さ1.7cmに復元される。内面に手持ちのミガキcがわずかに残る。底部はやや膨らむ形状になる。

土師質土器

鉢(19)　鉢類の脚部で指押しによる装飾のない柱状の造形。高さ4.0cm、幅4.2cm、奥行3.2cmを測る。

5SK076 出土遺物（Fig. 11）

土師器

小皿b（20）　口径8.4cm、高さ1.9cm、底径6.4cmに復元される。底部は糸切り。

坏a（21）　口径12.1cm、高さ2.5cm、底径8.2cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

その他の遺構

5SX001 灰褐色土出土遺物（Fig. 12）

土師器

坏a（1）　口径12.0cm、高さ2.0cm、底径8.6cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

須恵質土器

鉢(2)　口縁端部は内面に強いナデが施され、玉縁状になる。片口の部分が一部残る。東播系の製品か。

土師質土器

鉢（3）　内反り気味に立ち上がり先に厚みのある口縁の形状を呈す。

瓦質土器

鉢（4）　内反り気味に開き、先に若干厚みのある口縁の形状を呈す。片口の部分が一部残る。

擂鉢（5）　底径13.0cmに復元され、内面に4条を単位とする擂り目を持つ。

石製品

硯（6）　輪花状の波打つ外周を持つもので、縁の立ち上がりが欠損する。厚さ1.0cm。緑色片岩製とみられる。

瓦類

平瓦（7、8）　灰色を呈し硬質の須恵質のもので、7は二重正格子目の叩きを持つ。8は叩き目が大きめの二重斜格子で、その内面の布目の目は3mm程度ありかなり粗い。

5SX001 茶褐色土出土遺物（Fig. 12、Pla. 9）

土師器

小皿a（9）　口径7.8cm、高さ1.2cm、底径5.0cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

石製品

石鍋B（10）　口径17.4cmに復元され、現存高4.8cm。鍔を持つ形状のもので、外面全体に煤が付着している。

瓦類

平瓦（11、12）　11は厚さ2.3cmで灰白色の瓦質で、目が大きめの二重斜格子、12は灰白色の須恵質で、斜格子目のタタキを持つ。12の内面の布目の目はやや粗い。

5SX001 北辺石溜まり出土遺物（Fig. 12）

石製品

石鍋C（13）　ごく小さな鍔を持つ形状のもので、外面全体に煤が付着している。

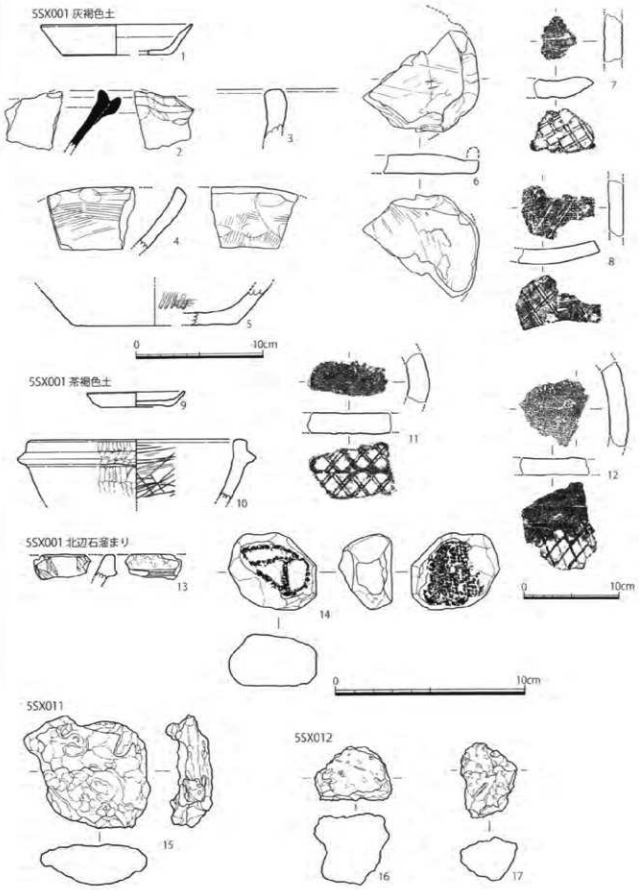


Fig. 12　5SX001・011・012出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

土製品

瓦玉（14） 灰色で硬質な須恵質の瓦が用いられ、長さ4.7cm、幅4.1cm、厚さ約2.8cmを測る。

5SX011 出土遺物（Fig. 12）

金属類

鉱滓（15） 長さ6.7cm、幅6.0cm、厚さ2.3cmの鉄錆が表面を覆う金属質で椀形の滓である。

5SX012 出土遺物（Fig. 12）

土製品

焼土塊（16、17） 植物繊維を含み、茶褐色から橙色を呈す土師質のもので、16には平坦な面があり、土壁の可能性がある。

5SX024 出土遺物（Fig. 13）

金属類

鉱滓（1） 長さ4.0cm、幅3.0cm、厚さ2.4cmで、茶褐色を呈し金属質である。

5SX025 下層出土遺物（Fig. 11）

須恵質土器

鉢（22） 口縁端部は内面に強いナデが施され、上方に屈曲したような形状は東播系の13世紀代の様相と見られる。

緑釉陶器

器種不明（23） 長さ2.4cmほどの小片で、内面に指押さえが見られ、外面は条線が入る。型を用いた製品で、胎土はやや黄色がかった白色で極めの細かな精製土であり、釉薬は光沢のない緑色である。胎土や製法から中国産の調度品である可能性も考えられる。

5SX025 出土遺物（Fig. 11）

瓦質土器

擂鉢（24） 口縁端部は玉縁状にならず、内面はハケの上に5条を単位とする擂り目が施される。

瓦類

軒平瓦（25） 厚さ約2.5cmで硬質の須恵質に焼成される。瓦当面は連続する剣頭文中に三つ巴文が連続して配置される。面のつくりは折り曲げ式の可能性がある。表面は目の細かな布目を有する。

平瓦（26） 厚さ約1.8cmで硬質の須恵質に焼成され、斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。格子目中に丸に点のような文様が縦に2つ連続して入る。

5SX026 出土遺物（Fig. 13）

金属類

鉱滓（2） 長さ4.4cm、幅3.4cm、厚さ2.5cmで、茶褐色、黒色を呈し金属質のものである。

5SX055 出土遺物（Fig. 13）

土師器

坏a（3） 口径12.8cm、高さ2.5cm、底径8.6cmに復元される。底部は糸切りが見られる。

5SX060 出土遺物（Fig. 13）

土師器

小皿a（4） 口径9.8cm、高さ1.0cm、底径7.4cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

坏a（5） 口径12.3cm、高さ2.5cm、底径8.0cmに復元される。底部は糸切りが見られる。

瓦質土器

鉢（6） 内面は横方向のハケ目、外面は指押さえの上にハケ目が残る。

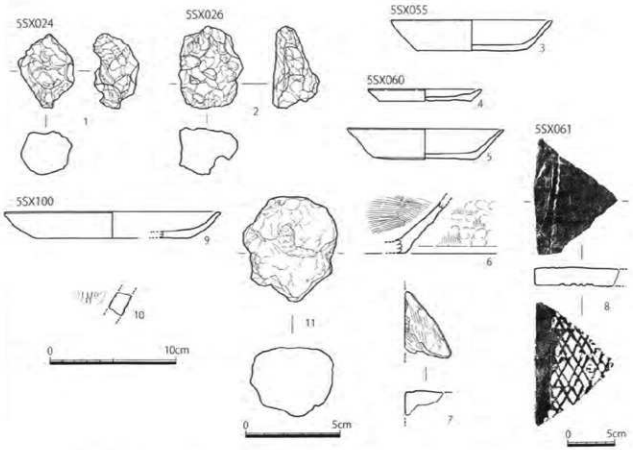


Fig. 13 5SX024・026・055・060・061・100出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

石製品

滑石加工品（7） 滑石を方形に切断したもので、長さ3.4cm、幅2.4cm、厚さ1.2cmが残る。

5SX061 出土遺物（Fig. 13）

瓦類

平瓦（8） 厚さ約2.0cmで硬い須恵質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。格子目中に丸に点のような文様が縦に連続して入る。

5SX100 出土遺物（Fig. 13）

土師器

皿a（9） 口径17.1cm、高さ2.1cm、底径12.4cmに復元される。底部はヘラ切り。

瓦質土器

鉢（10） 色調は黄灰色を呈し、内面には縦方向の擂り目のような痕跡が残る。

土製品

焼土塊（11） 胎土は植物繊維を含み、淡褐色の土師質を呈す。長さ5.5cm、幅4.9cm、厚さ3.6cmが残る。

暗灰色土出土遺物（Fig. 14、Pla. 9）

土師器

小皿a（1、2） 1は口径6.9cm、高さ1.2cm、底径5.2cm。2は口径7.5cm、高さ1.1cm、底径6.0cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

坏a（3） 口径12.0cm、高さ2.6cm、底径8.6cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

大皿a（4） 底径14.6cmに復元される。底部はヘラ切りか、板状圧痕が見られる。

土師質土器

鉢（5）　口縁上面に平坦面があり、連続した三つ巴文のスタンプを連続して押印する。黄褐色を呈す。火舎と呼ばれることもある。

産地不明陶器

椀（6）　硬質で赤茶褐色を呈す中国陶器の甕に見られるような粗い胎土を持ち、ケズリ込み高台に黒灰色の目跡が3箇所以上に残る。釉は灰色に近いくすんだオリーブ色で内底部には施さない。作りから中国産と考えられるが、産地は不明である。

瓦類

丸瓦（7）　厚さ2.2cmで、暗灰色で硬質な須恵質の焼成で、二重斜格子目のタタキを持つ。側辺はヘラで切られて成形されている。

平瓦（8）　厚さ1.5cmで、淡灰色で軟質な瓦質の焼成で目のはっきりした斜格子目のタタキを持つ。

石製品

石鍋C類（9）　口径28.0cmに復元される。鍔はやや退化した小さめのものが採用されている。

砥石（10）　黒灰色の対馬産と思われる泥岩を用いた中砥である。長さ4.4cmの欠損した小片である。

碁石（11）　長さ2.1cm、幅1.6cm、厚さ0.74cmで、白色の長石を素材とする。

茶色土出土遺物（Fig.14）

土師質土器

鉢（12）　淡黄灰色を呈す土師質で、ハ字形に開く高台を持ち、底径は14.8cmに復元される。

瓦類

丸瓦（13）　厚さ1.5cmで、淡灰茶色を呈す須恵質の焼成で、斜格子中に「×」などの文様を入れた目のタタキを持つ。側辺はヘラで切られて成形されている。

平瓦（14）　厚さ2.3cmで、淡灰白色を呈す軟質な瓦質の焼成で、斜格子目のタタキを持つ。

石製品

石鍋C類（15）　高さ5cmほどの小片で、鍔は退化した小さめのものが採用されている。

金属類

鉱滓（16）　長さ8.0cm、幅5.0cm、厚さ3.8cmで、全体に褐色の鉄錆に覆われた椀形滓である。

茶灰色土出土遺物（Fig.14・15）

土師器

小皿a（17～19）　17は口径8.0cm、高さ1.1cm、底径6.0cm、18は口径8.0cm、高さ1.4cm、底径6.3cm、19は口径8.0cm、高さ1.4cm、底径5.6cmを測る。底部は全て糸切りで18には板状圧痕が見られる。

坏a（20）　口径12.4cm、高さ2.5cm、底径8.3cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

瓦質土器

鉢（21、22）　色調は灰褐色を呈し、内面にはハケ目と21には縦方向の擂り目らしい痕跡が残る。21は口径30.2cmに復元される。

火鉢（23）　外面は黒茶褐色を呈すもので、方形の渦巻き文のスタンプを菱形に見えるように横方向に連続して押印し、その下に3条の沈線を施す。内面にはハケ目がわずかに残る。

瓦類

平瓦（24）　厚さ1.8cmで硬い須恵質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。二重格子の目の中に丸に点のような文様が縦に連続して入る。

石製品

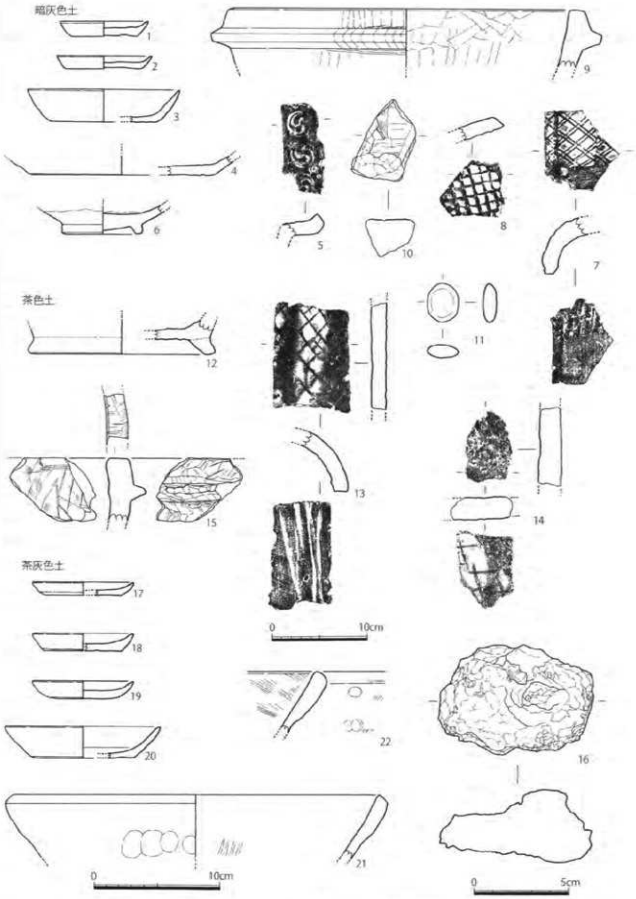


Fig.14　第5次調査暗灰色土・茶色土・茶灰色土出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

剝片（25）　黒曜石で長さ3.1cm、幅2.4cm、厚さ0.8cmを測る。打面再生剥片の可能性がある。

土製品

瓦玉（26）　長さ4.5cm、幅4.3cm、厚さ2.5cmで、灰褐色を呈するやや厚めの瓦質の瓦を使用している。

黄色土出土遺物（Fig.15）

土師器

小皿a（27～30）　27は口径7.8cm、高さ1.1cm、底径6.0cm、28は口径8.2cm、高さ0.9cm、底径6.4cm、29は口径8.7cm、高さ1.2cm、底径6.6cm、30は口径8.5cm、高さ1.1cm、底径6.8cmを測る。底部は糸切りで28と30には板状圧痕が見られる。

坏a（31、32）　31は口径12.3cm、高さ2.5cm、底径8.3cm、32は口径12.0cm、高さ2.51cm、底径8.6cmを測る。32の底部には糸切りと板状圧痕が見られる。

須恵質土器

鉢（33）　色調は淡灰黄色を呈し、口縁は玉縁状になる。東播系のものか。

瓦類

丸瓦(34)　厚さ2.0cmで須恵質に焼成される。斜格子の中に十字の文様が入るタタキ目が外面にあり、内面は布痕跡が残る。

平瓦（35）　厚さ2.2cmで瓦質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。

石製品

石鍋C類（36）　高さ3.7cmほどの小片で、鍔は退化した小さめのものが採用されている。

表土出土遺物（Fig.15、Pl.a.9）

瓦質土器

鉢（37）　淡黄灰色を呈し、厚さが1cmほどあり、大振りなものと思われる。

香炉（38）　淡茶灰色を呈す小型の香炉の脚部分。指先で成形されたもので、高さは5cmほどである。

青白磁

梅瓶（39）　乳白色の精良な胎土に薄い青緑色の透明釉が掛かる。外面にはクシ状工具による渦巻きのような文様が連続して施されている。

国産陶器

甕(40)　淡灰色の焼き締まった胎土をもち、外面に方形の井桁に「×」を組みあわせたタタキを入れる。東海常滑の系統のものか。

灰釉陶器

壺(41)　黄色味のある灰白色の須恵質の胎土に緑灰色の自然釉が掛かる。横方向に1条の沈線が入り、肩の部位と考えられる。

瓦類

丸瓦（42）　厚さ2.2cmで硬い須恵質に焼成される。斜格子の中に縦線が入るタタキ目が外面にあり、内面は布痕跡が残る。

石製品

石鍋B類（43）　現存高6.4cmで、口径は23.6cmに復元される。外面に煤が付着している。

(5) 小結

調査地は北から南に下がる傾斜地に対して東西に長い造成面を形成して利用しており、その面の中で

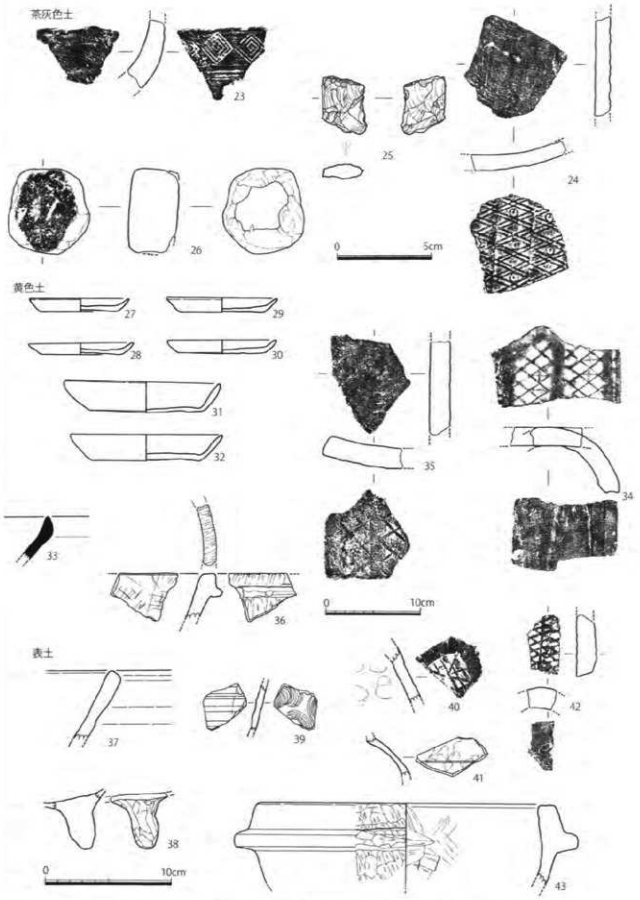


Fig.15　第5次調査茶灰色土・黄色土・表土出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

も南北方向の区切りか通路によって区画された境目から西側の区画にあたっていると考えられた。調査区の南東隅に入り口に関係すると思われる石列を伴う 5SX100 やその全面のステップ状の 5SX025 があり、区画の内部には並行して掘立柱建物 5SB065 と 5SB075 の 2 棟が東寄りに建てられている。建物周辺に 5SK005・010・020・040・045 などが形成され廃棄空間として利用されていた様子が復元される。時期の主体は出土遺物から 13 世紀中頃から後半と見られ、遺構を直接覆う遺物包含層の時期（遺構群の下限を示す時期）も、大きくかけ離れた時期の遺物を持つものではない。この様相は原遺跡の礎石建物を含まない場所での土地利用の典型的なひとつのあり方をシンプルに示しているものと考えられる。

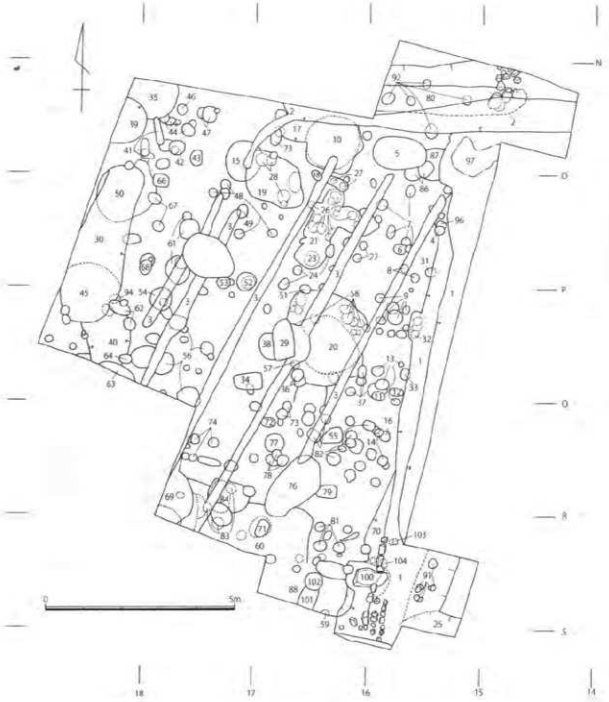


Fig. 16　第 5 次調査遺構略測図（1/100）

表 1、第 5 次調査　遺構一覧表①

S-番号	遺構番号	種別	切り合い等	時期	地区番号
1	5SX001	段落ち		14世紀前半～	15ライン
2	5SD002	溝		近世後期～	O15
3	5SD003	pit			P15
4		pit	1→4		P15
5	5SK005	土坑		13世紀後半～	O15
6		pit			P15
7		pit群			P15
8		pit群	8→3		P15
9		pit群	9→3		Q15
10	5SK010	土坑	10→17→2	13世紀～	O16
11	5SX011	pit			Q15
12	5SX012	pit			Q15
13		pit群			Q15
14		pit群		14世紀前半～	R15
15		土坑			O17
16		pit	16→14	13世紀後半～	R15
17		窪み	10→17→2		O16
18		pit	3→18		P16
19		窪み	15→19		P16
20	5SK020	土坑		12世紀中頃～	Q16
21		窪み		12世紀～	P16
22		pit群		13世紀中頃～	P16
23		pit	23→21	13世紀～	P16
24	5SX024	pit群	21→24		P16
25	5SX025	段状遺構		13世紀後半～	S15
26	5SX026	pit群	26→21	13世紀～	P16
27		pit群			P16
28		pit群	15→28→19		P16
29		pit		13世紀後半～	Q16
30	5SK030	土坑	30→66, 67	13世紀後半～	P18
31		pit	31→1		P15
32		pit	32→1		Q15
33		pit	33→1		Q15
34		pit			Q17
35	5SK035	土坑	35→39	13世紀後半～	O17
36		pit群			Q16
37		pit群	37→29		Q15
38		土坑			Q16
39	5SK039	土坑		13世紀後半～	O18
40	5SK040	土坑		13世紀中頃～	Q18
41		pit群			O17
42		pit	41→42		O17
43		pit			O17
44		pit群			O17
45	5SK045	土坑	30→45	13世紀前半～	Q18
46		pit			O17
47		pit群			O17
48		pit群	48→3		P17
49		pit	49→3		P17
50	5SK050	土坑	30→50		P18
51		pit	51→20		Q16
52		pit		12世紀後半～	P17
53		pit			P17
54		pit			Q17
55	5SX055	pit		13世紀～	R16
56		pit群			Q17
57		pit	57→20		Q16
58		pit群	58→20		Q16
59		カクラン			P17
60	5SX060	溜まり状遺構		13世紀後半～	S16
61	5SX061	pit群			P17
62		pit群	30→62		Q18
63		pit群			Q18
64		pit			Q18
65	5SB065	掘立柱建物			P17
66		pit	30→66		P17
67		pit群	30→67		P17
68		pit			P17
69	5SK069	土坑		12世紀～	R17
70		整地			S15
71		pit	60→71		S16
72		pit	72→3		R16

表1、第5次調査　遺構一覧表②

73		pit群			R16
74		pit群		13世紀後半～	R17
75	5SB075	掘立柱建物			R16
76	5SK076	土坑		13世紀後半～	R16
77		pit			R16
78		pit群			R16
79		土器集積		13世紀後半～	R16
80	5SD080	溝	80→2	12世紀～	O15
81		pit群			S16
82		pit群			R16
83		pit群			R17
84		土坑？	84→83		R17
86		pit群			O15
87		pit	87→86		O15
88		pit	70→88		S16
89		pit			S16
91		pit群	91→1		S15
92		pit群	92→80→2		O15
93		pit	93→2		O16
94		pit	40→94		Q18
96		pit	96→4		P15
97		石溜まり			O15
100	5SX100	段状遺構		13世紀～	S15
101		pit	未完掘		S15
102		pit	未完掘		S15
103		pit	未完掘		S16
104		pit	未完掘		S16

表2　第5次調査　土師器小皿・坏計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-23

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	—	—	7.4	1.1	4.2	○	○

S-25下層

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	—	—	(7.6)	1.2	3.8	○	—
	小皿a	—	—	—	7.8	1.1	4.9	○	—
	小皿a	イト	—	—	(7.2)	1.6	(3.8)	○	○
	小皿a	イト	—	—	(7.8)	1.2	3.8	○	—
	小皿a	イト	—	—	7.5	1.2	3.4	○	×
	坏a	—	—	—	(11.4)	2.4	9.2	○	○
	坏a	イト	—	—	12.4	2.7	7.5	○	○
	坏a	—	—	—	(13.4)	2.4	10.9	○	○
	坏a	—	—	—	(12.8)	2.75	8.2	○	○
	坏a	イト	—	—	12.2	2.6	6.5	○	○
	坏a	イト	—	—	(13.9)	2.6	(7.8)	○	—
	坏a	—	—	—	(12.9)	2.4	8.0	○	—
	坏a	—	—	—	(11.6)	2.0	(7.8)	—	—
	坏a	イト	—	—	(13.2)	2.8	(9.0)	○	○
	坏a	イト	—	—	(12.2)	2.9	8.6	○	○
	坏a	—	—	—	(13.4)	2.4	10.9	○	—
	坏a	—	—	—	(11.4)	2.5	9.0	○	○
	坏a	—	—	—	12.0	2.6	8.4	○	○
	坏a	イト	—	—	12.4	2.9	8.4	○	○

S-40

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	イト	—	—	7.8	1.0	6.3	○?	○
	小皿a1	イト	—	—	7.9	1.2	6.3	—	○
	小皿a1	—	—	—	—	0.75+α	(8.0)	—	—
	小皿a1	イト	—	—	8.1	1.2	6.4	—	○
	小皿a1	イト?	—	—	7.9	1.0	6.5	—	○
	小皿a1	—	—	—	7.4	1.05	5.0	—	○
	小皿a1	イト	—	—	7.1	0.95	6.4	○	○
	小皿a1	イト	—	—	—	0.9+α	6.6	—	○
	坏a	イト	—	—	16.6	3.7	12.7	○	○
	坏a	イト?	—	—	(10.8)	2.1	(9.6)	—	○
	坏a	イト	—	—	12.7	2.7	9.7	○	○
	坏a	—	—	—	12.8	2.8	9.2	○?	○
	坏a	イト	—	—	12.5	2.9	8.0	—	—
	坏a	イト	—	—	12.3	2.9	8.8	—	○
	坏a	イト	—	—	—	1.1+α	3.6	—	—

S-45

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	—	—	—	1.1+α	7.4	○	—
	坏a	イト	—	—	12.6	2.4~2.6	8.4	○	×
	坏a	イト	—	—	(13.0)	3.2	8.6	○	○
	坏a	—	—	—	13.1	2.3~3.2	8.6	○	○
	坏a	イト	—	—	13.1	3.2	8.8	○	○
	坏a	イト	—	—	12.9	3.1	8.2	○	○
	坏a	イト	—	—	13.1	3.0	8.6	○	○
	坏a	イト	—	—	13.0	2.8	8.3	○	○
	坏a	イト	—	—	13.1	3.3	8.3	○	○
	坏a	—	—	—	13.4	2.3~3.4	8.8	○	○
	大坏a	—	—	—	17.7	4.2	13.5	○	—

S-53

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	—	—	13.7	2.4	8.2	○	○
	坏c	—	—	—	14.0	2.4	10.4	○	○

茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	—	—	(8.6)	1.1	(6.0)	○	○
	小皿a	イト	—	—	(8.0)	0.9	(6.0)	○	○?
	小皿a	イト	—	—	(8.3)	1.2	(6.0)	○	○
	小皿a	—	—	—	(8.6)	1.0	(6.6)	○	○?
	坏a	—	—	—	(12.2)	2.1	(8.1)	○	○
	坏a	イト	—	—	(9.6)	2.3	(8.6)	○	○
	坏a	—	—	—	(12.6)	2.6	(8.6)	○	—
	坏a	イト	—	—	(12.6)	2.3	8.7	○	○

暗茶色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト?	—	—	(8.1)	1.60	(6.0)	○?	—
	小皿c	—	—	—	(8.3)	1.8	(6.1)	○	—
	皿	—	—	—	(11.2)	0.9	(9.8)	○	○
	坏a	イト?	—	—	(11.8)	2.4	(8.9)	○	○
	坏a	イト	—	—	(12.0)	2.3	(9.0)	○	○
	坏a	イト	—	—	(11.4)	2.5	(8.0)	○	○

黒褐色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	—	—	10.5	2.0	7.9	○	—
	小皿a	イト	—	—	(9.4)	1.4	(6.4)	○	○?
	小皿a	—	—	—	(7.4)	1.8	4.0	○	—
	小皿a	イト	—	—	8.1	0.9	4.2	○	○
	小皿a	イト	—	—	7.8	1.3	5.9	○	—
	小皿a	イト	—	—	(7.9)	1.9	(4.2)	○	○
	小皿a	イト	—	—	7.5	1.0	5.5	○	○
	小皿a	イト	—	—	8.6	1.2	6.2	○	○
	小皿a	イト	—	—	8.6	1.1	(5.8)	○	○
	小皿a	—	—	—	(8.7)	1.1	4.4	○?	—
	小皿a	—	—	—	8.4	1.1	5.5	○	—
	小皿a	イト	—	—	8.1	1.3	5.8	○	—
	小皿a	—	—	—	8.2	1.0	4.4	○	○
	小皿a	—	—	—	8.0	1.0	5.8	○	○
	小皿a	イト	—	—	8.3	0.9	4.8	○	○
	坏a	—	—	—	12.8	2.6	8.0	○	—
	坏a	イト	—	—	11.8	2.4	7.8	○	○
	坏a	イト	—	—	12.2	2.5	8.2	○	○
	坏a	イト	—	—	(12.6)	2.4	(8.0)	○	○
	坏a	イト	—	—	12.8	2.3	8.8	○	○
	坏a	イト	—	—	(12.9)	2.4	8.2	○	○
	坏a	イト	—	—	(12.6)	2.8	(8.4)	○	○
	坏a	イト	—	—	(12.2)	2.4	7.8	○	○
	坏a	—	—	—	11.2	2.2	7.7	○?	○?
	坏a	イト	—	—	(11.9)	2.3	7.1	○	○
	坏a	イト	—	—	(11.8)	2.2	(7.0)	○?	○
	坏a	—	—	—	11.9	2.4	8.1	○	○?
	坏a	イト	—	—	12.2	2.3	8.3	○?	○
	坏a	イト	—	—	12.9	2.3	8.1	○	○
	坏a	イト	—	—	12.2	2.5	8.6	○?	○
	坏a	イト	—	—	12.2	2.5	7.8	○?	—
	坏a	イト	—	—	(12.2)	2.4	(7.0)	○?	○
	坏a	—	—	—	(13.2)	2.5	(8.4)	○?	—
	坏a	イト	—	—	12.2	2.4	8.0	○	—
	坏a	イト	—	—	(11.8)	2.4	7.0	○?	○
	坏a	—	—	—	(12.2)	2.5	4.6	○?	—
	坏a	—	—	—	(11.8)	2.3	(7.8)	○?	○
	坏a	イト	—	—	(11.8)	2.3	(8.1)	○?	○
	坏a	イト	—	—	(12.0)	2.5	(7.8)	○?	○
	坏a	—	—	—	(11.8)	2.4	(6.9)	—	—
	坏a	イト	—	—	(12.2)	2.2	(8.8)	○	○
	坏a	—	—	—	(12.2)	2.4	7.9	○?	—
	坏a	イト?	—	—	12.4	2.3	8.2	○	○
	坏a	—	—	—	(11.8)	2.8	(7.4)	○?	—
	坏a	イト?	—	—	(12.4)	2.4	(8.4)	○?	○
	坏a	イト	—	—	(11.5)	2.6	(8.2)	○	○
	坏a	イト	—	—	(11.6)	2.5	(7.6)	○	○
	坏a	イト	—	—	(11.6)	2.4	(7.9)	○	○
	坏a	イト	—	—	(12.3)	2.3	(8.3)	○	○
	坏a	—	—	—	(13.8)	2.2	(8.2)	—	—
	坏c	—	—	—	(16.0)	3.7	(10.2)	○	—

黄色土

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	—	—	(8.6)	1.4	(7.2)	—	—
	小皿a	イト	—	—	7.8	1.25	5.8	○	○
	小皿a	イト	—	—	(8.0)	1.2	(5.9)	○	○
	坏a	イト	—	—	12.0	2.6	8.6	○	○
	坏a	イト	—	—	(13.2)	2.6	(9.4)	○	○
	坏a	—	—	—	(12.4)	2.3	9.7	○	○
	坏a	—	—	—	(12.4)	2.8	8.2	○	○
	坏a	イト	—	—	11.8	2.8	8.4	○	○
	坏a	イト	—	—	11.9	2.4	8.0	○	○
	坏a	イト	—	—	12.0	2.6	8.2	○	○

表3、第5次調査 出土遺物一覧表①

S-1系褐色土

須恵器	壺d?
土師器	坏a(イト)　小皿a(イ)
土師質土器	鉢?　大鉢(脚部)　擂鉢
須恵質土器	鉢(東播系)
国産陶器	甕
白磁	碗；Ⅳ(3)　Ⅴ-4(1)　皿；Ⅸ(1)　壺(1)　白磁破片(4)
龍泉窯系青磁	碗；Ⅰ(2)　Ⅰ-4b(1)　Ⅱ-b(1)　大坏Ⅲ-3(1)
中国陶器	鉢；Ⅰ-1b(1)　陶器破片(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器；壺(1)
瓦	類 平瓦(須恵質,格子目D群)　丸瓦(瓦質,二重斜格子目)
金属製品	銭滓
石製品	不明滑石製品　石鍋C2　石鍋B

S-1灰褐色土

土師器	坏a(イト)　坏c?
龍泉窯系青磁	碗；
土師質土器	大鉢Ⅲ-a　鉢
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	擂鉢Ⅱ-a
白磁	碗；Ⅴ(1)　Ⅷ(1)　皿；Ⅵ-1a(1)　破片(1)　白磁破片(2)
龍泉窯系青磁	碗；Ⅰ内面文様(1)　皿；坏Ⅲ-4(1)　龍泉破片(1)
中国陶器	破片(1)
瓦	類 平瓦(須恵質,二重斜格子目)　平瓦(瓦質,無文) 丸瓦(瓦質,二重斜格子目)　丸瓦(瓦質)
石製品	硯(花崗岩)

S-1暗茶色土

土師器	坏
龍泉窯系青磁	坏；Ⅲ-1a(1)

S-1北辺石溜まり

土師器	坏
土師質土器	鉢
石製品	石鍋?
土製品	瓦玉

S-1下層

土師器	坏a(イト)
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	鉢
白磁	破片(1)
龍泉窯系青磁	碗；Ⅰ(1)
中国陶器	鉢；破片(1)
瓦	類 平瓦(須恵質,無文)

S-2

土師器	坏a(イト)　坏c×皿c　小皿a(イト)
国産陶器	甕　土鍋蓋
白磁	碗；口縁外反(1)　破片(1)　皿；Ⅳ-2(1)
龍泉窯系青磁	碗；Ⅰ-4(1)　破片Ⅰ(1)
中国陶器	破片(1)
肥前系陶磁器	染付；碗
瓦	類 平瓦(須恵質,無文)
金属製品	釘
石製品	石鍋B

S-3

土師器	供膳具
白磁	碗；破片(1)　白磁破片(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器；壺?(1)
瓦質土器	大鉢
土製品	焼土塊
金属製品	釘

S-4

土師器	小皿a(イ)
瓦	類 平瓦?(瓦質)

S-5

土師器	小皿a(イト)　坏a　器台
須恵質土器	甕
龍泉窯系青磁	碗；Ⅱ-b(1)
土製品	瓦玉　焼土塊

S-6

土師器	小皿a
須恵質土器	破片

S-7

土師器	坏a　小皿a(イト)
瓦	類 破片(瓦質)
金属製品	釘

S-8

土師器	小皿a

S-9

土師器	坏a(イ)　小皿a

S-10

土師器	坏a(イト)
白磁	碗；Ⅳ(1)　Ⅴ-4a(1)　白磁破片(1)
金属製品	銭滓(石質)　釘

S-10灰茶色粘土

須恵器	甕
土師器	坏a(イト)
瓦器	碗
白磁	碗；破片(3)
龍泉窯系青磁	碗；Ⅰ-2b(1)
同安窯系青磁	碗；Ⅲ-1a(1)　Ⅰ-1b(1)
国産磁器	甕(東海系?)
瓦	類 平瓦(須恵質,無文)
土製品	瓦玉

S-11

土師器	坏a(イト)
金属製品	銭滓(椀形滓)

S-12

土師器	小皿a(イト)
土製品	焼土塊

S-13

土師器	坏a(イト)　小皿a?(イト)
金属製品	鉄塊

S-14

土師器	小皿a(イ)

S-15

土師器	坏a(イト)

S-16

土師器	坏a(イト)　小皿a(イト)　小皿b(イト)

S-17

土師器	坏a(イト)　小皿a(イト)
白磁	碗；Ⅴ-4a(1)

S-18

土師器	供膳具
金属製品	鉄塊

S-19

土師器	小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	碗；Ⅰ内面文様(1)
土師質土器	鉢

S-20

土師器	坏a(イト)　小皿a(イト)
瓦	類 平瓦(須恵質,二重格子目)　平瓦(瓦質,無文)

S-20上層

土師器	小皿a　坏a
白磁	皿；破片(1)
瓦	類 平瓦(須恵質,格子目)

S-20灰色粘土

土師器	坏a(イ,-3)　丸底坏c　丸底坏a
瓦器	碗
白磁	碗；Ⅳ(1)　Ⅴ-3(1)　直口縁(1)　壺?(1)　白磁破片(4)
同安窯系青磁	破片?(1)
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器；壺(1)
瓦	類 平瓦(瓦質,斜格子目)
石製品	石鍋　滑石加工品

S-21

土師器	坏a(イ)
白磁	碗；Ⅴ-4b(1)
石製品	滑石

S-22

土師器	小皿a(イ)
龍泉窯系青磁	碗；Ⅱ-b(1)

S-23

土師器	坏a(イ)

S-24

土師器	坏a(イ)
須恵質土器	甕
金属製品	銭滓

S-25下層

土師器	坏a(イ)　小皿a(イ)　小皿c
須恵質土器	鉢(東播系)
瓦質土器	擂鉢Ⅱ-b
緑釉陶器	破片
白磁	破片(2)　広東系破片(1)
龍泉窯系青磁	破片Ⅲ(1)
中国陶器	他；三彩　破片(1)

S-25上層

土師器	小皿a(イ)
白磁	破片(1)

表3、第5次調査 出土遺物一覧表②

S-25

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
須恵質土器	鉢
白	磁:椀:Ⅱ-3(1)　白磁破片(2)
龍泉窯系青磁	椀:Ⅳ(1)　龍泉破片(1)
瓦	類:平瓦(瓦質、二条斜格子目)　平瓦(瓦質、無文) :軒平瓦(須恵質、連続巴文)

S-25大石腐方

土　師	器:坏a(ⅰ)　椀c?　小皿a(ⅰ)
白	磁:皿:Ⅲ(1)　白磁破片(1)

S-26

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
金属製品	鉄滓(金属質)　釘

S-27

土　師	器:小皿a(ⅰ)

S-28

土　師	器:小皿a

S-29

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
瓦質土器	鉢:A-Ⅰ×Ⅱ
白	磁:小椀(1)

S-30

土　師	器:坏a(ⅰ)　坏a×b　大坏　小皿a(ⅰ)
瓦	器:破片
須恵質土器	鉢
瓦質土器	:火鉢B-Ⅲ-a
白	磁:椀:Ⅱ(1)、Ⅳ(1)
瓦	類:平瓦(瓦質、不明)
石製品	石鍋
土製品	焼土塊

S-31

土　師	器:供膳具
瓦	類:破片(瓦質)

S-32

土　師	器:坏a

S-33

土　師	器:坏a

S-34

土　師	器:小皿a(ⅰ)

S-35茶色砂

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)　鍋a(ⅰ)　大皿a
龍泉窯系青磁	椀:Ⅱ-5(1)
土師質土器	大甕　釜?
土製品	焼土塊

S-35BG色粘土

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
須恵質土器	甕
瓦質土器	鉢:鍋鉢

S-36

土　師	器:小皿a

S-37

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)

S-38

土　師	器:供膳具
瓦	類:平瓦(瓦質、小斜格子)

S-39

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿c

S-40

土　師	器:坏a(ⅰ)　大坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
白	磁:椀:Ⅳ(1)　破片(1)
瓦	類:平瓦(瓦質、無文)
金属製品	鉄滓(鉱物系)　釘

S-41

土　師	器:小皿a(ⅰ?)

S-42

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)

S-43

土　師	器:小皿a(ⅰ)
白	磁:椀:破片
土　製	品:焼土塊

S-44

土　師	器:小皿a

S-45

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
須恵質土器	甕
白	磁:V内面櫛目(1)
土　製	品:瓦玉

S-46

土　師	器:坏a?
金属製品	品:釘

S-47

土　師	器:小皿a(ⅰ)
白	磁:地:水注X(1)

S-48

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
金属製品	品:釘

S-49

土　師	器:小皿a(ⅰ)

S-50

土　師	器:坏a(ⅰ,ⅱ)　椀c　小皿a(ⅰ)
黒色土器	A椀c
土師質土器	足鍋
須恵質土器	甕
白	磁:椀:XⅠ-5(1)　広東系(1)　龍泉片(1)　白磁破片(2)
越州窯系青磁	椀:1(1)
土　製	品:焼土塊

S-51

土　師	器:小皿a×坏a(ⅰ)

S-52

土　師	器:小皿a(ⅰ)
金属製品	品:鉄滓

S-53

土　師	器:坏a(ⅰ)

S-54

土　師	器:小皿a(ⅰ)

S-55

土　師	器:坏a(ⅰ)

S-56

土　師	器:供膳具
土師質土器	鉢?

S-57

土　師	器:小皿a(ⅰ)

S-58

土　師	器:坏　小皿a(ⅰ)
白	磁:椀:白磁皿X(1)
金属製品	品:釘

S-59

土　師	器:坏a(ⅰ?)

S-60

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
瓦質土器	鉢
白	磁:破片(1)　壺(1)
龍泉窯系青磁	椀:1-6a(1)　破片類(1)
石　製	品:滑石加工品

S-61

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
瓦	類:平瓦(須恵質、二条斜格子目)　平瓦(土師質、斜格子目)

S-62

土　師	器:小皿a(ⅰ)

S-63

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)

S-64

土　製	品:焼土塊

S-65

土　師	器:小皿a(ⅰ?)
国産陶器	壺

S-67

土　師	器:供膳具

S-69

土　師	器:小皿a×坏a

表3、第5次調査 出土遺物一覧表③

S-89

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
黒色土器	B?小皿a(ⅰ-ⅱ)
土師質土器	鍋:鍋鉢
龍泉窯系青磁	破片(1)
中国陶磁器	壺:破片(1)

S-70

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)　小皿?c
白	磁:椀;破片(1)　皿:IX(1)　白磁破片(2)
龍泉窯系青磁	破片(3)

S-71

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)

S-72

土　師	器:小皿a(ⅰ)

S-73

土　師	器:坏a　小皿c

S-74

瓦質土器	器:鉢A-Ⅱ
龍泉窯系青磁	椀:Ⅳ(1)
土　製	品:焼土塊

S-76

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
須恵質土器	甕
瓦質土器	器:鉢?
国産陶器	壺
龍泉窯系青磁	破片(1)

S-77

土　師	器:坏a(ⅰ)

S-78

土　師	器:坏a　小皿a(ⅰ)
白	磁:合子身(1)

S-79

瓦質土器	器:こね鉢

S-80

土　師	器:坏a　小皿a(ⅰ)

S-81

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)

S-82

土　師	器:坏a　小皿a(ⅰ)

S-83

土　師	器:小皿a(ⅰ?)
白	磁:皿:IX(1)
中国陶磁器	器:磁器片(1)

S-84

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
白	磁:椀:Ⅳ(1)

S-87

土　師	器:坏a
瓦	類:平瓦(瓦質、無文)

S-88

土　師	器:坏a?(ⅰ?)

S-89

土　師	器:坏a(ⅰ?)　小皿(ⅰ)

S-91

土　師	器:供膳具

S-92

土　師	器:供膳具

S-93

土　師	器:小皿(ⅰ)
白	磁:破片(1)

S-94

土　師	器:坏a(ⅰ)
土　製	品:焼土塊

S-96

土　師	器:坏a(ⅰ)

S-100

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a　皿a
瓦質土器	器:鉢?　鉢
白	磁:椀:Ⅳ(1)　V(1)　白磁破片(3)
龍泉窯系青磁	椀:Ⅱ-5(1)
土　製	品:焼土塊
金属製品	品:釘

S-101

土　師	器:坏a(ⅰ)
瓦	器:破片

S-102

土　師	器:坏a(ⅰ)

S-103

土　師	器:坏a(ⅰ)

黒褐色土

土　師	器:坏a(ⅰ)　坏c　小皿a(ⅰ)
白	磁:椀破片(1)　壺破片(1)
龍泉窯系青磁	椀破片(1)
瓦	類:平瓦(瓦質、無文)
石　製	品:石鍋
金属製品	品:釘

暗茶色土

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)　小皿c
白	磁:椀:XⅠ-1a(2)　破片(4)　皿:V-2a(1)
龍泉窯系青磁	椀:Ⅱ-b(1)

黄色土

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
瓦	類:丸瓦(須恵質、1棚)　平瓦(瓦質)
石　製	品:石鍋(2)

黄色土(北壁)

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
須恵質土器	器:鉢(東播系)
瓦	類:平瓦(瓦質、斜格子目)(粗)

茶灰色土

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
瓦質土器	器:鉢B-a　鉢C-b　鉢E
国産陶器	器:大甕
白	磁:椀;Ⅳ(1)　壺破片(1)
龍泉窯系青磁	椀;Ⅱ-6a(2)　龍泉破片(1)
同安窯系青磁	椀:Ⅱ-2類(1)　同安破片(1)
瓦	類:平瓦(須恵質、二条斜格子目)　平瓦(須恵質、無文)
石　製	品:無曜石　石鍋
土　製	品:瓦玉
金属製品	品:釘

茶色土

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
須恵質土器	器:鉢(東播系須恵)
土師質土器	器:鉢
白	磁:皿;IX-1a(1)
龍泉窯系青磁	椀;1-1(1)　破片(1)
中国陶磁器	器:壺(1)　陶器破片(1)
瓦	類:平瓦(須恵質、1棚)　丸瓦(須恵質、0棚)
金属製品	品:鉄滓　鉄滓
石　製	品:丸石(緑色片岩の偏平石)　石鍋C

暗灰色土

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)　大皿a
土師質土器	器:鉢　火舎
瓦質土器	器:鉢　こね鉢　火鉢B-1-a
白	磁:椀;Ⅳ(1)　V(1)　破片(1)　壺(1)　白磁破片(1) :皿;XⅠ(1)　IX(2)　X-b(1)　破片(1)
龍泉窯系青磁	椀;Ⅱ-b(6)　皿-2C(1)　龍泉破片(1)
中国陶磁器	器:壺破片(1)　椀(産地不明)
須恵質(輸入)	器:朝鮮系無釉陶器:壺
瓦	類:平瓦(瓦質、斜格子目)　平瓦(瓦質、無文) :丸瓦(須恵質、二条格子目)
石　製	品:石鍋C　石鍋C　砥石(砂岩)　砥石(黒色頁岩) :基石(白色)　基石(緑色片岩)
土　製	品:焼土塊
金属製品	品:鉄塊

表土

土　師	器:坏a(ⅰ)　小皿a(ⅰ)　小壺(肥手)
瓦	器:供膳具
龍泉窯系青磁	椀
瓦質土器	器:鉢A-Ⅲ　香炉
国産陶器	器:大甕(東播系)　大甕(備前系)　壺
肥前系磁器	皿:焼　椀　破片
白	磁:椀:Ⅳ(1)　V(2)　IX(1)　底口縁(2)　破片(2) :皿:Ⅲ-1(1)　Ⅳ-2(1)　鳴-2C(1)　IX(2)　白縁外反(1) :壺(1)　白磁破片(12)
龍泉窯系青磁	椀:1-1a(2)　1-4(1)　Ⅱ-b(7)　Ⅳ(1)　1縁片(5)　龍泉破片(1)
同安窯系青磁	椀:1-1(3)　1-1b(1)　皿:1-2b(1)
中国陶磁器	器:耳壺(1)　盤?-鉢(1)　陶器破片(1)
瓦	類:平瓦(土師質、無文)　丸瓦(須恵質、斜格子目(粗))
石　製	品:石鍋(3)

2、第６次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市大字太宰府字原 1553-10 で、個人住宅の基礎工事によって遺構に影響が及ぶため、発掘調査をすることとなった。調査は狭川真一、緒方俊輔が担当し、昭和 63(1988) 年９月 19 日～９月 29 日に実施した。開発対象面積は 329 ㎡で、調査面積は 30 ㎡である。

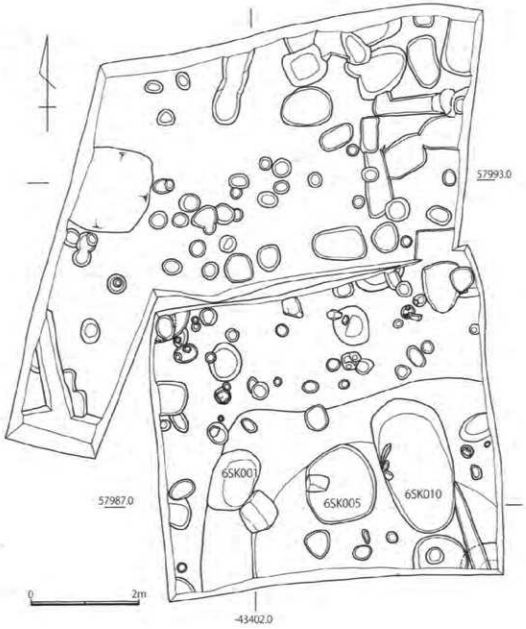


Fig. 17　第６次調査遺構全体図 (1/70)

(2) 立地と基本層位

調査地付近は四王寺山南東裾標高約 80m に展開する中世寺院通称「原八坊」の寺域内、推定中堂の下方、本堂の東側に位置する。調査前の調査地は畑で、東西に長い段状の造成地に位置する。調査は対象地が狭小なため南側から着手し、埋め戻し反転して北側を調査した。基本層位は表土とした厚さ約 80cm の黄色土、暗褐色土の下に遺物包含層である厚さ約 50cm の茶灰色土とその下に明茶色土がある。南区の検出時には南東側約３分の１に茶灰色土が残り、その下面から全体の遺構を検出した。

(3) 検出遺構

土坑

6SK001 (Fig. 18)

調査区南区の南西側で検出された南北 1.2m、東西 0.8m、深さ 0.6m の長楕円方形を呈す土坑である。茶灰色土の窪みの下で検出された。12 世紀代の遺物が出土している。

6SK005 (Fig. 18)

調査区南区の南西側で検出された南北 1.2m、東西 1.2m、深さ 0.15m の楕円形を呈す土坑である。茶灰色土の窪みの下で検出された。12 世紀代以降の遺物が出土している。

6SK010 (Fig. 18)

調査区南区の南東側で 6SK001、6SK005 と並ぶように検出された南北 2.5m、東西 1.2m、深さ 0.4m の楕円方形を呈す土坑である。12 世紀代の遺物と鉱滓（椀形滓）が出土している。

(4) 出土遺物

土坑

6SK005 出土遺物 (Fig. 19)

土師器

小皿 a(1、2)　1 は口径 9.2cm、高さ 0.9cm、底径 8.5cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

坏 a (3)　口径 11.0cm、高さ 2.9cm に復元される。

6SK010 出土遺物 (Fig. 19)

土師器

小皿 a (4～6)　4 は口径 9.0cm、高さ 0.8cm、底径 7.7cm、5 は口径 9.1cm、高さ 0.9cm、底径 7.6cm、6 は口径 9.8cm、高さ 1.0cm、底径 8.6cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

大皿 (7)　器高 2.8cm が残る。底部近くの厚さは 1cm ほどある。

土師質土器

鉢 (8、9)　9 は口径 20.1cm、高さ 4.7cm、底径 15.7cm で、色調は外面が橙褐色、内面は黒灰色を呈す。8 は 9 と同一破片の可能性がある。

金属類

鉱滓 (10)　長さ 7.2cm、幅 7.0cm、厚さ 2.8cm の鉄錆が表面を覆う金属質で椀形の滓である。

その他の遺構

6SX052 出土遺物 (Fig. 19)

白磁

坏×皿 (11)　高さ 2.8cm を測り、白色の胎土に微細な黒色粒が混じる。釉は近世磁器のような光沢を持ち、景徳鎮窯系の所産か。

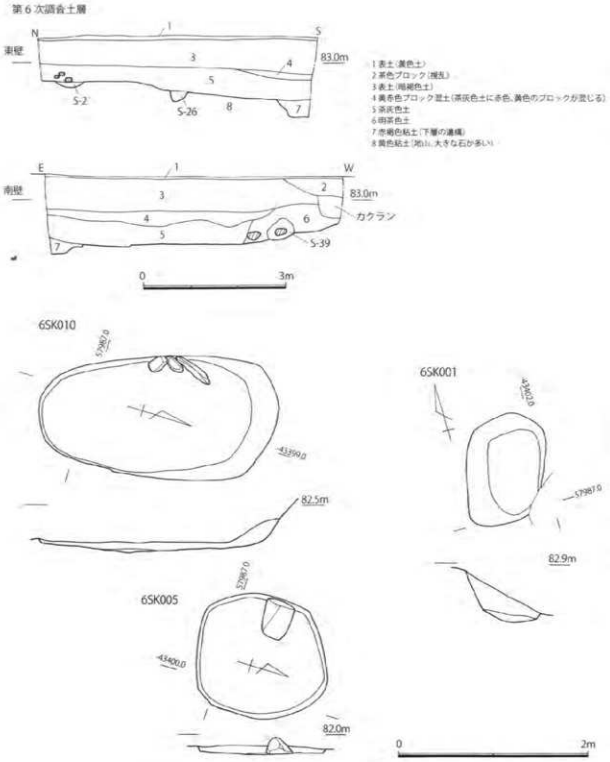


Fig. 18　第6次調査土層及び土坑実測図（1/40、1/80）

6SX058 出土遺物（Fig. 19）

土製品

焼土塊(12、13)　灰黄色を呈す土師質のもので藁状の植物繊維のスサを含む。平坦な面と幅1～1.5cmほどの竹芯のような圧痕があることから土壁の可能性がある。

明茶色土出土遺物（Fig. 19、Pla. 9）

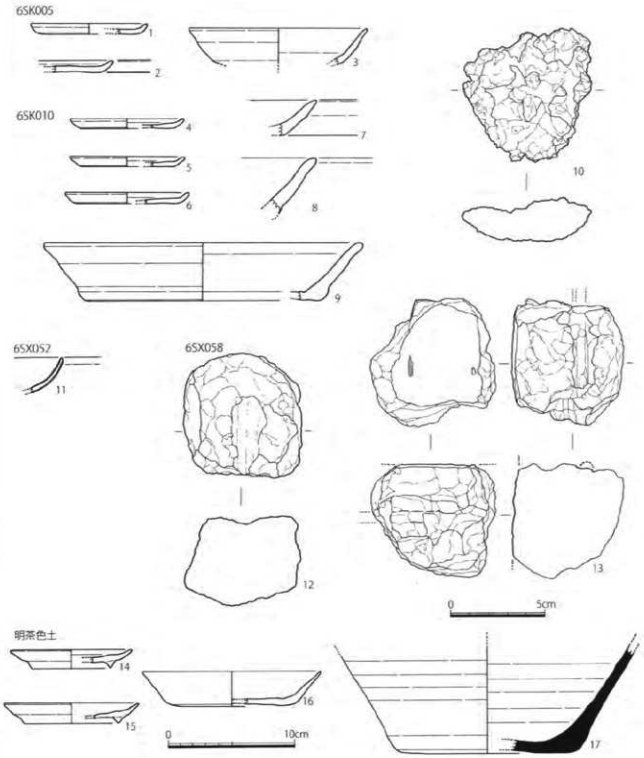


Fig. 19　6SK005・010、6SX052・058、明茶色土出土遺物実測図（1/2、1/3）

土師器

小皿c（14、15）　14は口径9.6cm、高さ1.5cm、底径6.2cm、15は口径10.6cm、高さ1.6cm、底径8.8cmに復元される。高台は断面形が三角形を呈す。

坏a（16）　口径14.2cm、高さ2.7cm、底径9.8cmに復元される。調整は不明。

須恵質土器

壺（17）　底径 14.4cm に復元される。平底で体部は直線的に開く。産地は不明。

茶灰色土出土遺物（Fig.20、Pl.a.9）

土師器

小皿 a（1～3）　1 は口径 7.9cm、高さ 2.0cm、底径 6.2cm、2 は口径 9.2cm、高さ 0.8cm、底径 8.0cm、3 は口径 8.9cm、高さ 1.3cm、底径 6.8cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

坏 a（4、5）　4 は口径 12.8cm、高さ 2.7cm、底径 8.4cm、5 は口径 12.6cm、高さ 2.4cm、底径 9.0cm に復元される。調整は不明で底部は糸切りか。

大皿 a（6）　底径 13.2cm に復元される。底部は糸切り。

土師質土器

盤（7）　底径 17.2cm に復元される。調整は不明。

須恵質土器

鉢（8）　口径 26.7cm に復元される。硬質で淡灰色を呈す。口縁端部は先が厚く玉縁にならない形状で、重ね焼きにより光沢のある黒色を呈す。東播系と見られる。

甕（9～13）　硬質で淡灰色～白灰色を呈す。10、11 は目の細かな格子目にハケ目状の条線が入る。11 と 13 は平行刻み目の叩き目が外面にある。12 と 13 は外面に自然釉がかかる。

瓦質土器

灯火具（14）　タワー状の脚の頭に付けられた受け部の破片で、径は 14.8cm に復元される。灯明皿を載せる形で、三具足の燭台にあたる仏器とみられる。

瓦類

平瓦（15）　厚さ約 2.5cm で硬質の須恵質に焼成され、斜格子のタタキが外面にあり、内面はやや粗い目の布痕跡が残る。

土製品

焼土塊（16～19）　橙色を基調とし藁状の植物繊維のスサを含む。17～19 には棒が当たったような曲面があり、全般的にもろく土壁の可能性がある。

表土出土遺物（Fig.20）

土師器

小皿 b（20）　口径 7.3cm、高さ 1.8cm、底径 4.8cm に復元される。底部に板状圧痕が残る。

肥前系染付磁器

端反椀（21）　やや灰色味を帯びた白色で光沢のある器面を持ち、濃青色の呉須で模様を描く。18 世紀中頃以降の所産か。

(5) 小結

調査の結果、ピット群、土坑などを検出した。遺物は少なくパンケース 1 箱分程度である。整地層と考えられる明茶色土の土器は量的には 12 世紀後半のものが多く、茶灰色土は 13 世紀代のものを含む。遺構の形成はこの整地を契機としたもので、原遺跡全体の様相に合致したものである。瓦質土器の中に灯火具形の仏教系の特殊な遺物が見られ、場の性格を示す遺物として注目される。

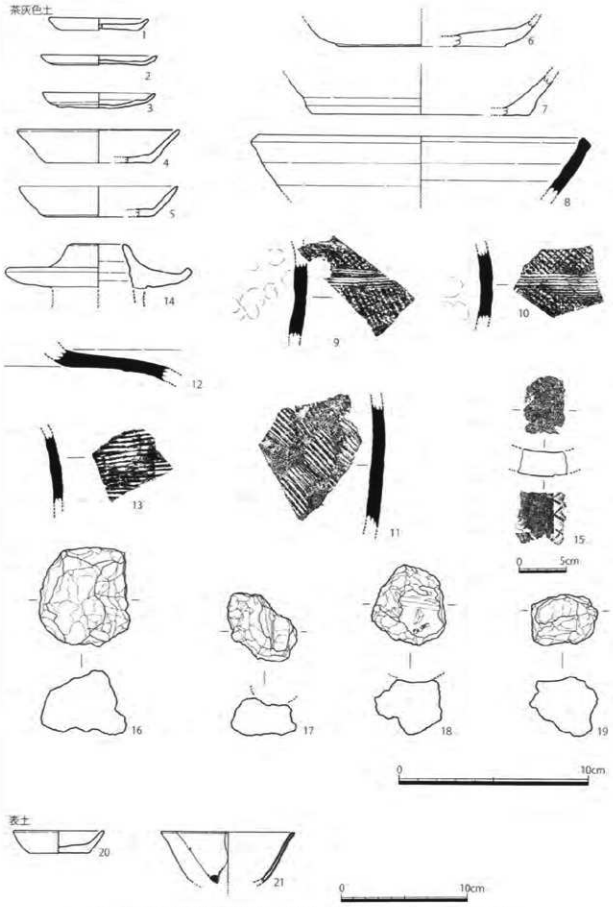


Fig.20　第 6 次調査茶灰色土、表土出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

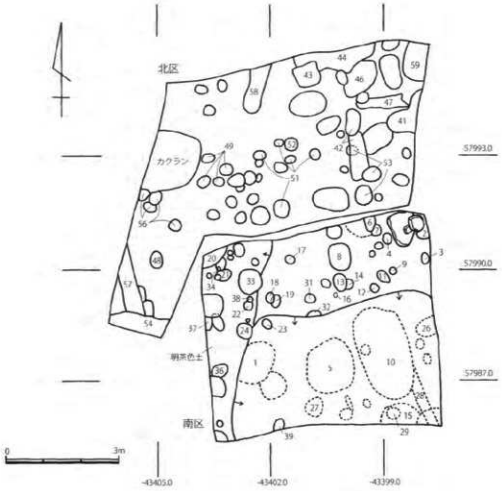


Fig. 21　第６次調査遺構略測図（1/100）

表４、第６次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	切り合い等	時期	地区番号
1	6SK001	土坑	明茶色土→1→茶灰色土	12世紀中頃～	南区
2		pit			南区
3		pit			南区
4		pit			南区
5	6SK005	土坑	5→茶灰色土	12世紀後半～	南区
6		pit	7→6		南区
7		pit			南区
8		土坑			南区
9		pit			南区
10	6SK010	土坑	10→茶灰色土	13世紀前半～	南区
11		pit			南区
12		pit			南区
13		pit	14→13		南区
14		pit			南区
15		窪み			南区
16		pit			南区
17		pit			南区
18		pit			南区
19		pit			南区
20		土坑			南区
21		pit			南区
22		pit			南区
23		pit			南区
24		pit			南区
26		pit			南区
27		pit			南区
28		溝	28→10		南区
29		pit	29→15		南区
31		pit			南区
32		pit			南区
33		pit			南区
34		pit			南区
36		pit			南区
37		pit			南区
38		pit			南区
39		pit			南区
41		窪み			北区
42		pit群			北区
43		pit			北区
44		pit			北区
46		土坑?			北区
47		pit			北区
48		pit			北区
49		pit群			北区
51		pit群			北区
52	6SX052	pit		近世～	北区
53		pit群			北区
54		段落ち			北区
56		pit群			北区
57		溝			北区
58	6SX058	pit			北区
59		pit			北区

表5、第6次調査　出土遺物一覧表

S-1	
土　師	器:坏a(1),-2)
S-2	
土　師	器:小皿a(-1)?　小皿a(1)
S-3	
土　師	器:供膳具
石　製	品:滑石
S-4	
土　師	器:小皿a(1)?
S-5	
土　師	器:坏a(1)　丸底坏?　小皿a(1)
龍泉窯系青磁	椀:-1(1)
S-6	
土　師	器:坏?
土師質土	器:鉢b
S-7	
土　師	器:破片
S-8	
土　師	器:小皿a(1)
瓦	器:椀
白	磁:椀:破片(1)
S-9	
土　師	器:供膳具
S-10	
土　師	器:坏a(1)　大坏　丸底坏?　小皿a(1)　大皿
瓦	器:椀?
土師質土	器:鉢
須恵質土	器:鉢?
白	磁:椀:II(2)　龍泉窯系(1)
中　国　陶	器:破片(1)
金　属　製	品:梅形浮
S-11	
瓦	類:丸瓦(須恵質)
S-12	
土　師	器:供膳具
S-13	
土　師	器:小皿a(1)
S-14	
土　師	器:小皿a?
S-15	
土　師	器:小皿a?(1)
S-16	
土　師	器:供膳具
S-17	
土　師	器:破片
S-18	
土　師	器:供膳具
S-19	
土　師	器:供膳具
S-20	
土　師	器:小皿a
S-21	
土　師	器:破片
須恵質土	器:破片
S-22	
土　師	器:供膳具
S-23	
土　師	器:供膳具
S-24	
土　師	器:坏a(1)
S-26	
土　師	器:供膳具
白	磁:椀:IV(1)
S-27	
土　師	器:供膳具
S-28	
土　師	器:供膳具
S-29	
土　師	器:破片
白	磁:椀:V-4(1)
東南窯(輸入)	鉄釉系無釉陶器:壺
S-31	
土　師	器:坏
S-32	
土　師	器:供膳具
S-33	
土　師	器:供膳具
S-34	
土　師	器:供膳具
S-36	
土　師	器:小皿a(1)?

S-37	
土　師	器:供膳具
S-38	
土　師	器:供膳具
金　属　製	品:釘
S-39	
土　師	器:小皿a(1)?
白	磁:椀:V-4a(1)
S-41	
土　師	器:供膳具
白	磁:椀:壺-1(1)　破片(1)
S-42	
土　師	器:坏a?(1)
石	類:破片
S-43	
土　師	器:供膳具
白	磁:椀:破片(1)
S-44	
土　師	器:坏a(1)
S-44 F	
土　師	器:供膳具
S-46	
土　師	器:坏a(1)?
S-47	
土　師	器:供膳具
黒 色 土	器:破片
S-48	
土　師	器:小皿a
白	磁:椀:II(1)
S-49	
土　師	器:坏a　小皿a(1)
瓦　焼　陶	器:椀
国　産　陶	器:鉢?(瀬戸)
金　属　製	品:釘
S-52	
土　師	器:坏　小皿a(1)
中　国　磁	器:坏×皿(景德鎮?)
S-53	
土　師	器:坏　椀?
白	磁:椀:II(1)　IV(2)　白磁破片(1)
S-54	
土　師	器:小皿a
S-56	
土　師	器:丸底坏a
S-57	
土　師	器:坏　小皿a?
S-58	
土　師	器:坏
白	磁:椀:IV(1)　破片(1)
土　製	品:焼土塊
S-59	
土　師	器:供膳具
明黒色土	
土　師	器:坏a　坏c　丸底坏?　小皿a(1)　小皿c
黒 色 土	器:椀
瓦	器:椀
須恵質土	器:壺
白	磁:椀:V内面櫛目(1)　白磁破片龍泉系(1)　破片(1)
同安窯系青	磁:椀:壺(1)
中　国　陶	器:壺蓋(1)　壺破片(1)
黒灰色土	
土　師	器:坏a(1)　大坏a(1)　小皿a(1)　小皿c
土師質土	器:鉢
須恵質土	器:壺　鉢(東播系)
瓦　質　土	器:行火具
白	磁:椀:II(2)　IV(7)　V(1)　V-2(1)　V-3(2)　V-4a(2) V内面櫛目(1)　碗(2)　内面櫛目(2)　底口縁(3) 小椀碗(2)　小椀(1)　破片(8) 皿:II-1a(1)　IV-1b(1)　VI(1)　VI-1a(1)　VI-b(1) 底(1)　底破片(1) 壺類(1)　白磁破片(20)　広東系(2)
龍泉窯系青	磁:椀:I-2(1)　I-4a(1)　皿:I-1b(1)　龍泉破片(1)
同安窯系青	磁:椀:I-1b(2)　皿-1a(1)　破片(1)　同安破片(1)
中　国　陶	器:壺破片(2)　甕(7)　破片(3)
瓦	類:丸瓦(須恵質,格子目)
金　属　製	品:梅形浮　又型製品
石　製	品:不明骨石製品
土　製	品:円(?)錘(1)　焼土塊
表土	
土　師	器:坏a(5)　丸底坏a　小皿b
瓦	器:椀
須恵質土	器:壺　大甕
鉄釉系陶磁	器:天目(近代～)
白	磁:椀:II(1)　IV(2)　V-4a(1)　V-4(2)　碗(1)　梅破片(1) 皿:II-1(1)　IV-2(1)　V(1)　底口縁(1) 壺破片(1)　白磁破片(1)
龍泉窯系青	磁:椀:I(1)　II-b(1)　皿:I-2d(1)　龍泉破片(1)
同安窯系青	磁:椀:II(1)　皿:I(1)　同安破片(2)
中　国　陶	器:壺(2)　甕(1)　陶器破片(1)
東南窯(輸入)	鉄釉系無釉陶器:壺
瓦	類:丸瓦(須恵質)　丸瓦(近世～)
石　製	品:不明骨石製品　石錘
金　属　製	品:釘　梅鉢

3、第10次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市三条1丁目1553-6で、個人住宅の基礎工事によって遺構に影響が及ぶため、発掘調査をすることとなった。調査は山本信夫、緒方俊輔、田中克子が担当し、平成4(1992)年7月8日～7月27日に実施した。開発対象面積は225㎡で、調査面積は50㎡である。

(2) 立地と基本層位

調査地付近は四王寺山南東裾の標高約80mに展開する中世寺院通称「原八坊」の寺域内、推定中堂の下方に位置する。調査前の調査地は畑地で、原池上段の造成地に位置する。遺構検出面が場所によって2m以上も深くなり危険防止の為、調査区を敷地の南側のみとした。基本層位は厚さ80cmの粘質の茶色土（以上が表土）、やや砂の混じる黒褐色土、強粘質の暗黄褐色土、粘質の暗褐色土（以上が厚さ約60cmの遺物包含層）の順で検出される。この下面で遺構が検出された（Fig. 22）。

(3) 検出遺構

土坑

10SK001（Fig. 22）

調査区北東側で検出された南北0.5m、東西1.5m、深さ0.5mの東西に長い土坑である。北側は調査区外に延びる。西側で花崗岩があったためその箇所は避けて掘られている。13世紀代の遺物が出土する。

(4) 出土遺物

土坑

10SK001出土遺物（Fig. 22、Pla. 9）

土師器

小皿a（1）　口径8.1cm、高さ1.0cm、底径6.1cmに復元される。灰褐色を呈す。

小皿b（2,3）　2は黄褐色で、口径8.4cm、高さ1.9cm、底径5.2cmに復元される。3は淡黄灰色を呈す。

坏a（4）　口径13.6cm、高さ2.8cm、底径8.9cmを測る。底部は糸切りか。

中国陶器

甕（5）　内傾する口縁の内側に段がある。胎土は硬質で茶灰色を呈し2mm以下の白色砂粒を多く含む粗い土である。Ⅳ類。

土製品

焼土塊（6）　橙褐色を呈し植物繊維のスサを含む。

調査区壁面出土遺物（Fig. 22、Pla. 9）

土師器

坏a（7）　口径12.1cm、高さ2.8cm、底径7.4cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕がわずかに残る。

瓦類

平瓦（8）　厚さ2cmで外面に斜格子目のタタキ痕、内面に目のごく細かい布目を残す。小口には分割の裁断のための沈線があり、割ったままの面である。灰色で硬質の焼成である。

(5) 小結

この地点は近年まで池があったとされ、それを埋め立てし盛り土工事している。そのため遺構検出面は現地表から2m前後と深い。調査の結果、この地点は遺構、遺物が希薄であり、遺構密集地より離れている状況が察知される。調査の結果、土坑1基（10SK001）、小ピット群を検出した。これらは出土遺物からみて13世紀頃と推定される。

第 10 次調査全体図

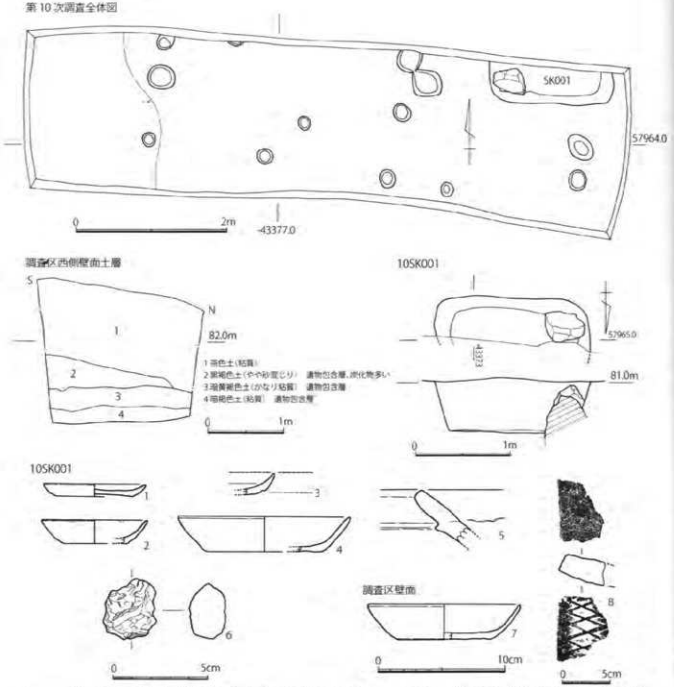


Fig. 22　第 10 次調査遺構全体図 (1/50) 及び遺構実測図 (1/40、1/50)、出土遺物実測図 (1/2、1/3、1/4)

表 6、第 10 次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	切り合い等	時期	地区番号
1	10SK001	土坑		13世紀～	

表 7、第 10 次調査　出土遺物一覧表

S-1	
土　師　器	ﾊFa(小)　小皿a(小)　小皿b
龍泉窯系青磁椀	破片(1)
龍泉窯系青磁皿	破片(1)
同安窯系青磁椀	I-2b(1)
白　磁　椀	IV(2)　V～VII(1)　破片(3)
中 国 陶 器	壺：IV(1)　破片?b類(1)
須恵質(輸入)	壺(3)
土　製　品	焼土塊

調査区壁面	
土　師　器	ﾊFa(小)
龍泉窯系青磁椀	II-b(1)
肥前系陶磁器	染付：古鉢?
須恵質(輸入)	壺?(1)
瓦　　類	平瓦(須恵質、斜格子目文)

4、第 15 次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市三条 1 丁目 1517 番 3、1517 番 7 で、個人住宅の基礎工事によって遺構に影響が及ぶため、発掘調査をすることとなった。調査は山村信榮が担当し、平成 10(1998) 年 4 月 15 日～8 月 7 日に実施した。開発対象面積は 250 ㎡で、調査面積は 169 ㎡である。

(2) 立地と基本層位

調査地付近は大城（四王寺）山の南東斜面の標高 78m 付近に位置し、中世寺院通称「原八坊」の寺域内、かつて原山記念碑が建っていた推定本堂の南隣地に位置する。調査前の調査地は宅地で、原池上段西側の造成地に位置する。基本層位は厚さ約 30cm の表土である灰色土の下で、遺物包含層である厚さ約 20cm の茶褐色土、場所によっては灰褐色土が検出される。この下面で遺構が検出された (Fig. 24)。

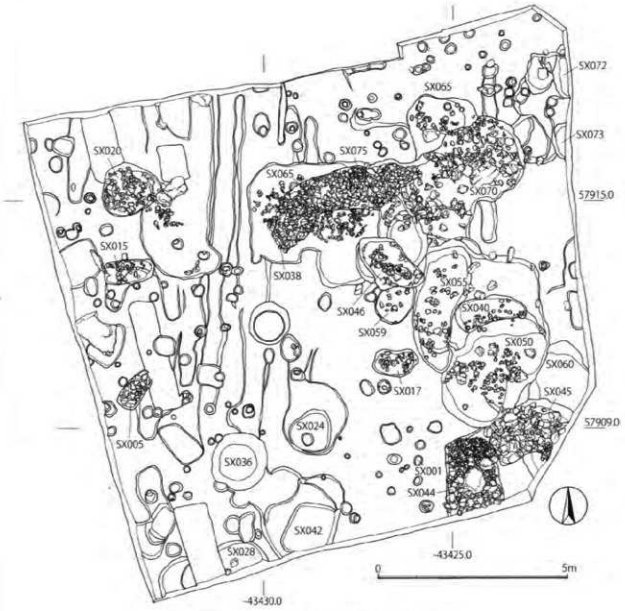


Fig. 23　第 15 次調査遺構全体図 (1/100)

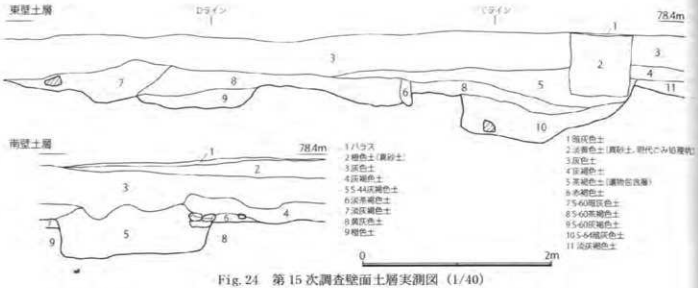


Fig. 24　第 15 次調査壁面土層実測図（1/40）

(3) 検出遺構

柱穴

15SX001（Fig. 25）

調査区南東で検出された径 0.2m、深さ 0.25m のピットである。底から浮いた状態で土師器小皿が出土した。柱を抜き取った際の混入か。12 世紀代の遺物が出土している。本現場においては柵や建物の抽出はできなかったが、一定程度のピットは検出されており、一時期には小規模なそのような施設があった可能性はある。

集石を伴う土坑状遺構

15SX005（Fig. 25）

調査区西で検出され、長さ 1.2m、幅 0.6m、深さ 0.25m を測る。下位に黒灰色土が堆積し、中位から表面は花崗岩亜礫で埋め尽くされている。

15SX015（Fig. 25）

調査区西で検出され、長さ 1.4m、幅 0.6m、深さ 0.3m を測る。暗灰色土が堆積し、その中に花崗岩亜礫が混じる。完形の土師器類も含まれている。

15SX020（Fig. 25）

調査区北西で検出され、長さ 1.4m、幅 1.4m、深さ 0.3m を測る。炭を含む暗灰色土が堆積し、その中に花崗岩亜礫が多少混じる。完形の土師器の供膳具類も含まれている。

15SX038（Fig. 25）

調査区北で検出され、明確な掘方はないが長さ 3m、幅 2.2m、深さ 0.1m の暗灰色土が堆積した中に長さ 10 ～ 20cm 程度の花崗岩亜礫が集積されている。完形や割れた土師器供膳具類も含まれている。集石の一部は長さ 1.8m、幅 1.2m ほどの方形に見えなくはない。

15SX040（Fig. 27）

調査区東で検出され、当初は暗灰色の溜まり状遺構 S-51 として掘り進め、20cm ほど下げた段階でプランが分かれたため、S-40・50・55 と分けて遺物の取り上げを行った。そのうちの 15SX040 は長さ 0.9m、幅 0.6m、深さ 0.2m を測る。掘方中に暗灰色土が堆積し、その中に花崗岩亜礫が集積されている。5cm 程度の小礫が多く土器片を含む。

15SX044（Fig. 26）

調査区南東で検出され、長さ 1.0m 以上、幅 0.7m、深さ 0.1m を測る。南側は調査区外に延びる。掘

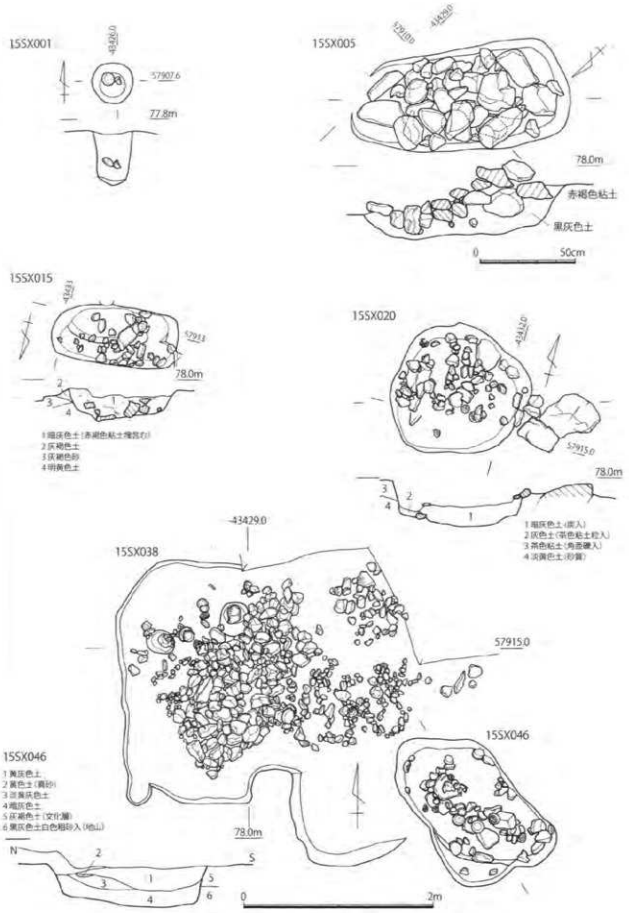


Fig. 25　15SX001・005・015・020・038・046 遺構実測図（1/20、1/40）

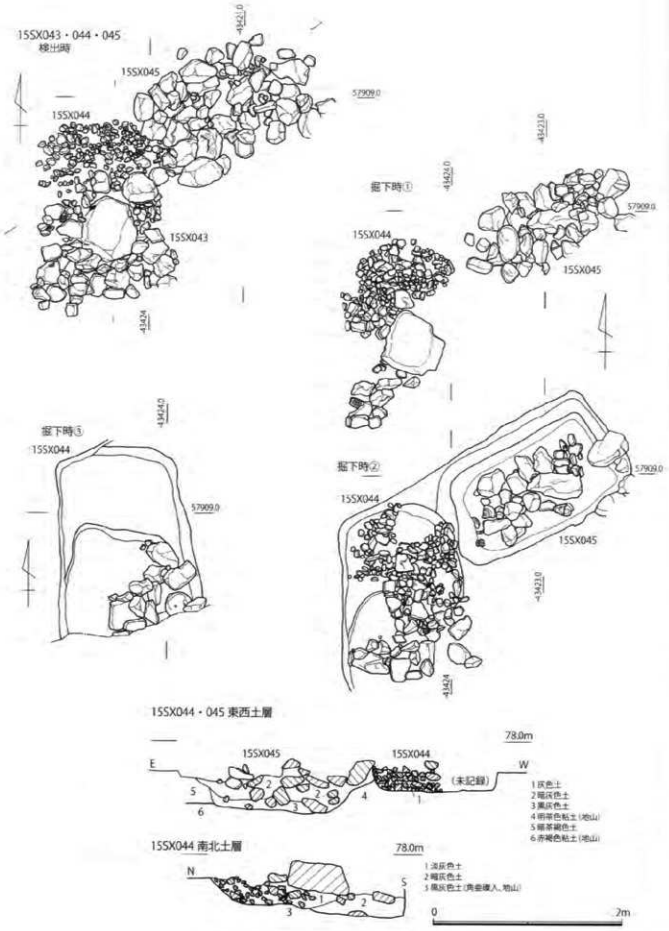


Fig. 26　15SX043・044・045 遺構実測図（1/40）

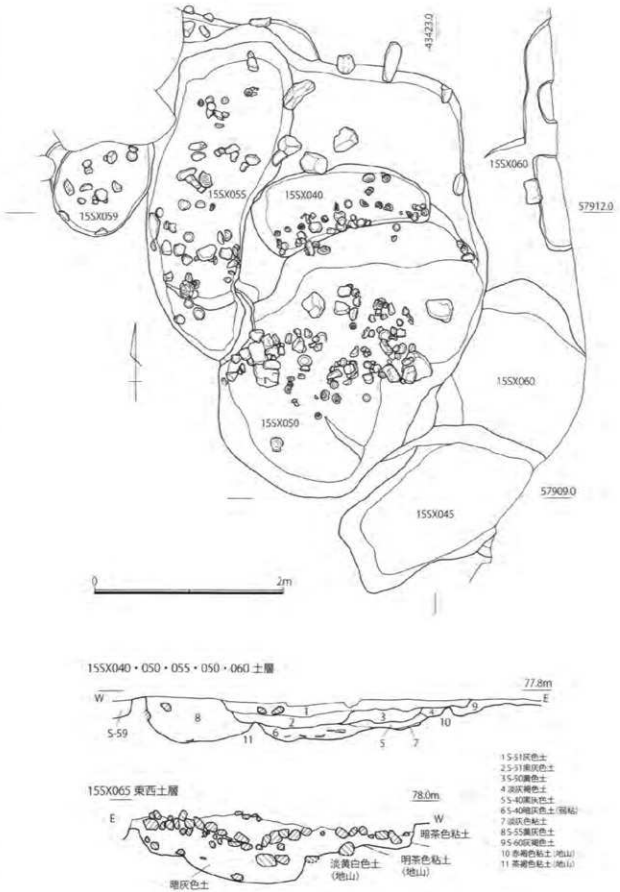


Fig. 27　15SX040・045・050・055・059・060・065 遺構実測図（1/40）

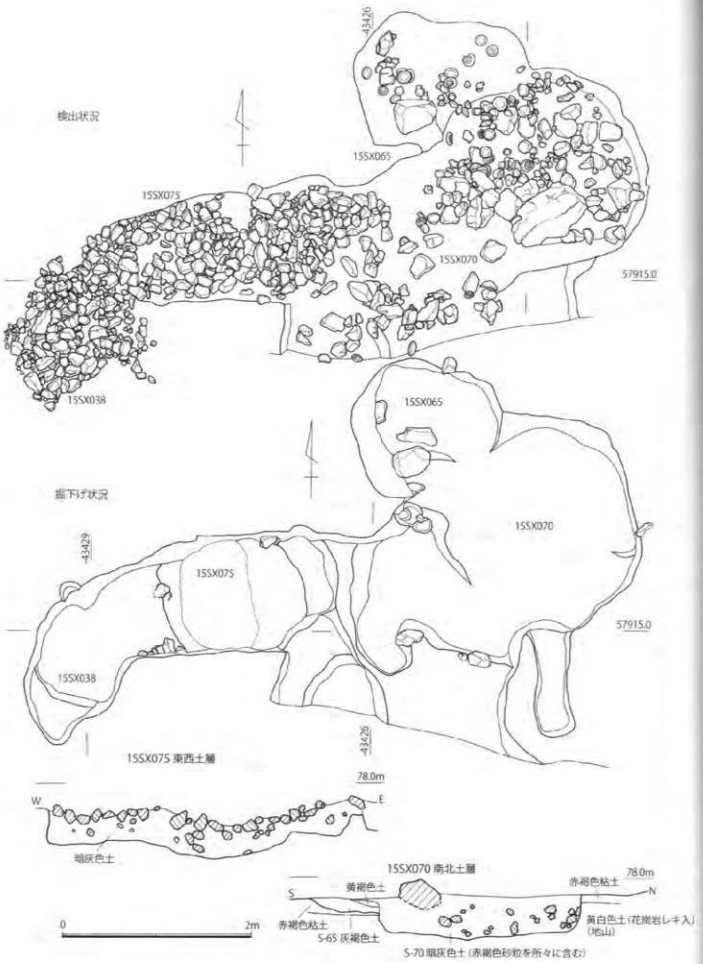


Fig. 28　15SX065・070・075 遺構実測図（1/40）

方中に灰色土が堆積し、その中に花崗岩亜礫が集積されている。礫は5cm程度の飛礫状のものと20cm大の亜礫があり密度は高い。15SX045を切って形成されている。

15SX045（Fig. 26）

調査区南東で検出され、長さ0.9m、幅0.6m、深さ0.2mを測る。掘方中は黒灰色土の後に暗灰色土が堆積し、その中に花崗岩亜礫が集積されている。20cm大を越える亜礫が多く礫の密度は高い。土器は少ない。15SX045を切って形成されている。

15SX046（Fig. 25）

調査区北で検出され、長さ1.7m、幅1.0m、深さ0.4mを測る。掘方中に暗灰色土、淡黄灰色土、黄灰色土の順で堆積し、その中に5cm程度の飛礫状の花崗岩の小礫と土師器供膳具類が含まれる。

15SX050（Fig. 27）

調査区東で検出され、長さ3.2m、幅2.0m、深さ0.1mを測る。掘方中に黄色土が堆積し、その中に5cm程度の花崗岩の小礫と土師器供膳具が混じる。15SX040を切って形成される。

15SX055（Fig. 27）

調査区東の15SX040の西側で検出され、長さ3.4m、幅1.2m、深さ0.4mを測る。掘方中に黄灰色土が堆積し、その中に5cm程度の花崗岩の小礫と土師器供膳具が混じる。

15SX065（Fig. 27・28）

調査区北のEライン以北で長さ東西約4m、南北約4m、幅約1m帯状でV字に小礫群が検出されたもので、これを除去した段階で15SX038・070・075の掘方が検出された。礫の下に暗灰色土を伴う。

15SX070（Fig. 28）

調査区北の15SX065の下層で検出され、長さ3.4m、幅2.0m、深さ0.4mを測る。掘方中に暗灰色土が堆積し、その中に5cm程度の花崗岩の小礫が混じる。

15SX075（Fig. 28）

調査区北の15SX065の下層、15SX070の西側で検出され、長さ1.8m、幅1.0m、深さ0.4mを測る。掘方中に暗灰色土が堆積し、その中に20cm程度の花崗岩礫と土師器供膳具が混じる。

(4) 出土遺物

その他の遺構

15SX007 出土遺物（Fig. 29）

青白磁

合子 (1)　型押しで成形された、盛り上がった花弁状の装飾を持つ。口径8.4cm、高さ1.9cm。

金属類

鉱滓 (2)　長さ4.7cm、幅4.4cm、厚さ1.9cmの鉄錆が表面を覆う金属質の滓である。

15SX010 出土遺物（Fig. 29）

須恵器

坏身 (3)　口径10.2cm、受け部径12.6cmを測る。九州須恵器編年のⅢ期に属す。周辺では当該時期の遺構は知られておらず、貴重な遺物といえる。

瓦質土器

火鉢 (4)　直線的でやや開き気味に立ち上がる体部で、輪花状の平面形を呈し、口縁部外面に菊花文のスタンプを押す。新安の沈没船出土遺物に類例があるタイプのものである。

瓦類

平瓦（5、6） 厚さ約1.8cmで須恵質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。

石製品

砥石（7） 長さ6.6cm、幅6.6cm、厚さ3.6cmの砂岩製で両面が利用された荒砥石である。

滑石加工品（8） 滑石を不整形に切断したもので、長さ4.5cm、幅3.6cm、厚さ1.8cmである。

金属類

鉄釘（9） 長さ1.8cmが残り、幅0.5cm、厚さ0.5cmの方柱状の鉄釘である。

円盤状製品（10） 長さ5.1cm、幅3.9cm、厚さ0.8cmの円盤状の製品である。

15SX014 出土遺物（Fig.29）

瓦類

平瓦（11） 厚さ約2.3cmで須恵質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面はケズリ気味のナデの跡が残る。

15SX015 出土遺物（Fig.29）

金属類

鉱滓（12） 長さ4.7cm、幅4.2cm、厚さ2.8cmの鉱物質の滓である。

15SX016 出土遺物（Fig.29）

土師器

大皿a（13） 淡橙褐色を呈し、高さ2.7cmが残る。

15SX017 出土遺物（Fig.29）

土師器

小皿b（14） 口径7.5cm、高さ1.9cm、底径4.6cmを測る。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

石製品

石鍋B（15） 大ぶりな鍔を持つ形状のもので、口縁外面に煤が付着している。

金属類

鉱滓（16～20） 茶褐色の鉄錆に覆われる金属質の滓で、18は長さ5.1cm、幅5.0cm、厚さ2.7cmの破砕された椀形滓の可能性がある。

15SX020 出土遺物（Fig.30、Pla.9）

土師器

大皿a（1） 口径23.2cm、高さ2.9cm、底径17.6cmに復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。内面は何重にも重なった煤が付着する。

金属類

刀子（2） 長さ14.2cm、幅2.0cm、厚さ1.1cmが残り、片側は木質の柄部分になっている。刃部の断面形は諸刃のような形状を成している。

15SX022 出土遺物（Fig.30）

土師器

大皿a（3、4） 3は口径22.0cm、高さ2.9cm、底径16.2cm、4は口径25.2cm、高さ2.5cm、底径18.0cmに復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。3の内面に煤が付着する。

土師質土器

火鉢（5） 底径21.8cmに復元される平底の鉢である。火鉢になる可能性がある。

15SX023 出土遺物（Fig.30）

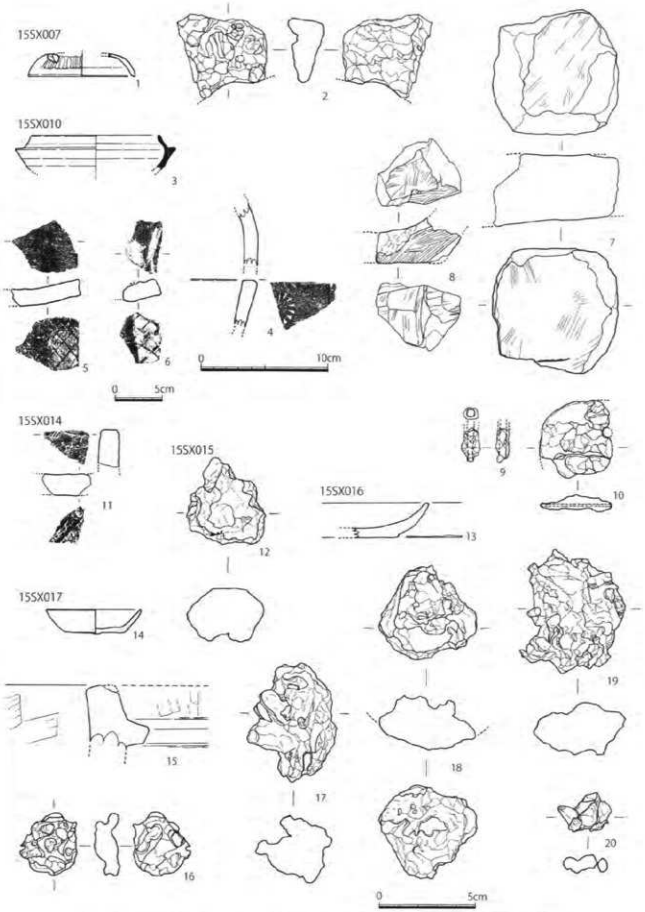


Fig.29 15SX007・010・014・015・016・017出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

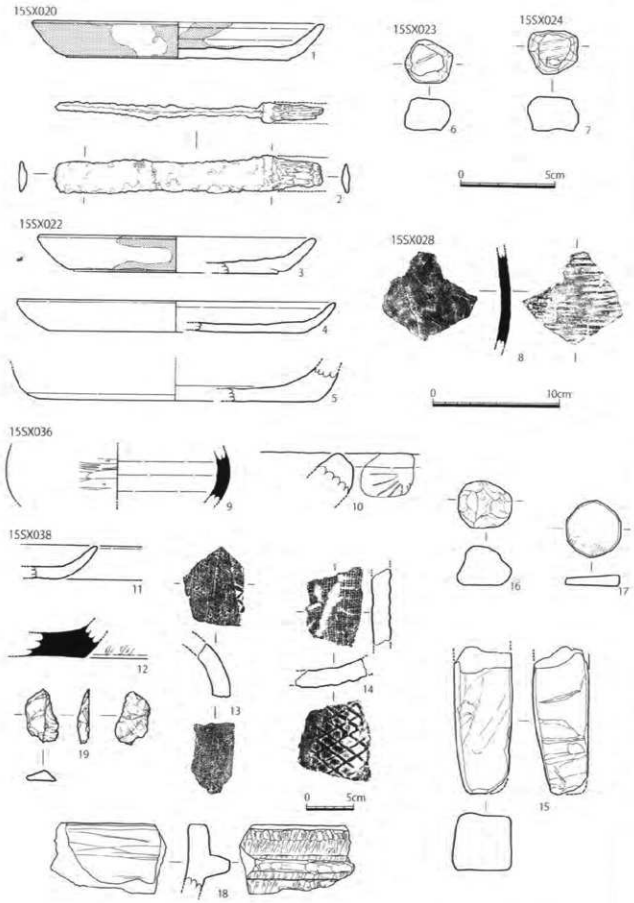


Fig. 30　15SX020・022・023・024・028・036・038 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

土製品

瓦玉（6）　土師質の瓦を素材とし、長さ 2.3cm、幅 2.5cm、厚さ 1.8cm を測る。

15SX024 出土遺物（Fig. 30）

土製品

瓦玉（7）　瓦質の瓦を素材とし、長さ 2.3cm、幅 2.7cm、厚さ 1.9cm を測る。

15SX028 出土遺物（Fig. 30）

須恵質土器

甕（8）　外面に平行刻みのあるタタキ目を持ち、内面は充て具の窪んだ痕跡があり、ナデが施される。

15SX036 出土遺物（Fig. 30）

須恵器

壺（9）　径が 17.6cm に復元される球形の胴部を持つ。外面には横方向のケズリが施される。

土製品

トリベ（10）　暗茶褐色の土師質の胎土は皿形を呈し、外面に放射状の沈線が施される。

15SX038 出土遺物（Fig. 30）

土師器

大皿 a（11）　高さ 2.7cm が残り、外面に煤が付着する。

須恵質土器

鉢 × 甕（12）　底の厚さが 2cm あり、外面にはケズリが施される。産地は不明。

瓦類

丸瓦（13）　厚さ約 1.9cm で須恵質に焼成される斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。

平瓦（14）　厚さ約 2.1cm で硬い土師質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面はやや目の粗い布痕跡が残る。

土製品

棒状土製品（15）　方柱状のもので長さ 9.8cm、幅 3.1cm、厚さ 3.0cm を測る。土器生産に関連すると考えられるものである。

瓦玉（16、17）　16 は土師質の瓦を素材とし、長さ 2.9cm、幅 2.6cm、厚さ 2.1cm を測る。17 は土師器の破片を加工したもので、長さ 2.9cm、幅 3.0cm、厚さ 0.6cm を測る。

石製品

石鍋 B（18）　高さ 5.4cm が残る鍔を持つ形状のもの。

剝片（19）　安山岩の縦長剝片で、長さ 2.9cm、幅 1.8cm、厚さ 0.7cm を測る。

15SX038 茶褐色土出土遺物（Fig. 31）

瓦類

平瓦（1）　厚さ約 2.9cm で瓦質に焼成される。内面は布痕跡が残る。

石製品

碁石（2）　長さ 1.3cm、幅 1.1cm、厚さ 0.4cm を測る。蛇紋岩製で光沢のある暗灰色を呈す。

15SX040 暗灰色土出土遺物（Fig. 31）

土師器

小皿 a（3）　口径 5.7cm、高さ 1.2cm、底径 4.4cm に復元される。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

小皿 b（4）　口径 7.4cm、高さ 2.0cm、底径 5.4cm に復元される。底部は板状圧痕が見られる。

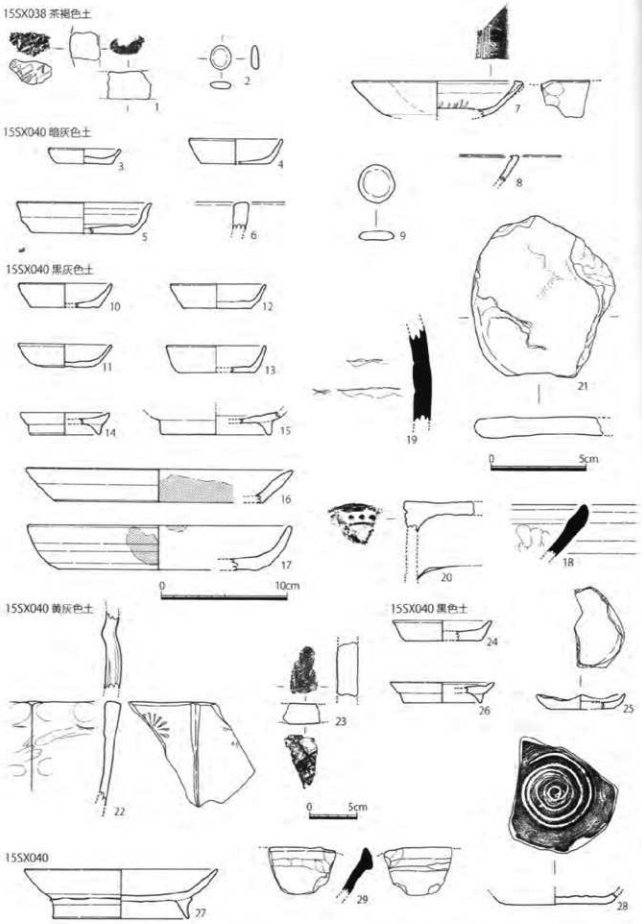


Fig. 31　15SX038・040 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

坏 a（5）　口径 10.5cm、高さ 2.4cm、底径 7.8cm に復元される。板状圧痕が見られる。

瓦質土器

鉢（6）　体部は直線的に立ち上がり、先に若干厚みのある口縁の形状を呈す。

国産陶器

おろし皿（7、8）　黄白色の胎土に薄い黄色の釉が口縁付近に帯状に施される。口縁端部は内側に突出するかえりが付く。内面は線描きで擂り目が入れられる。7 は口径 13.6cm、高さ 2.9cm（欠損）、底径 8.4cm に復元される。瀬戸産。

石製品

碁石（9）　長さ 2.1cm、幅 1.9cm、厚さ 0.5cm を測る。泥岩製で灰黒色を呈す。

15SX040 黒灰色土出土遺物（Fig. 31）

土師器

小皿 b（10 ～ 13）　10 は口径 7.3cm、高さ 1.9cm、底径 5.4cm、11 は口径 7.4cm、高さ 1.8cm、底径 4.6cm、12 は口径 7.5cm、高さ 1.9cm、底径 5.4cm、13 は口径 7.8cm、高さ 2.3cm、底径 6.0cm に復元される。底部の多くは糸切りで板状圧痕が見られる。

小皿 c（14）　口径 7.0cm、高さ 1.8cm、底径 5.6cm に復元される。

椀 c（15）　底径 8.2cm に復元される。

大皿 a（16、17）　16 は口径 21.0cm、高さ 2.6cm、底径 16.6cm、17 は口径 21.0cm、高さ 3.5cm、底径 13.3cm に復元される。内面に油煙の煤が付着する。

須恵質土器

鉢（18）　口縁の先に厚みがある形状で内面に指押さえの痕跡が見られる。東播系の所産か。

大甕（19）　灰黄色を呈す硬質の焼成で、ナデで仕上げられ内面には粘土紐の痕跡が見える。

瓦類

軒丸瓦（20）　外縁に珠文を巡らす瓦当面の小片である。焼成は瓦質。

石製品

円礫（21）長さ 8.5cm、幅 7.5cm、厚さ 1.0cm を測る。緑色片岩製で縁辺に剥離した箇所があるが、人為的か否か判断は難しい。

15SX040 黄灰色土出土遺物（Fig. 31）

瓦質土器

火鉢（22）　直線的でやや開き気味に立ち上がる体部で、輪花状の平面形を呈し、口縁部外面に菊花文のスタンプを押す。新安の沈没船出土遺物に類例があるタイプのものである。

瓦類

平瓦（23）　厚さ約 2.1cm で須恵質に焼成される斜格子のタタキが外面にあり、内面は細かい目の布痕跡が残る。

15SX040 黒色土出土遺物（Fig. 31）

土師器

小皿 a（24、25）　24 は口径 7.7cm、高さ 1.6cm、底径 5.8cm に復元され、底部は糸切りで板状圧痕が見られる。25 は口径 7.0cm、高さ 1.1cm、底径 5.4cm に復元され、口縁の一部が耳皿状に折れ曲がっている。

小皿 c（26）　口径 8.1cm、高さ 1.6cm、底径 6.0cm に復元される。

15SX040 出土遺物（Fig. 31）

土師器

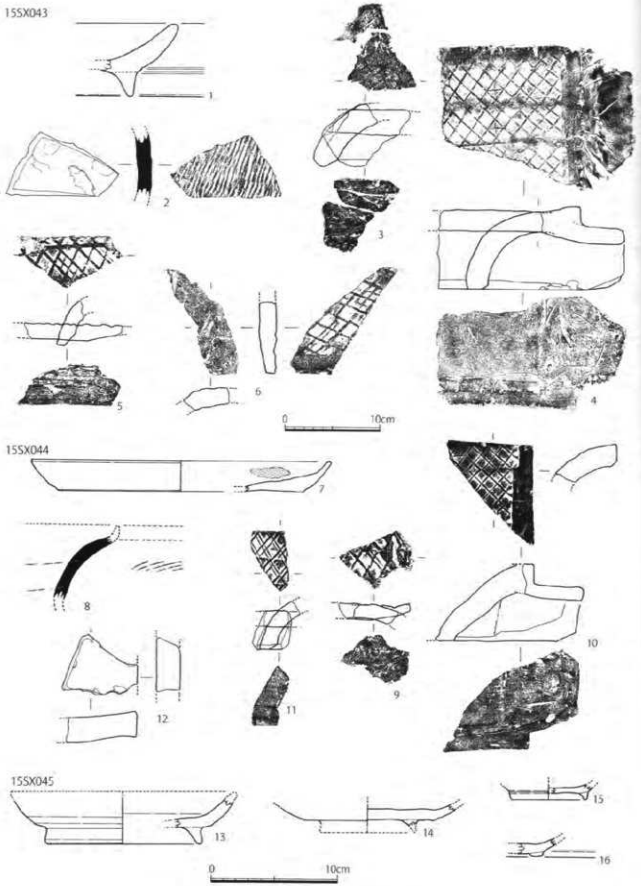


Fig. 32　15SX043・044・045 出土遺物実測図（1/3、1/4）

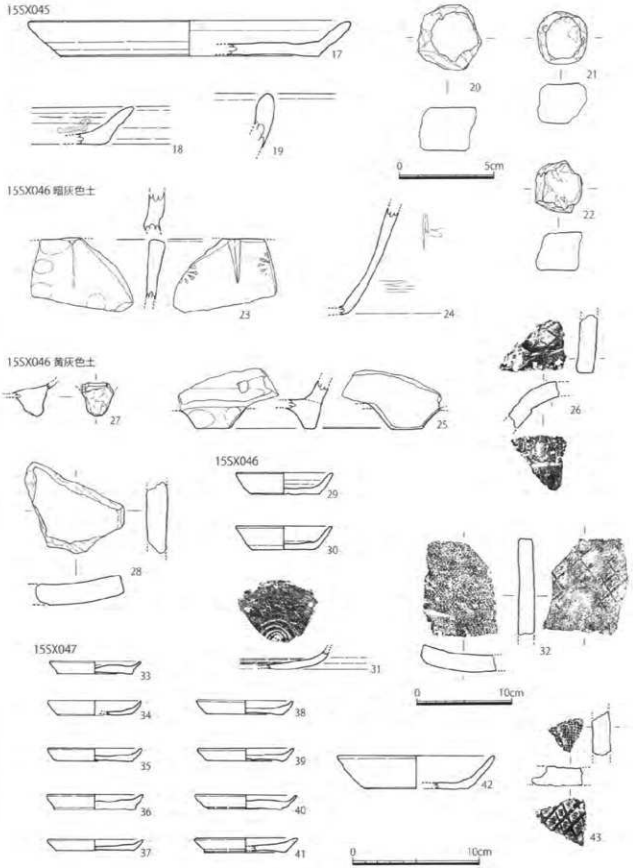


Fig. 33　15SX045・046・047 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

坏ｃ（27、28）　27は口径15.2cm、高さ3.9cm、底径10.8cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。28は底径8.0cmで内底面に螺旋の条痕が明瞭に残る。

須恵質土器

鉢（29）　口縁玉縁形で片口の開く部分が残る。東播系の所産か。

15SX043 出土遺物（Fig.32、Pla.9）

土師器

大皿ｃ（1）　高さ5.9cmが残る。肉厚の体部に三角形の高台が付けられる。

須恵質土器

大甕（2）　灰色を呈す硬い焼成で、外面に目の細かな平行刻みのあるタタキを施す。

瓦類

丸瓦（3～6）　3が瓦質、他は硬質の須恵質の焼成で、斜格子文のタタキを施し、内面は目の細かな布の痕跡がある。側辺は2面のケズリによる面取りがある。4には玉縁が付いている。

15SX044 出土遺物（Fig.32、Pla.9）

土師器

大皿ａ（7）　口径23.6cm、高さ2.4cm、底径19.4cmに復元される。底部は糸切りか。

須恵質土器

甕（8）　色調が淡黄灰色を呈す焼成で、外面に目の細かな平行刻みのあるタタキの痕跡を残す。

瓦類

丸瓦（9～11）　厚さ1.6cmほどで硬質の須恵質の焼成。斜格子文のタタキを施し、内面は目の細かな布の痕跡がある。11は二重格子文である。

平瓦（12）　厚さ2.6cmほどの硬質の須恵質で、無文である。

15SX045 出土遺物（Fig.32、33）

土師器

大皿ｃ（13、14）　13は底径12.4cmに復元される。14は高台が欠損する。内面に油煙の痕跡がある。

大皿ａ（17、18）　17は口径26.4cm、高さ2.8cm、底径20.2cmに復元される。底部は糸切りで板状圧痕と離れ砂が見られる。

瓦器

椀ｃ（15、16）　15は底径5.8cmに復元される。16は高台が底平な形状を呈す。

土師質土器

鉢（19）　体部は直立気味で、口縁端部は丸く収める形状を持つ。

土製品

瓦玉（20～22）　瓦質の瓦を素材とし、20は長さ3.5cm、幅3.3cm、厚さ2.3cm、21は長さ2.8cm、幅2.6cm、厚さ2.1cm、22は長さ2.8cm、幅2.5cm、厚さ2.0cmを測る。

15SX046 暗灰色土出土遺物（Fig.33）

瓦質土器

火鉢（23～25）　23は直線的でやや開き気味に立ち上がる体部で、体部より口縁部が厚い。輪花状の平面形を呈し、口縁部外面に菊花文のスタンプを押す。25は台形状の脚部で装飾はない。

瓦類

平瓦（26）　瓦質で、厚さ1.7cmを測り、斜格子のタタキ目を持つ。内面は粗い布目の上に組み紐の痕跡が残る。

15SX046 黄灰色土出土遺物（Fig.33）

土師質土器

鉢（27）　香炉のような小型の鉢脚部片であろうか。高さは2.0cmほどになる。

瓦類

平瓦（28）　焼成は瓦質で摩耗のため調整は不明。厚さは2.2cmを測る。

15SX046 出土遺物（Fig.33）

土師器

小皿ｂ（29、30）　29は口径7.6cm、高さ1.7cm、底径5.6cm、30は口径7.6cm、高さ1.8cm、底径5.0cmを測る。29は底部糸切りで板状圧痕が見られる。

坏ａ（31）　底部は糸切りで板状圧痕が見られ、内底部に螺旋状の条痕が見られる。

瓦類

平瓦（32）　焼成は須恵質で外面に斜格子のタタキと内面には目の粗い布の痕跡を残す。厚さは1.9cmを測る。

15SX047 出土遺物（Fig.33）

土師器

小皿ａ（33～41）　33は口径7.2cm、高さ1.0cm、底径5.9cm、34は口径7.4cm、高さ1.2cm、底径5.8cm、35は口径7.4cm、高さ1.0cm、底径6.0cm、36は口径7.6cm、高さ1.2cm、底径6.4cm。37は口径7.6cm、高さ0.9cm、底径6.2cm、38は口径7.6cm、高さ1.1cm、底径5.8cm、39は口径7.6cm、高さ1.0cm、底径6.2cm、40は口径8.0cm、高さ1.2cm、底径5.8cm、41は口径8.2cm、高さ1.2cm、底径6.4cmを測る。底部は全て糸切りで板状圧痕が見られる。41は外面に煤が付着する。

坏ａ（42）　口径12.4cm、高さ2.6cm、底径8.2cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

瓦類

平瓦（43）　厚さ約2.0cmで硬い須恵質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面は目の粗い布痕跡が残る。

15SX050 暗灰色土出土遺物（Fig.34）

瓦質土器

鉢（1）　直線的に開く体部で、内外面にハケ目を残す。口縁端部は玉縁にならない。

15SX050 黄色土出土遺物（Fig.34）

土師器

小皿ａ（2）　口径8.0cm、高さ1.6cm、底径5.4cmに復元される。

小皿ｂ（3）　口径7.4cm、高さ2.0cm、底径5.7cmを測る。底部は糸切り。

小皿ｃ（4、5）　高台径が4は5.0cm、5は5.5cmに復元される。

瓦質土器

鉢（6）　直線的に開く体部で、内外面にハケ目を残す。口縁端部は玉縁にはならない。片口の一部分が残る。

瓦類

軒丸瓦（7）　瓦質で焼成され、周縁の珠文帯の一部である。

平瓦（8）　厚さ1.0cmの薄いもので、灰色を呈し、目の細かい縄目を施す。博多遺跡群、箱崎遺跡群、大宰府などで出土し、中国産と評価されている。

15SX050 出土遺物（Fig.34）

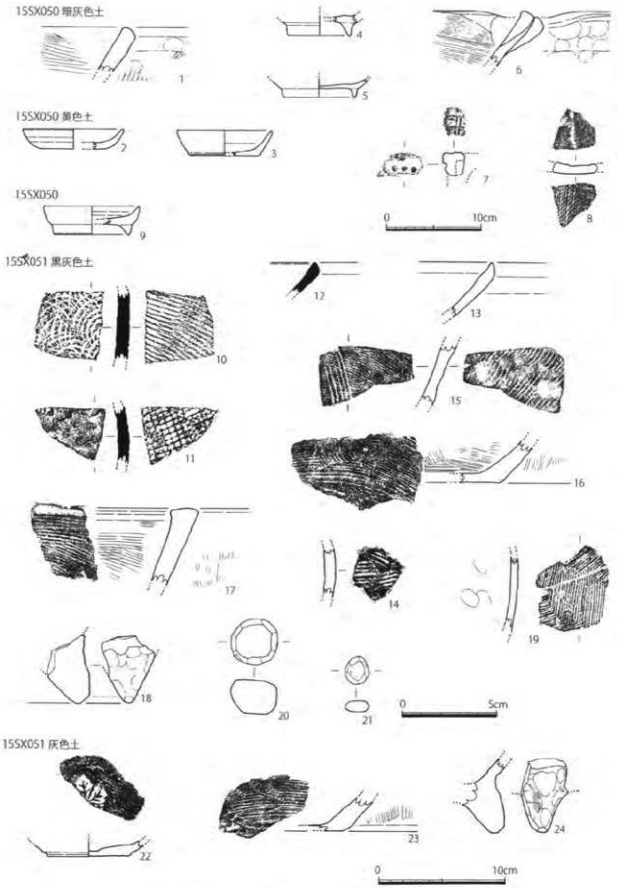


Fig. 34　15SX050・051 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

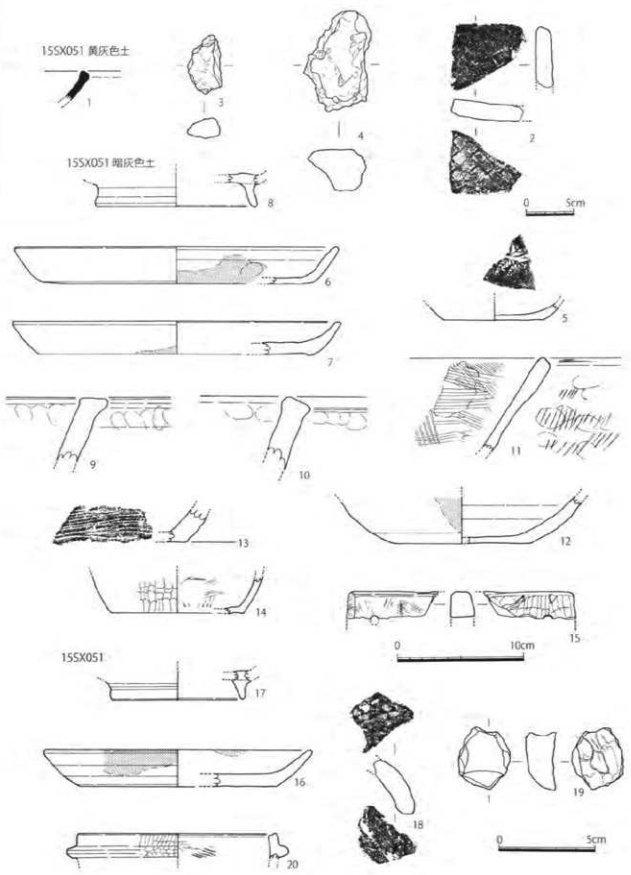


Fig. 35　15SX051 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

土師器

小皿 c（9） 口径 7.6cm、高さ 2.2cm、底径 5.3cm に復元される。

15SX051 黒灰色土出土遺物（Fig. 34）

須恵器

甕（10、11） 厚さ 1cm ほどの硬質な焼成で、10 は外面に平行刻み目のタタキと内面には同心円の当て具痕跡があり、11 には格子目のタタキと内面にはゆるい凹凸をナデた痕跡がある。

須恵質土器

鉢（12） 口縁部断面が三角形を呈す形状で、体部の厚みは 0.6cm 程度と薄い。東播系の所産か。

土師質土器

鉢（13） 口縁部断面が三角形を呈す形状で、体部の厚みが 0.8cm 程度のものである。

甕（14） 厚さ 1cm ほどの軟質な焼成で、外面に平行刻み目のタタキを持つ。

瓦質土器

擂鉢（15） 内面に 5 条の平行する擂り目が施される。外面には斜位のハケ目が残る。

火鉢（16 ～ 18） 16 は内面に粗いハケ目が残る底部片。17 は口縁の断面形が撥形になる形状で、内面に斜位のハケ目が施される。18 は三角形を呈す脚部片で高さは約 4.5cm。

甕（19） 厚さ 0.7cm ほどの軟質な焼成で、外面に目の細かな平行刻み目のタタキを持つ。

土製品

瓦玉（20） 淡灰色で軟質な瓦質の瓦が用いられ、長さ 2.4cm、幅 2.4cm、厚さ約 1.8cm を測る。

石製品

碁石（21） 長さ 1.4cm、幅 1.3cm、厚さ 0.6cm を測る。緑色片岩製で灰色を呈す。

15SX051 灰色土出土遺物（Fig. 34）

土師器

小皿 a（22） 高さ 1.0cm が残る。内底部に葉脈のある葉文をスタンプで押印する。

瓦質土器

火鉢（23、24） 23 は内面に粗いハケ目が残る底部片。24 は三角形を呈す脚部片で高さは 4.0cm ほどである。

15SX051 黄灰色土出土遺物（Fig. 35）

須恵質土器

小鉢（1） 厚さ 0.5cm ほどの灰色を呈すもので、重ね焼きにより口縁端部は光沢のある灰黒色を呈す。東播系の製品か。

瓦類

平瓦（2） 厚さ約 1.8cm で瓦質に焼成される。斜格子のタタキが外面にあり、内面は格子目のスタンプが残る。

土製品

焼土塊（3、4） 淡灰色を呈す土師質のもので、3 は平坦な面があり土壁である可能性がある。

15SX051 暗灰色土出土遺物（Fig. 35）

土師器

小皿 a（5） 底径が 7.8cm に復元できる。内底部に花文をスタンプで押印する。

大皿 a（6、7） 6 は口径 25.6cm、高さ 2.9cm、底径 21.4cm、7 は口径 28.8cm、高さ 2.6cm、底径 21.6cm に復元される。6 の底部は糸切り。油煙の煤が付着している。

大皿 c（8） 底径が 12.8cm に復元できる。高台は細身でやや高い。

土師質土器

火鉢（9、10） 9 は口縁部断面が外に突出する形状で、10 は撥形になる。体部の厚みが 1.8cm 程度のものである。

瓦質土器

擂鉢（11） 内面に横方向のハケ目と 5 条の平行する擂り目を施す。外面には斜位のハケ目が残る。

鉢（12、13） 12 は球形の胴部で外面に煤が付着し、底径は 11.0cm に復元される。13 は厚い平底で内面に粗いハケ目が残される。

石製品

石鍋（14、15） 14 は底径 10.4cm に復元される。体部の厚みが 0.5cm 程度で小型の製品である。15 は体部の厚みが 1.8cm 程度の製品で、径が 6mm ほどの穿孔がある。

15SX051 出土遺物（Fig. 35、36）

土師器

大皿 a（16） 口径 21.2cm、高さ 2.9cm、底径 15.3cm に復元される。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。口縁から体部外面に油煙の煤が付着する。

大皿 c（17） 底径が 10.8cm に復元できる。高台は三角形を呈す。

瓦類

丸瓦（18） 厚さ 1.5cm の土師質の焼成で、斜格子のタタキを持つ。側辺はヘラケズリで成形されている。

土製品

瓦玉（19） 須恵質の瓦を加工したもので、長さ 3.2cm、幅 3.2cm、厚さ 1.7cm を測る。

石製品

石鍋 c（20） 口径 15.8cm に復元される小型のもので、鍔は退化して小ぶりのものである。

砥石（21） 4 面が使用される方柱状を呈し、長さ 10.0cm、幅 6.0cm、厚さ 5.5cm を測る。乳白色の天草産の砂岩の粗砥石である。

15SX055 黄灰色土出土遺物（Fig. 36）

土師器

大皿 a（22） 高さ 1.9cm が残る。体部が横に広がり深みのない形状を呈す。底部は糸切り。内面に油煙の煤が付着する。

皿 c（23） 高台径が 12.4cm に復元される。高台は細身で高い。

瓦質土器

鉢（24） 内面は横方向のハケ目が残る。口縁の断面形は撥形を呈す。

15SX055 出土遺物（Fig. 36）

土師器

小皿 b（25） 高さ 2.0cm、底径 5.7cm を測る。底部は糸切りが見られる。

大坏 c（26） 底径が 10.2cm に復元できる。高台は三角形を呈す。

土師質土器

鉢（27） 外面に浅い沈線が残る。口縁の断面形は三角形を呈す。

瓦質土器

鉢（28 ～ 30） 内面は横方向のハケ目が残る。28 と 29 の口縁の断面形は撥形を呈す。

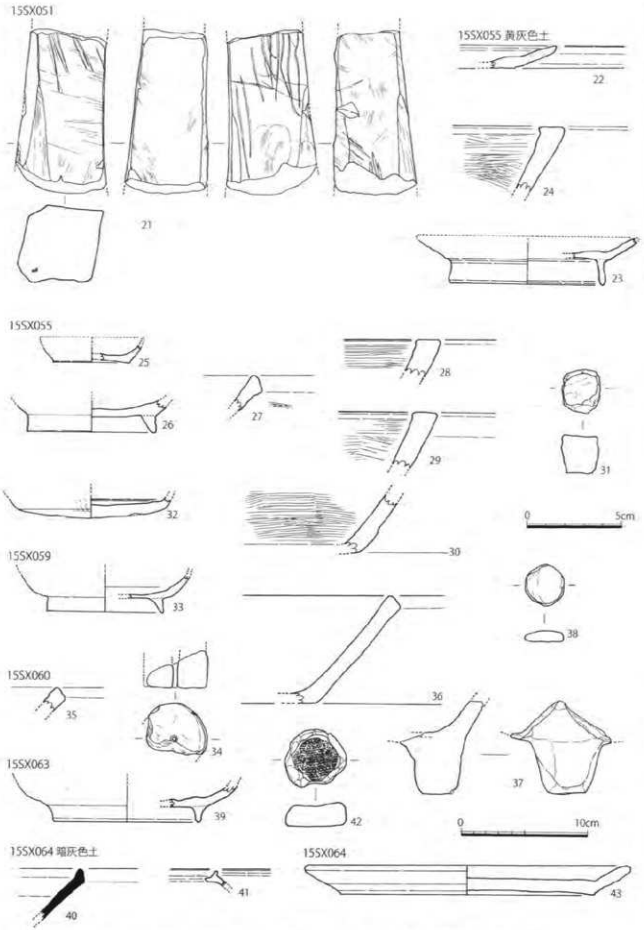


Fig.36　15SX051・055・059・060・063・064 出土遺物実測図（1/2、1/3）

土製品

瓦玉（31）　淡灰色で瓦質の瓦が用いられ、長さ 2.3cm、幅 2.0cm、厚さ約 2.0cm を測る。

石製品

石鍋（32）　底径 11.6cm の小型のもので、外面に煤が付着している。

15SX059 出土遺物（Fig.36）

土師器

椀 c（33）　底径が 9.6cm に復元できる。高台は細身の三角形を呈す。

15SX060 出土遺物（Fig.36）

土師器

器台（34）　径が 6.0cm ほどに復元される柱状のもので、芯に 3mm ほどの穿孔がある。

土師質土器

鉢（35、36）　口縁の断面形が撥形を呈す。36 は高さが 8.8cm を測る。

火鉢（37）　柱状の脚部片で接地面の横幅は 3.0cm、高さ 4.0cm を測る。

土製品

瓦玉（38）　淡黄白色で土師器片が用いられ、長さ 2.2cm、幅 2.1cm、厚さ約 0.6cm を測る。

15SX063 出土遺物（Fig.36）

土師器

大坏 c（39）　底径が 11.4cm に復元できる。高台は細身である。

15SX064 暗灰色土出土遺物（Fig.36）

須恵質土器

鉢（40）　口縁の断面形が三角形を呈す。東播系の製品か。

中国陶器

壺（41）　淡灰色のきめの細かい胎土で、口縁部は極端に内傾し、上に突出する。蓋を受けるような形状か。上部に目跡が残る。未分類。

土製品

瓦玉（42）　暗灰色の瓦質の瓦が用いられ、長さ 2.9cm、幅 3.3cm、厚さ約 1.1cm を測る。

15SX064 出土遺物（Fig.36）

土師器

大皿 a（43）　口径 25.6cm、高さ 2.3cm、底径 19.8cm に復元される。

15SX065 出土遺物（Fig.37）

土師器

小皿 b（1）　口径 6.4cm、高さ 1.8cm、底径 4.4cm を測る。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

椀 c（2）　底径が 7.6cm に復元できる。高台は内に入る三角形を呈す。

大皿 a（3、4）　3 は高さ 2.2cm、4 は高さ 2.9cm の小片である。

須恵質土器

甕（5）　く字形の口縁を持つ長胴になると考えられるタイプのもので、外面に格子目のタタキを持つ。

土師質土器

鉢（6）　厚さ 1.3cm ほどの体部が直線的に開く形状を呈す。口径は 29.4cm、高さ 8.35cm に復元される。

風炉（7）　球形の胴部に直立する口縁を持つ。太宰府では燻さない土師質の一群が存在する。

瓦質土器

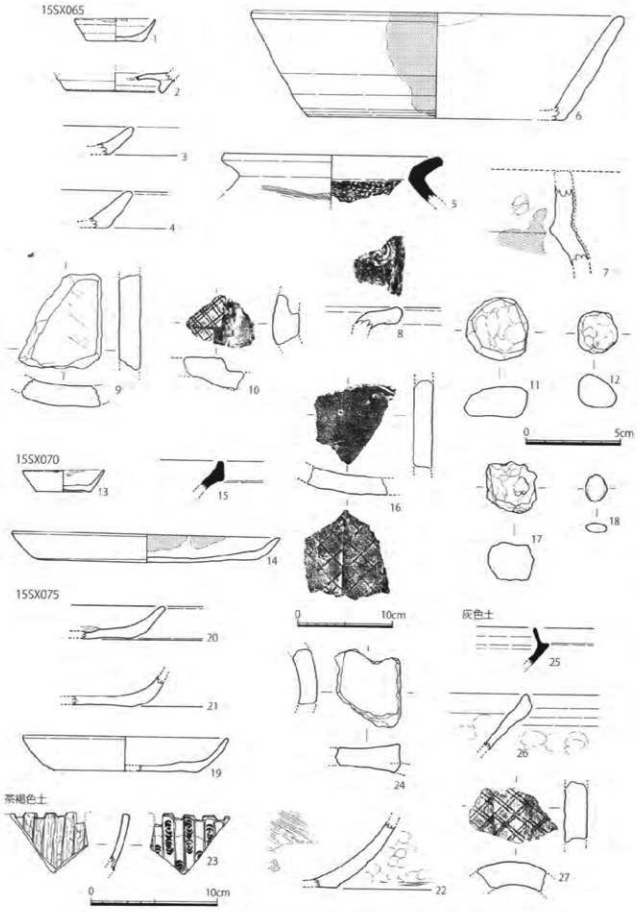


Fig. 37　15SX065・070・075、茶褐色土、灰色土出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

火鉢（8）　く字形に開いて、上面に三つ巴紋のスタンプを連続して入れている。

瓦類

平瓦（9）　厚さ2.3cmほどの土師質のもので、調整は不明。

丸瓦（10）　厚さ2.2cmほどの瓦質のもので、二重斜格子のタタキ目を持つ。

土製品

瓦玉（11、12）　瓦質の瓦を用い、11は長さ3.3cm、幅3.3cm、厚さ約1.6cm、12は長さ2.2cm、幅2.0cm、厚さ約1.7cmを測る。

15SX070出土遺物（Fig. 37）

土師器

小皿b（13）　口径6.4cm、高さ1.7cm、底径4.3cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。

大皿a（14）　口径21.1cm、高さ2.3cm、底径17.5cmを測る。底部は糸切りで板状圧痕が見られる。内面の口縁付近を中心に油煙が付着する。

須恵質土器

鉢（15）　口縁端部の断面形が角ばった三角形状を呈す。東播系の所産か。

瓦類

平瓦（16）　厚さ2.0cmほどの須恵質で、外面に格子目のタタキ目を持つ。

土製品

焼土塊（17）　灰褐色の土師質で、長さ2.7cm、幅2.7cm、厚さ2.0cmを測る。

石製品

碁石（18）　長さ1.4cm、幅1.1cm、厚さ0.5cmを測る。泥岩製で灰色を呈す。

15SX075出土遺物（Fig. 37）

土師器

坏a（19）　口径16.2cm、高さ2.7cm、底径11.2cmに復元される。底部は糸切りと板状圧痕が見られる。

大皿a（20、21）　20は器高2.7cmを測る。両者ともに底部は糸切りと板状圧痕が見られる。

茶褐色土出土遺物（Fig. 37）

瓦質土器

鉢（22）　平底で球形の胴部を持つ。内面は斜位のハケ目を施す。

国産陶器

鉢（23）　ホタテガイのような連続した凹凸を表現した意匠で、内面に青海波状の染付文様をスタンプで施す。光沢のない褐色の鉄釉の上に薄い緑釉を内側にかける。江戸時代の所産か。

瓦類

丸瓦（24）　玉縁の部分で、厚さは1.8cmほど。無文で土師質焼成である。

灰色土出土遺物（Fig. 37）

須恵器

坏身（25）　細身で内傾する受け部を持つ。九州須恵器編年のⅢ期に属す。15SX010出土のものと関連する遺物である。

瓦質土器

鉢（26）　口縁端部の断面形状は三角形であるが、内側がやや窪んで成形されている。

瓦類

丸瓦（27）　硬い瓦質の焼成で、厚さは2.5cmほど。二重斜格子のタタキ目がある。

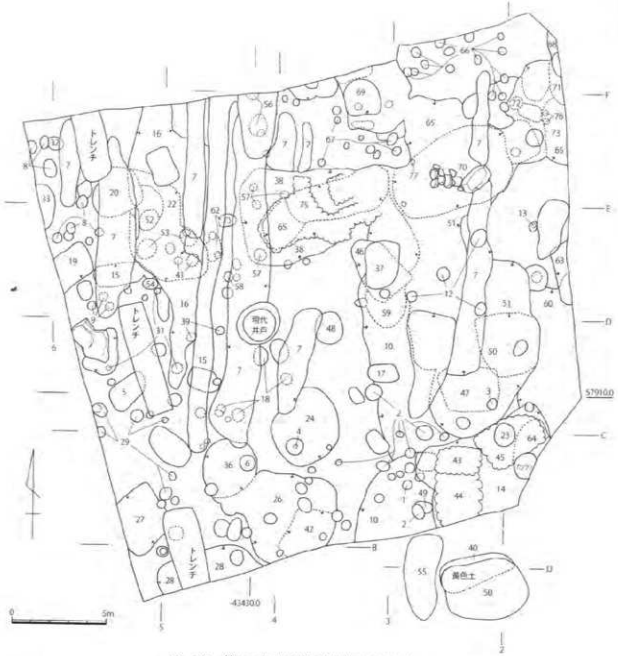


Fig. 38　第 15 次調査遺構略測図（1/100）

(5) 小結

「本堂跡」の碑（近世～近代か）のある土地の南隣地であり、礎石建物の存在が予測されたが、古代末から中世の遺構が対象地全体に広がり、遺構の主体は 13 世紀後半から 14 世紀前半の鎌倉時代後半期にかけての集石を伴う土坑状遺構であった。集石は大小あり、大きなものは 1×2m 程度の長方形を成し、小さいものは 1×0.7m ほどの長楕円形を呈す。集石の中に土師器の坏、皿が挟み込まれたり、集石周辺に供献するような形で置かれたものがある。また、集石遺構と独立して土師器をまとめて廃棄したものがある。宝満山遺跡群第 14 次調査での調査所見から集石遺構は墳墓の可能性も考えられるが、連続して不整形に形成されるものもあり、墓壙が明確な標石墓と一概に同じとは言えない。経塚や墳墓の供献や副葬に用いられる輸入陶磁器と在地土器の供膳具に刀子のセットとなる遺物も出なかった。ただ、原遺跡内ではこのような遺構が集中している箇所が今のところここに限られ、遺跡内にあっても極めて特殊な様相であると言える。安易であるが葬送施設や祭祀施設なども含め、性格付けについては今後の課題としたい。

表 8　第 15 次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	切り合い等	時期	地区番号
1	15SX001	pit		12世紀中場～	B2
2		pit群		12世紀～	B2
3		pit		12世紀～	C2
4		pit		12世紀～	B3
5	15SX005	溜まり状遺構			C5
6		pit			B4
7	15SX007	畝状遺構	近現代	近現代	C2-C5
8		pit群		12世紀中場～	E6
9		pit群	9→7	12世紀～	D5
10	15SX010	整地		13世紀～	3ライン
11		pit	11→8	12世紀～	E5
12		pit群		13世紀後半～	D2
13		pit		13世紀～	D1
14	15SX014	溜まり状遺構		13世紀～	B2
15	15SX015	溜まり状遺構		13世紀後半～	D5
16	15SX016	溝		13世紀～	D5
17	15SX017	pit		13世紀中場～	C3
18		pit群			C4
19		溜まり状遺構			D5
20	15SX020	土坑	20→22	13世紀～	E5
21		pit群	21→7	12世紀～	D4
22	15SX022	溜まり状遺構		13世紀後半～	E5
23	15SX023	溜まり状遺構		12世紀～	C2
24	15SX024	溜まり状遺構		12世紀後半～	C3
25		溜まり状遺構	39→35→25		B2
26		溜まり状遺構			B4
27		溜まり状遺構			B5
28	15SX028	溜まり状遺構		9世紀～	C4
29		pit群		12世紀～	B5
30		溜まり状遺構	30→25		B1
31		pit群		12世紀～	C5
32		pit			E6
33		溜まり状遺構			B6
34		土坑			C5
35		溜まり状遺構			B2
36	15SX036	土坑		12世紀～	B4
37		溜まり状遺構			B3
38	15SX038	溜まり状遺構		13世紀～	E3
39		pit群	39→16		C4
40	15SX040	溜まり状遺構	40→50→51	13世紀前半～	B2
41		pit群	41→22	12世紀～	D4
42		溜まり状遺構	42→26		A3
43	15SX043	溜まり状遺構	44→43	13世紀前半～	B2
44	15SX044	溜まり状遺構		13世紀後半～	B2
45	15SX045	溜まり状遺構	45→43	13世紀前半～	B2
46	15SX046	溜まり状遺構		13世紀後半～	D3
47	15SX047	溜まり状遺構		13世紀前半～	C2
48		溜まり状遺構			C3
49		pit	49→2	13世紀～	B2
50	15SX050	土坑	50→51	13世紀後半～	D2
51	15SX051	溜まり状遺構		13世紀後半～	C2
52		pit		13世紀後半～	D5
53		pit群	53→22		D5
54		pit			D5
55	15SX055	土坑	55→51	13世紀前半～	D2
56		pit群			E4
57		pit群	57→38		D4
58		pit			D4
59	15SX059	土坑	59→46→10		D3
60	15SX060	溜まり状遺構		13世紀前半～	C1
61		整地	61→51	13世紀前半～	C1
62		pit群	62→7	13世紀～	D4
63	15SX063	溜まり状遺構	60→63	13世紀～	D1
64	15SX064	土坑	64→45	13世紀前半～	B1
65	15SX065	溜まり状遺構		13世紀後半～	4ライン
66		pit群			F2
67		pit群			E3
68		pit		13世紀後半～	F1
69		溜まり状遺構			E3
70	15SX070	土坑	70→65	13世紀～	E2
71		溜まり状遺構			F2
72		pit			E1
73		溜まり状遺構	73→71		E1
74		不明			不明
75	15SX075	不明		13世紀後半～	不明
76		不明			不明
77		不明			不明

表9　第15次調査　出土遺物一覧表①

表9　第15次調査　出土遺物一覧表②

表 10　第 15 次調査　土師器小皿・坏計測表①

S-15

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	イト	—	—	13.4	3.3	7.5	○	○

S-16

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	—	—	(8.4)	1.9	(6.7)	○	–
	小皿a	イト	—	—	(7.4)	1.1	(6.0)	○	○
	坏a	イト	—	—	(12.0)	2.1	(8.2)	○?	○
	坏a	イト	—	—	(12.0)	2.3	8.2	○	–

S-17

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	—	—	(9.0)	1.50	(5.9)	–	–
	小皿a	イト	—	—	7.5	1.15	4.6	○	○
	小皿a	イト	—	—	7.5	1.35	3.9	○	×
	小皿a	イト	—	—	(6.9)	1.2	(5.6)	○	○
	小皿a	イト	—	—	(7.6)	1.6	(5.4)	○	–
	小皿a	イト	—	—	(8.3)	1.2	(6.6)	○	○
	小皿a	イト	—	—	(8.4)	1.2	(6.6)	○?	○
	小皿a	イト	—	—	(9.0)	0.9	(7.0)	○	○
	坏a	イト	—	—	(12.8)	2.4	8.6	○	○
	坏a	イト	—	—	13.5	3.1	8.8	○	×
	坏a	イト	—	—	13.7	2.95	8.8	○	×
	坏a	イト	—	—	(13.2)	2.35	8.8	○	○
	坏a	イト	—	—	12.8	2.9	7.9	○	○
	坏a	イト	—	—	12.8	2.6	8.2	○	○
	[illegible]								

表 10　第 15 次調査　土師器小皿・坏計測表②

表 10　第 15 次調査　土師器小皿・坏計測表③

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a	—	—	—	9.0	1.0	7.4	○	○
	小皿 a	イト	—	—	9.4	1.15	(7.2)	○	○
	小皿 a	—	—	—	(8.8)	0.8	(7.2)	○	–
	小皿 a	イト	—	—	(8.0)	1.2	(7.8)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	9.0	0.8	7.2	○	○
	小皿 a	イト	—	—	8.8	1.0	7.0	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.6)	0.7	(7.6)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.6)	0.9	(6.6)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.6)	0.9	(7.0)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.4)	1.0	(6.8)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.8)	1.0	(7.0)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(9.0)	1.0	(7.0)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	8.4	0.8~1.0	7.2	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.8)	0.8	(7.4)	○	–
	小皿 a	イト	—	—	(8.2)	0.85	(6.4)	○	–
	小皿 a	イト	—	—	(8.8)	1.2	(7.2)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(9.0)	1.0	(7.2)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.4)	0.95	(7.2)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.6)	0.9	6.4	○	○
	小皿 a	—	—	—	(8.6)	1.0	(6.6)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	8.0	0.9	6.6	○	○
	小皿 a	イト	—	—	8.0	1.1	6.7	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.4)	1.0	(6.6)	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(8.0)	1.05	6.7	○	○
	小皿 a	イト	—	—	7.6	1.0	5.8	○	○
	小皿 a	イト	—	—	7.4	1.1	5.6	○	○
	小皿 a	イト	—	—	(7.2)	1.1	(5.6)	○	–
	小皿 a	イト	—	—	7.8	0.9	(6.7)	○	○

表 10　第 15 次調査　土師器小皿・坏計測表④

種別	器種		遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B

5、第16次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市三条1丁目1520番8で、個人住宅の基礎工事によって遺構に影響が及ぶため、発掘調査をすることとなった。調査は山村信榮が担当し、平成11（1999）年4月7日～5月10日に実施した。開発対象面積は331㎡で、調査面積は59㎡である。

(2) 立地と基本層位

調査地付近は大城（四王寺）山の南東斜面の標高78m付近に位置し、中世寺院通称「原八坊」の寺域内、かつて原山記念碑が建っていた推定本堂の北隣地に位置する。調査前の調査地は畑であった。

基本層位は黄灰色のいわゆる真砂土と呼ばれる人工的な盛り土造成土（以上が表土）の下に、暗灰色、灰色を呈す耕作土があり、その下に遺物を包含する茶褐色土層がある。この下面で遺構が検出された（Fig. 39）。

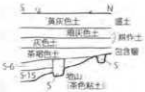


Fig. 39　第16次調査土層略測図

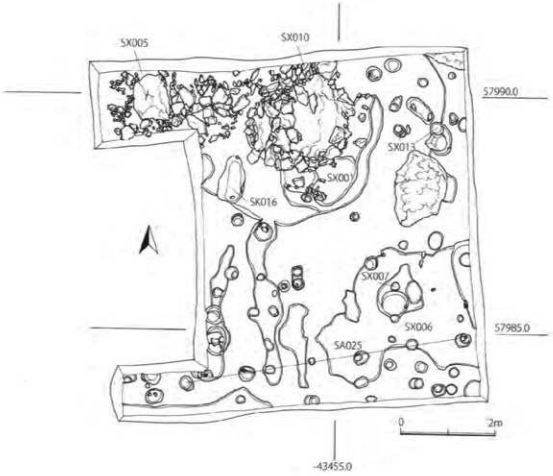


Fig. 40　第16次調査遺構全体図（1/80）

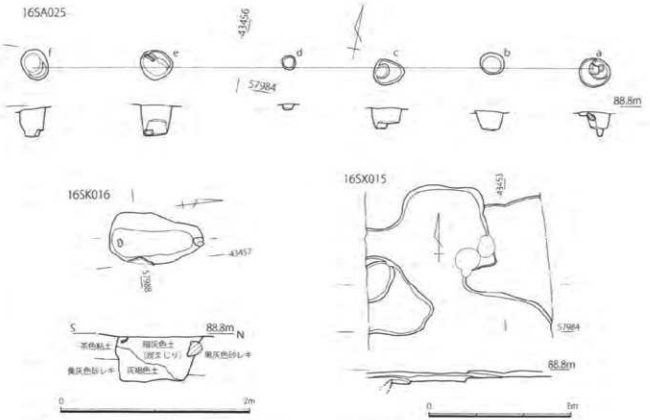


Fig. 41　16SA025・SK016・SX015遺構実測図（1/40、1/80）

(3) 検出遺構

柵列

16SA025（Fig. 41）

調査区の南縁で東西に長く検出されたもので、5間以上の規模で東側に延伸する可能性がある。柱の間隔は西から1.2m、1.5m、1.0m、1.1m、1.2m。柱掘方の径は30cm、深さは20cm程度。完形の小皿bが出土しており、13世紀代頃の所産と見られる。

土坑

16SK016（Fig. 41）

調査区北東側で検出された南北1.0m、東西0.5m、深さ0.5mの南北に長い土坑である。灰褐色土、炭混じりの暗灰色土で埋没している。12世紀代以降の遺物が出土している。

石組状遺構

16SX001・005・010（Fig. 40）

調査区北で検出された南北2.3m、東西5.3mの不整形な石を集積したような遺構である。SX001として掘り下げ、その後土色差よりSX005とSX010に分けた。東側の16SX010の中央に地から表出した花崗岩の巨石が露頭しており、一時期にこれを破砕して地ならしを仕掛けて放置した遺構とも考えられる。遺物はなく形成時期は不明である。

整地

16SX006・015・020（Fig. 41）

調査区中央から南側で広く検出された整地の痕跡で、SX020（灰色粘土）、SX015（暗茶色土）、SX006（灰茶色土）の順で形成されている。西側が深くなっている。16SX006・015からは13世紀代以降の、

16SX020からは13世紀前半以降の遺物が出土している。この整地が完了した後に上面にピットなどの遺構が形成されている。

(4) 出土遺物

柵列

16SA025e 出土遺物 (Fig. 42)

土師器

小皿b (1) 口径8.8cm、高さ2.2cm、底径5.7cmに復元される。底部は糸切りが残る。

16SA025f 出土遺物 (Fig. 42)

土師器

坏a (2) 底径7.8cmに復元される。高台は断面形が三角形を呈す。

その他の遺構

16SX006 出土遺物 (Fig. 42、Pla. 10)

土師器

器台 (3) 高さ8.9cm、底径7.9cmを測る。脚の内面はナデで成形される。上の坏部は欠損するが、中央は穿孔されている。

土製品

トリベ (4) 全体は橙褐色の土師質で、内面は白色化し気泡が見られる。

16SX007 出土遺物 (Fig. 42、Pla. 10)

土製品

炉壁 (5、6) 厚さ2.3cmほどで全体は橙色の土師質である。片面は白色化し気泡が見られる。

16SX015 暗茶色土出土遺物 (Fig. 42)

土師器

小皿a (7) 口径7.2cm、高さ0.8cm、底径5.6cmに復元される。底部は糸切り。

石製品

滑石加工品 (8) 滑石を不整形に切断した小片で、長さ5.0cm、幅2.2cm、厚さ2.2cmである。

16SX020 灰色粘土出土遺物 (Fig. 42、Pla. 10)

土師器

大皿c (9) 口径7.2cm、高さ0.8cm、底径5.6cmに復元される。底部は糸切りか。

国産陶器

甕 (10) 茶褐色を呈す焼きしまった胎土を持つ。底径13.0cmに復元される。

土製品

瓦玉 (11) 長さ2.8cm、幅2.7cm、厚さ2.1cmを測る瓦質の瓦を用いる。

茶褐色土出土遺物 (Fig. 42)

石製品

碁石 (12) 長さ1.4cm、幅1.4cm、厚さ0.6cmを測る。泥岩製で暗灰色を呈す。

表土出土遺物 (Fig. 42)

石製品

碁石 (13) 長さ1.9cm、幅1.5cm、厚さ0.7cmを測る。緑色片岩製で暗灰色を呈す。

土製品

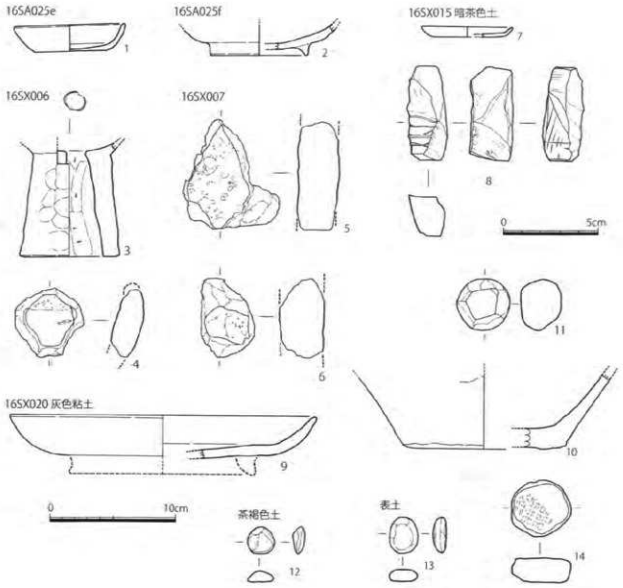


Fig. 42 第16次調査出土遺物実測図 (1/2、1/3)

瓦玉 (14) 長さ3.1cm、幅3.0cm、厚さ1.4cmを測る。格子目のタタキを持つ瓦質の瓦を用いる。

(5) 小結

調査区内では北は石組み状遺構、南はピット群という形で遺構が検出された。そのうち南にある東西方向の柵列16SA025は北に従って地盤が高くなる方位に直交した方位を持ち、13世紀代の土地利用の状況が知られる。これら遺構のベース面は16SX006・015とした13世紀代の整地面であり、この中から鋳造に関連する鋳型等が出土した。至近での寺境内での鋳銅生産行為が確認された。

この整地の下には12世紀中頃に位置付けられる16SX020とした溜まり状遺構があるが、この遺構は茶色粘土の無遺物層を埋めて形成された、本調査区で最も初期の遺構である。

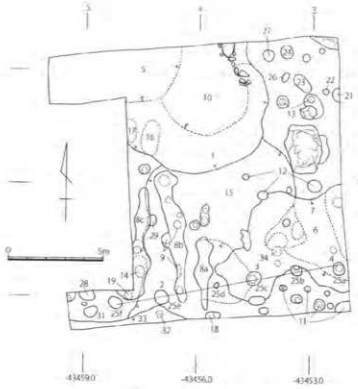


Fig. 43　第 16 次調査遺構略測図 (1/200)

表 11　第 16 次調査遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	切り合い等	時期	地区番号
1		石組遺構			E4
2	16SA025e	pit			C4
3		pit			C3
4		pit			C2
5	16SX005	石組遺構			E4
6	16SX006	溜まり状遺構		13世紀後半～	C3
7	16SX007	pit			C3
8		溝群			C4
9		pit群		12世紀中頃～	C4
10	16SX010	石組遺構			E4
11		pit群		13世紀～	C3
12		pit群			C3
13	16SX013	pit群			D3
14		pit			C4
15	16SX015	溜まり状遺構		13世紀～	C3
16	16SK016	土坑		12世紀～	D4
17		pit			D4
18		pit			B3
19		pit			B4
20	16SX020	溜まり状遺構		12世紀中頃～	C3
21		pit			D2
22		pit			D2
23		pit			E3
24		pit			E3
25	16SA025	柵列	S-4・3・2・31	12世紀後半～	Cライン
26		pit			D3
27		pit			E3
28		pit		12世紀中頃～	B4
29		pit			C4
31	16SA025f	pit			B4
32		pit			B4
33		溝			B4
34		pit		12世紀中頃～	C3
36		pit			B4

表 12　第 16 次調査　出土遺物一覧表

S-1黒褐色土
土　師　器 坏a?(1)　小皿a(1)
瀬戸窯系青磁 椀;
土師質土器 鍋?
白　　磁 椀;底口縁(2)　白磁破片(1)

S-1b灰茶色土
土　師　器 破片

S-2
土　師　器 小皿a(1)

S-3
土師質土器 鉢?

S-4
土　師　器 小皿a(1)?
白　　磁 椀;IV(1)

S-6茶褐色土
須　恵　器 蓋　坏×蓋　壺?
土　師　器 坏a　小皿(1)
瀬戸窯系青磁 椀;I(1)　II-b(1)
同安窯系青磁 皿;I-1a(1)
土　製　品 フイゴ羽口?

S-6
土　師　器 器台
同安窯系青磁 皿;I-1a(1)
土　製　品 伊賀　フイゴ羽口　トリベ

S-7
土　師　器 供膳具
土師質土器 破片
土　製　品 伊賀

S-8
須　恵　器 坏?
土　師　器 坏?(1)
白　　磁 椀破片(1)　白磁破片(1)

S-9
土　師　器 小皿a(~)
土師質土器 破片?
金 属 製 品 釘

S-11
土　師　器 小皿a
瓦　　器 破片
瀬戸窯系青磁 椀;I(1)　I-2(1)

S-12
土　師　器 坏a

S-13
土　師　器 小皿a
白　　磁 椀;破片(1)
中 国 陶 器 耳壺(1)

S-14
土　師　器 坏a

S-15暗茶色土
須　恵　器 坏c3
土　師　器 坏a　小皿a(1)　皿c
瓦 質 土 器 A 椀
瓦 色 土 器 B 椀
国 産 陶 器 壺(東海系)
白　　磁 椀;底口縁(1)　破片(1)　白磁破片(2)
　　皿;V-2a(1)　椀片(1)　壺破片(1)
同安窯系青磁 椀;I-1b(1)
中 国 陶 器 壺(2)
石　　製　品 板状滑石製品

S-16
土　師　器 小皿a(1)

S-18
土　師　器 坏a?

S-19
須恵質(輸入)朝鮮系無釉陶器;壺?

S-20灰色粘土
土　師　器 坏a(1)　椀c　小皿a(1)　大皿c
国 産 陶 器 壺
白　　磁 椀;IV(1)　V-4(1)　VII(1)　白磁破片(2)
　　皿;V(1)　小皿(1)
同安窯系青磁 椀;I-1b(3)　I-1c(1)
中 国 陶 器 壺破片(1)　壺破片(1)　陶器破片(1)
土　製　品 瓦玉

S-21
土　師　器 坏a(1?)

S-23
土　師　器 坏a

S-24
土　師　器 坏a　小皿a

S-25
土　師　器 椀c
瀬戸窯系青磁 椀;I-1a(1)

S-26
土　師　器 供膳具

S-28
土　師　器 小皿a(1)

S-29
土　師　器 供膳具

S-31
土　師　器 坏c　小皿b

S-32
土　師　器 供膳具

S-33
土　師　器 供膳具
白　　磁 椀;IV(1)

S-34
土　師　器 小皿a(1)

茶褐色土
土　師　器 小皿a
白　　磁 椀破片(1)
瀬戸窯系青磁 椀破片(1)
同安窯系青磁 椀;I-1b(1)
肥前系陶磁器 染付;丸椀
国 産 陶 器 壺(近世~)
石　　製　品 番石(黒)

灰色土
土　師　器 小皿a(1)
土師質土器 鉢?
須恵質土器 鉢(東播系)
瓦 質 土 器 鉢?
国 産 陶 器 壺(東海系)、破片
白　　磁 椀;IV(1)　破片(1)
　　皿破片(2)　壺破片(1)　白磁破片(1)
瀬戸窯系青磁 椀;I-3a(1)　II-b?(1)　坏皿(1)
同安窯系青磁 椀;I-1b(1)　皿;I-1a(2)
須恵質(輸入)朝鮮系無釉陶器;壺?(1)
瓦　　類 平瓦(叩目、無文)
金 属 製 品 釘

黄土
須 恵 質 土 器 鉢(東播系)
肥前系陶磁器 染付;椀(桐板手)
国 産 陶 器 鉢　壺(近世~)
白　　磁 椀;IV(1)　V-4a(1)　破片(2)　小椀(1)
　　白磁破片(1)　底口縁(2)
瀬戸窯系青磁 椀;I-1a(1)　II-b(1)　坏皿-3a(1)
同安窯系青磁 皿;I-b(1)
瓦　　類 平瓦(陶器、現代)
石　　製　品 番石(黒)
土　製　品 瓦玉
金 属 製 品 釘

表 13　第 16 次調査　土師器小皿・坏計測表

S-3

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イ1	—	—	(8.4)	1.1	(7.4)	○ ○

S-9

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	~3	—	—	(8.6)	1.0	(6.4)	○ ○
	小皿a	~9	—	—	(9.8)	1.4	(7.4)	○ —

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-20灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	—	—	(7.4)	0.9	(6.4)	—
	小皿a	イ1	—	—	(8.2)	1.0	(5.6)	○ ○
	小皿a	イ1	—	—	(8.2)	1.0	(5.0)	○ ○
	小皿a	イ1	—	—	(8.2)	0.7	(4.8)	○ ○
	小皿a	イ1	—	—	(8.6)	1.05	(6.6)	○ ○
	坏a	イ1	—	—	17.2	2.2	(14.6)	○ ○
	坏a	イ1	—	—	—	3.6*a	9.8	○ ○
	坏a	イ1	—	—	(15.8)	3.0	(11.8)	○ —

6、第 17 次調査

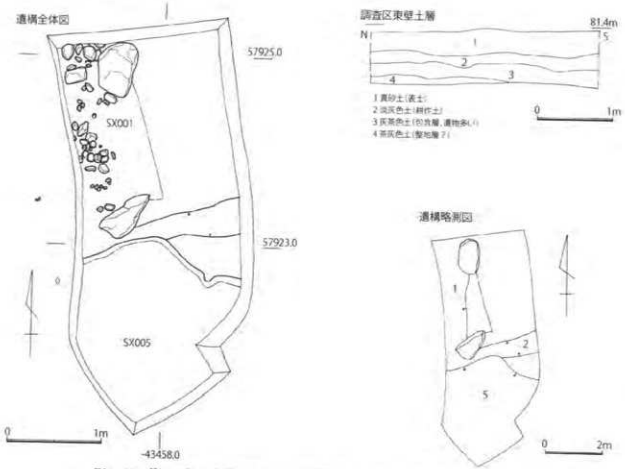


Fig. 44　第 17 次調査遺構全体図・土層図・略測図（1/40、1/50、1/150）

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市三条 1 丁目 1518-2 で、原山記念碑の西隣の台地で、以前から原山本堂跡といわれている土地である。

この土地については、平成 13（2001）年 3 月 8 日に大和工業（株）福岡支店から、個人住宅の建て替えに伴う文化財の取り扱いについての問い合わせがあり、建物の計画次第では保存もしくは本格的な発掘調査が必要であることを伝え協議を進めた。平成 13（2001）年 3 月 26 日に人力により遺構面までの深さの確認を行った結果、計画する建物は遺構に影響しないことがわかった。しかし、対象地が昔から原山無量寺の本堂跡と伝えられていることもあり、広域に遺構の状況を確認する必要性を伝え、建築に影響がなく、地権者の同意が得られた範囲で発掘調査を行うこととなった。発掘調査は建物解体後の平成 13（2001）年 4 月 25 日に実施し、遺構は埋め戻し保存されている。調査対象面積は 283.15 ㎡、調査面積は 6.1 ㎡を測る。調査は宮崎亮一が行った。

(2) 立地と基本層位

原山無量寺の本堂跡と伝えられる場所で、宅地になる前は田圃であったという。宅地造成の際の整地層（真砂土）が約 0.3m あり、その下に旧耕作土が 0.1m 程あり、その直下に遺物が多い包含層が存在する。包含層を除去した茶灰色土に遺構が見られるが、地山ではないため整地層の可能性も考えられる。

(3) 検出遺構

その他の遺構

17SX001（Fig. 44）

大きさ 0.4×0.6m と 0.28×0.6m の大石の間に 0.1m 前後の石が集積し、前者の大石の周囲には 0.2m 前後の石が見られる。西側にはさらに続くとみられる。人為的な集石と考えられる。この状況は周辺の調査でも確認され、墳墓もしくは祭祀の可能性も考えられる。

17SX005（Fig. 44）

調査範囲も狭く、遺構検出のみで完掘していないため全容は不明。暗茶色土の埋土である。土坑以外の性格の可能性も考えられる。

(4) 出土遺物

17SX005 出土遺物（Fig. 45）

土師器

小皿 a（1）　復元口径 8.6cm、器高 1.0cm、復元底径 6.7cm。底部には僅かに糸切り痕が残る。

椀 c（2）　復元高台径 7.2cm。焼成は不良でやや摩滅する。

丸底坏（3）　復元口径 15.8cm。内外面は磨滅し調整不明。色調は淡橙黄褐色を呈する。

同安窯系青磁

椀（4）　I-1b 類。外面下半は露胎で櫛目、内面には花文のようなものがみえる。釉調はやや緑色味を帯びた灰色釉で、薄く透明で若干貫入が入る。

茶灰色土出土遺物（Fig. 45、Pla. 10）

白磁

皿（5）　Ⅵ-1b 類。釉調はやや緑色味を帯びた乳白色釉で細かな貫入が入る。底部外面は露胎。

椀(6,7)　6 はⅡ類。釉調は光沢のある黄白色で、化粧土がかかり細かな貫入が入る。底部外面は露胎。7 はⅤ類。釉調は光沢のあるやや青味がかった白色で貫入が入る。底部外面は露胎。

(5) 小結

原山本堂跡といわれている台地の一角に位置するため、確認のための調査を行った。調査範囲が狭いため詳細に言及することは難しいが、人為的な集石が確認されたことにより、周辺一帯には遺構が存在していることが確認された。しかし、本堂に直接関係のある遺構は今回確認されず、今後広い範囲で調査し検討する必要があるだろう。

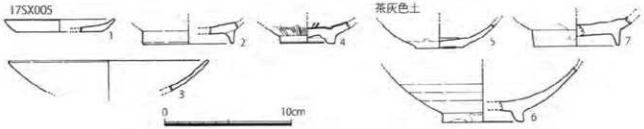


Fig. 45　第 17 次調査出土遺物実測図（1/3）

表 14　第 17 次調査　遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	時期	地区
1	17SX001	集石遺構		
2		溝		
5	17SX005	土坑もしくは段落ち?	12世紀中～	

表 15　第 17 次調査　出土遺物一覧表

S-5	
土　師	器坏a,小皿a(1),椀c,坏,丸底坏,破片
黒 色 土 器	E破片
同安窯系青磁	椀：I-1b(1)
茶灰色土	
土　師	器坏a,坏,椀,破片
金 属 製 品	鉸具,鉄塊
茶灰色土	
須　恵　器	
土　師	器坏a,小皿a(2),椀c,坏
	丸底坏,甕,破片
黒 色 土 器	B椀
白	磁 椀：Ⅱ(6)，Ⅴ(7)
	皿：Ⅵ-1b(5)　白磁破片(3)

7、第19次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市連歌屋1丁目2157番地で、共同住宅の外壁工事によって遺構に影響が及ぶため、発掘調査をすることとなった。調査は山村信榮が担当し、平成18(2006)年12月18日～平成19(2007)年1月31日に実施した。開発対象面積は950㎡で、調査面積は340㎡である。

(2) 立地と基本層位

調査地付近は標高71～73mの四王寺山南東にあり、「醍醐」の地名を持ち、周辺に建長寺、安祥寺の地名が残ることから、山岳寺院の範囲内と考えられる。調査前の調査地は雑種地であった。

調査は土地の北縁と東縁のみを帯状で掘った。土地は東に対しても北に対しても一段高く、調査対象地は傾斜面となっていた。北縁は東西方向の道路に隣接する。

基本層位は東西の各傾斜面で異なり、また、東縁においては南北方向で土壌が東に向かって変移する。北縁の東側では表土下0.6mの間に表土とした灰黒色土、遺物包含層の黒灰色土（この下面が1面）、暗茶色土（この下面が3面）、黄茶色土（平安前期の層）があり、その下は無遺物の橙色粘土層、黒色粘土層となっている。東縁の北側では、表土層下に黒灰色土（この下面が1面）、淡黒灰色土（この下面が2面）、黄褐色粘土、暗茶色土ないし暗茶色砂状土層があり（この下面が3面）、その下に無遺物の橙色粘土層がある。東縁の中央では、黒色土の表土層の下に黒灰色土、橙色土の互層があり、その下に淡茶灰色土があり、その下に無遺物の橙色粘土層がある。(Fig. 47)

(3) 検出遺構

溝

19SD005 (Fig. 48)

調査区東側で検出された南北10m、幅1.0m、深さ0.4mの南北に長い溝である。東側の調査区外に延びる。暗黒灰色土で埋没する。13世紀代の遺物が出土している。

墳墓

19ST009 (Fig. 48)

調査区東縁の法面の下で検出された。南北2.2m、幅0.9m、深さ0.3mの南北に長い墓壙を持つ。北小口付近に同安窯系青磁椀、白磁椀、白磁皿、土師器皿aが伏せたような斜めの状態で検出された。釘が1点見られたが他にはなく、地山の石の露頭などから棺はなく木蓋のみを用いた土葬墓と思われる。遺物は棺の蓋が腐朽して転落したものと思われる。

19ST025 (Fig. 48)

調査区の南端で長さ0.7mほどが引っかかったようにかろうじて検出された。幅は0.8mほどか。深さ0.1mほどしか残らなかった墓壙から、同安窯系青磁皿2点と白磁の皿2点、鉄釘7点が出土している。木棺墓と考えられる。

石組・集石状遺構

19SX001 (Fig. 49)

調査区北側で、幅約2.5mの間隔で長さ1.5mの2列の南北に長い石組が検出された。東側のa列の方は30cmの間隔をおいて対面する短い石の列があり、北側は溝状を呈しているが、埋土中に流下したような痕跡は見られなかった。ベースメントの関係など、遺構の検出状況から鎌倉時代頃の所産と考えら

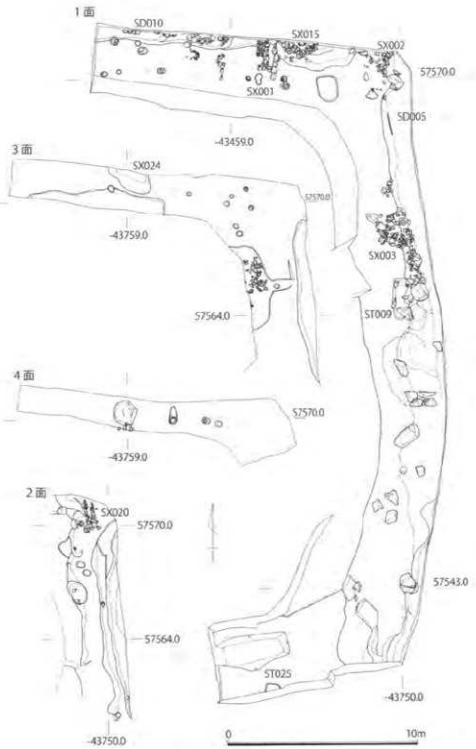


Fig. 46　第19次調査遺構全体図（1/200）

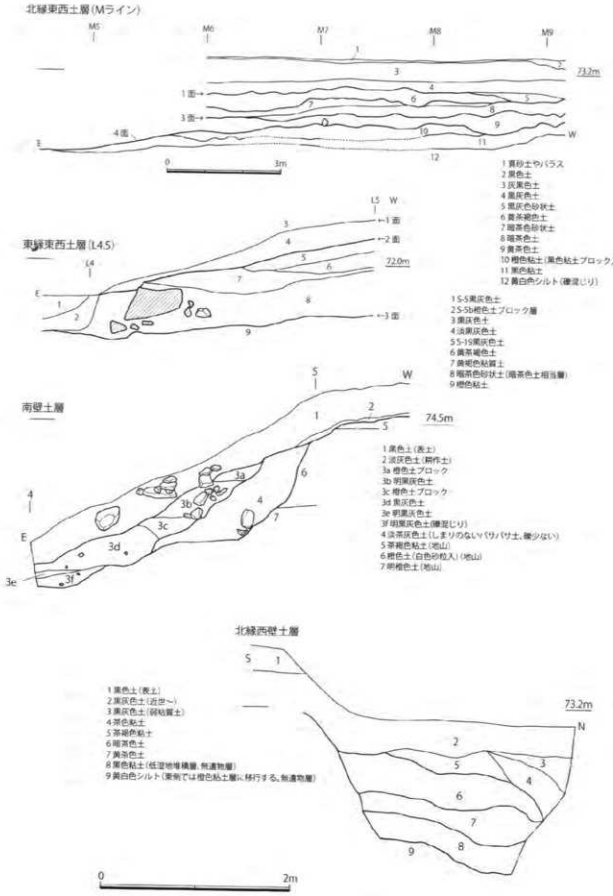


Fig. 47　第19次調査土層実測図（1/40、1/100）

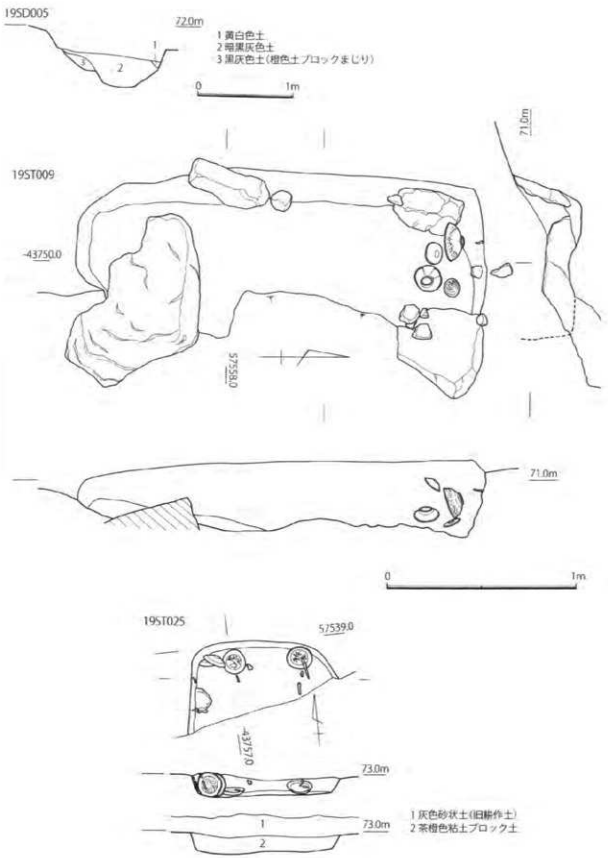


Fig. 48　19SD005、ST009・025遺構実測図（1/20、1/40）

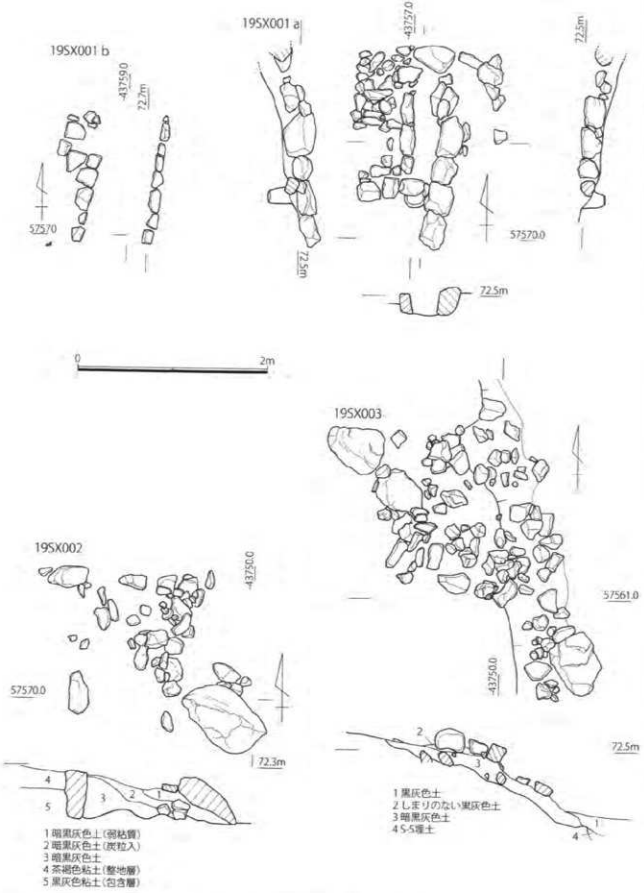


Fig. 49　19SX001・002・003 遺構実測図（1/40）

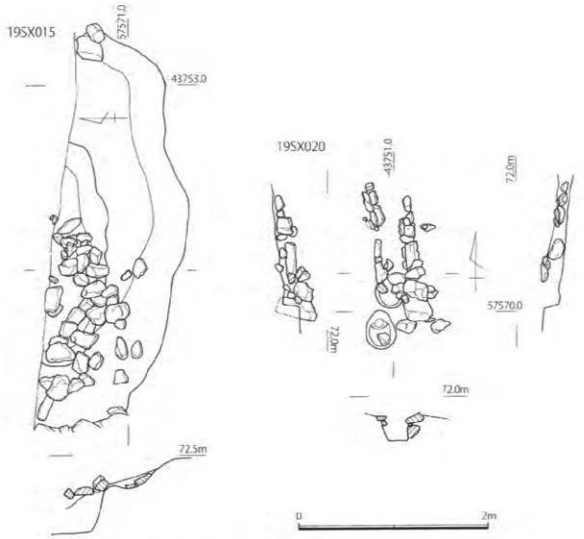


Fig. 50　19SX015・020 遺構実測図（1/40）

れる。

19SX002（Fig. 49）

調査区北東角の1面にあるもので、東西 1m、南北 1m ほどの角を作り出すような形状を呈している。ベースメントの関係など、遺構の検出状況から鎌倉時代頃の所産と考えられる。

19SX003（Fig. 49）

調査区東縁の中央付近の斜面にあるもので、東西 2.5m、南北 3m ほどの範囲に集石されている。規則性は認めがたい。

19SX015（Fig. 50）

調査区北縁の東側にあるもので、東西 4.5m、南北 1.2m ほどの窪みの上面に集石されている。規則性は認めがたい。窪みの中からは 13 世紀代の遺物が出土している。

19SX020（Fig. 50）

調査区北東角近くの 2 面にあるもので、19SX001a に似た 30cm の間隔をおいて対面する溝状を呈す石組みである。19SX001a とは土層関係では一時期古く、場所は多少異なるが、北辺において同様の遺構が同じ方向を向いて繰り返し構築されたことになる。

(4) 出土遺物

墳墓

19ST009 出土遺物 (Fig. 51、Pl a. 10)

土師器

小皿 a (1)　口径 9.0cm、高さ 1.0cm、底径 7.8cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

須恵質土器

鉢 (2)　口径 29.4cm、高さ 9.8cm、底径 9.4cm に復元される破片である。青灰色を呈し硬く焼締まっている。東播系のものである。墓壙に混入したものか。

白磁

椀 (3、4)　3 は口径 14.6cm、高さ 3.9cm、底径 5.7cm を測る。Ⅷ-1 類。4 は口径 16.4cm、高さ 7.4cm、底径 5.2cm を測る。V-2b 類。

白磁

皿 (5)　口径 10.5cm、高さ 2.1cm、底径 4.2cm を測る。Ⅳ-2a 類。

19ST025 出土遺物 (Fig. 6、Pl a. 10)

龍泉窯系青磁

皿 (6、7)　6 は口径 12.9cm、高さ 3.4cm、底径 4.5cm、7 は口径 12.8cm、高さ 3.5cm、底径 49.8cm を測る。I-1b 類。

白磁

皿 (8、9)　8 は口径 12.7cm、高さ 2.4cm、底径 5.3cm、9 は口径 12.6cm、高さ 2.6cm、底径 5.2cm を測る。外底面に○に－を重ねた墨書が両方にある。Ⅷ-2b 類。

溝

19SD005 出土遺物 (Fig. 51)

土師器

小皿 a (10、11)　10 は口径 8.1cm、高さ 1.0cm、底径 6.8cm、11 は口径 9.6cm、高さ 1.1cm、底径 8.0cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

坏 a (12 ～ 16)　12 は口径 13.4cm、高さ 2.4cm、底径 8.6cm、13 は口径 12.7cm、高さ 2.5cm、底径 8.8cm。14 は口径 15.4cm、高さ 2.7cm、底径 10.8cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

土師質土器

鍋 (17)　湾曲しながらく字形に開く口縁を持つ。内面はハケで成形される。

国産陶器

甕 (18)　茶褐色を呈す硬く緻密な胎土を持つ。口縁端部が尖るように上に跳ね上がる。常滑の 5 から 6 型式段階のものか。

瓦類

瓦片 (19)　焼成は須恵質で、格子目のタタキの外面に内面はやや目の粗い布の痕跡が残る。

石製品

碁石 (20)　長さ 2.0cm、幅 1.3cm、厚さ 1.2cm を測る。蛇紋岩製で黒灰色を呈す。

19SD010 出土遺物 (Fig. 52)

須恵器

蓋 3 (1)　天井部はナデで調整され、口縁端部の断面形状が細身の三角形を呈す。

瓦器

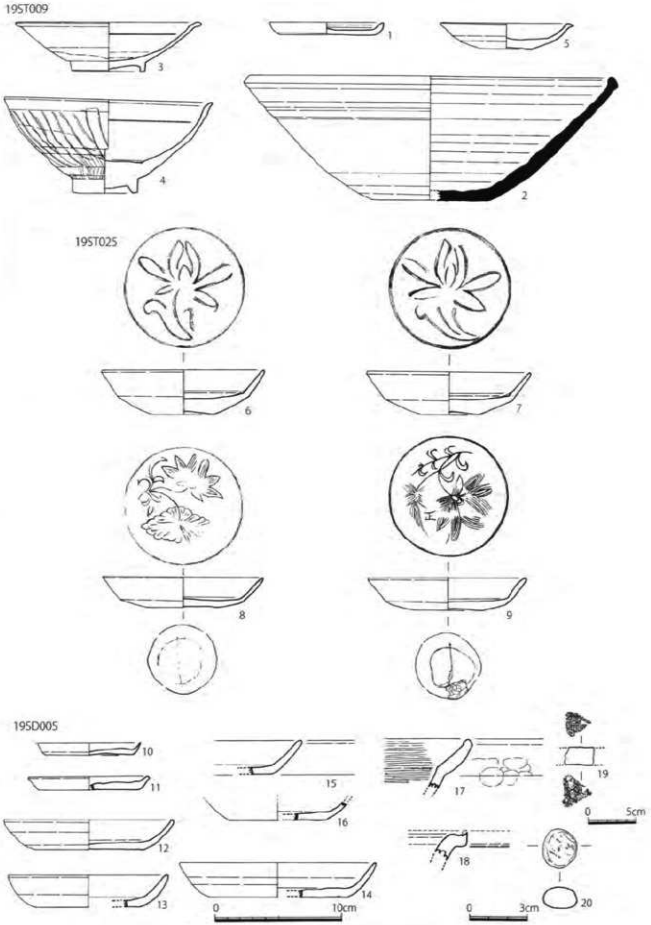


Fig. 51　19ST009・025、SD005 出土遺物実測図 (1/2、1/3、1/4)

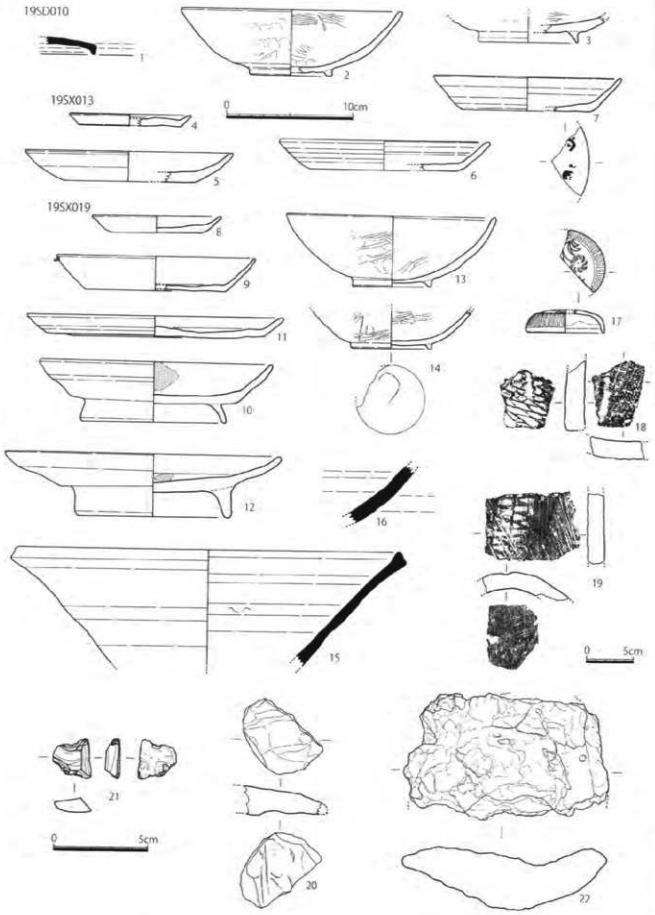


Fig. 52　19SD010、SX013・019 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

椀 c（2）　口径 17.4cm、高さ 5.3cm、底径 6.5cm に復元される。内面にミガキ b が施される。

黒色土器 B 類

椀 c(3)　底径が 7.9cm に復元される。内面にミガキ b が施される。托の張り出し部分が欠落している。

その他の遺構

19SX013 出土遺物（Fig. 52）

土師器

小皿 a（4）　口径 9.6cm、高さ 0.5cm、底径 8.2cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

坏 a（5 ～ 7）　5 は口径 16.4cm、高さ 2.4cm、底径 10.3cm、6 は口径 16.6cm、高さ 2.4cm、底径 11.5cm、7 は口径 14.8cm、高さ 2.7cm、底径 10.0cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。7 の外底部に墨書が見られるが、判読はできなかった。

19SX019 出土遺物（Fig. 52、Pl a, 10）

土師器

小皿 a（8）　口径 10.2cm、高さ 1.4cm、底径 7.0cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

坏 a（9）　口径 15.6cm、高さ 2.7cm、底径 11.0cm に復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

坏 c（10）　口径 18.4cm、高さ 4.0cm、底径 11.5cm に復元される。口縁内側に油煙の跡が残る。

大皿 a（11）　口径 20.2cm、高さ 1.7cm、底径 11.1cm に復元される。口縁内側に油煙の跡が残る。

大皿 c（12）　口径 14.2cm、高さ 2.7cm、底径 9.8cm に復元される。

瓦器

椀 c(13、14)　13 は口径 16.5cm、高さ 5.7cm、底径 6.2cm に復元される。内外面にミガキ b が施される。重ね焼きによる色相の差が内底に残る。

須恵質土器

鉢（15、16）　15 は口径 31.2cm、高さ 9.1cm を測る。ラッパ状で直線的に開く体部を持つ。東播系のものか。16 は体部の下半部片か。

青白磁

合子蓋（17）　草花文をあしらった型で成形した蓋で、口径 6.2cm、高さ 1.8cm を測る。

瓦類

平瓦（18）　厚さ 2.1cm で、淡灰色で軟質な瓦質の焼成で、斜格子目のタタキと目と粗い布痕跡を持つ。

丸瓦（19）　厚さ 1.7cm で、茶灰色で硬質な瓦質の焼成で、斜格子に直線を入れた目のタタキを持つ。表面の布の目は細かい。

土製品

フイゴ羽口（20）　長さ 4.2cm、幅 4.0cm、厚さ 1.6cm の小片で、内面に煤が付着する。

石製品

剥片（21）　黒曜石の原石表皮を持つ剥片で、長さ 2.1cm、幅 1.9cm、厚さ 0.8cm を測る。

金属類

滓（22）　長さ 10.7cm、幅 6.7cm、厚さ 2.8cm の方形の板状で、全体を茶褐色の鉄錆が覆い、一部に土師質の付着物がある。断面形状から椀型滓と思われる。

茶褐色粘土出土遺物（Fig. 53）

土師器

小皿 a（1）　口径 9.1cm、高さ 1.0cm、底径 7.0cm に復元される。底部は糸切りか。

坏 a（2、3）　2 は口径 15.6cm、高さ 2.6cm、底径 10.4cm、3 は口径 15.7cm、高さ 3.1cm、底径

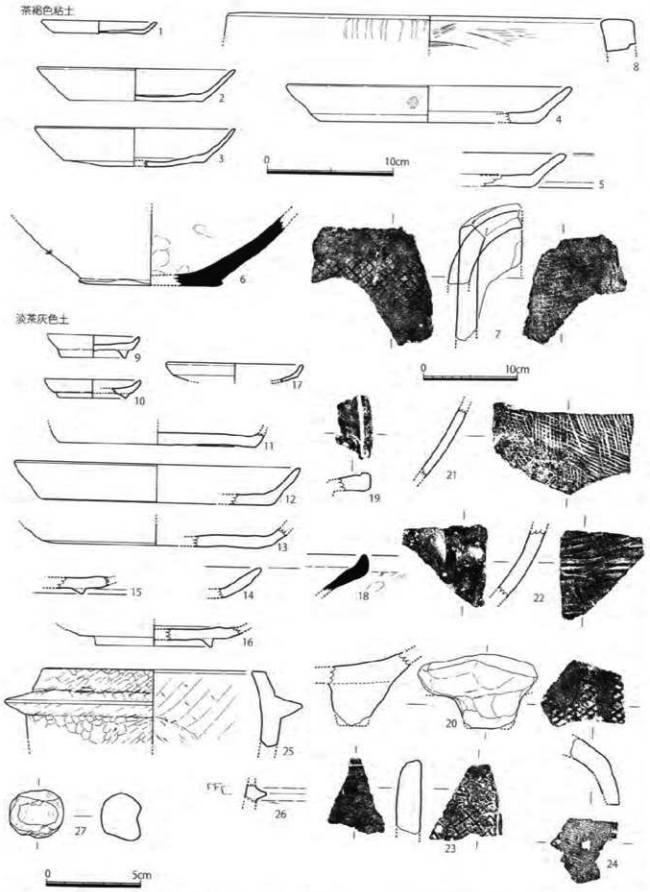


Fig. 53　第19次調査茶褐色粘土・淡茶灰色土出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

11.0cmに復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

大皿a（4、5）　4は口径22.5cm、高さ2.9cm、底径17.0cmに復元される。内側に油煙の跡が残る。5は高さ2.7cmを測る。

須恵質土器

鉢（6）　底径11.4cm、高さ5.7cmに復元される。硬い焼成で、東播系のものか。

瓦類

丸瓦（7）　厚さ2.2cmで、暗灰茶色を呈す瓦質の焼成で、正格子に近い斜格子目のタタキを持つ。外面の布目は粗い。

石製品

石鍋（8）　復元口径32.0cm、内外面には調整のヘラケズリ、断面にも二次加工のケズリ痕跡がある。

淡茶灰色土出土遺物（Fig. 53）

土師器

小皿c（9、10）　9は口径7.3cm、高さ1.8cm、底径5.07cm、10は口径7.6cm、高さ1.5cm、底径5.2cmに復元される。

大皿a（11～14）　11は底径が15.5cm。12は口径22.6cm、高さ3.0cm、底径18.0cm、13は底径が18.2cmに復元される。13は内面に煤が付着している。

坏c（15、16）　16は底径が9.2cmに復元される。短い断面形が三角形の高台が付けられる。

瓦器

皿a（17）　口径10.6cm、高さ1.5cmに復元される。内面に煤が付着する。

須恵質土器

鉢（18）　色調は灰黄色を呈し、口縁は玉縁状になる。東播系のものか。

土師質土器

火鉢（19）　平坦な口縁上面に三つ巴文のスタンプを押す。火舎とされることがある。

鉢（20）　柱状の脚部で高さが3.0cmほど。装飾はない。

瓦質土器

甕（21、22）　平行刻みのタタキ目を外面に持つ。21はタタキの目が細かく、胎土がしまっている。

瓦類

平瓦（23）　厚さ2.6cmで、灰褐色を呈す須恵質の焼成で、斜格子目のタタキを持つ。

丸瓦（24）　厚さ2.1cmで、灰黄色を呈す須恵質の焼成で、斜格子目のタタキを持つ。

石製品

石鍋B類（25、26）　25は口径17.4cm、高さ5.9cmに復元される。26は高さ3.7cmほどの小片で、鍔は退化した小さめのものが採用されている。

土製品

瓦玉（27）　長さ2.8cm、幅2.4cm、厚さ約2.0cmを測る。瓦質を呈す。

黄茶色土出土遺物（Fig. 54、Pla. 10）

土師器

坏a(1,2)　1は口径12.5cm、高さ4.0cm、底径7.0cm。2は口径12.0cm、高さ3.8cm、底径6.0cmを測る。大宰府土器編年Ⅶ期に位置づけられる。

脚付坏（3）　坏aに長脚を付けたもので、坏aと同時期の所産である。

緑釉陶器

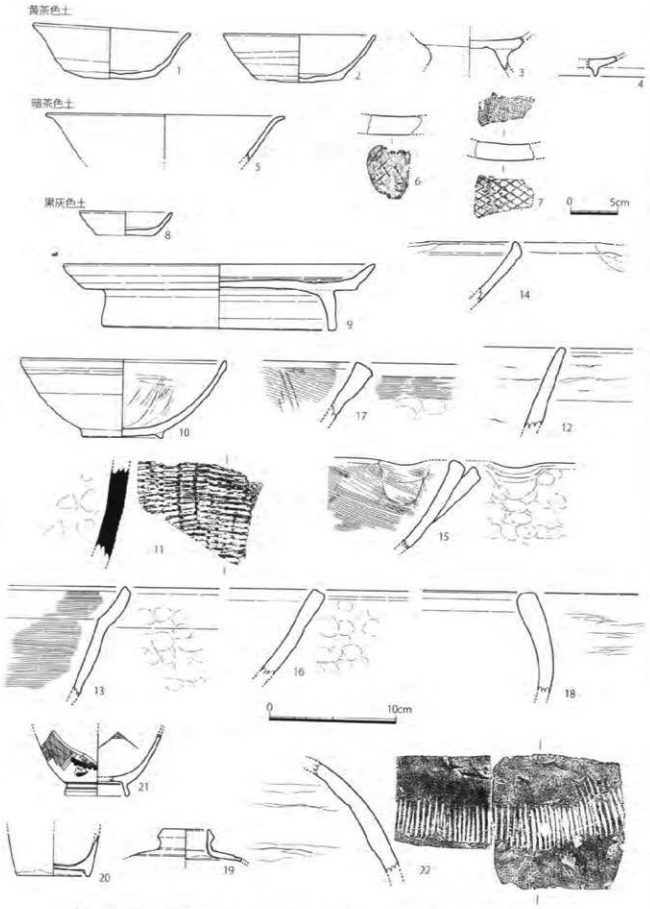


Fig. 54　第 19 次調査黄茶色土・暗茶色土・黒灰色土出土遺物実測図（1/3、1/4）

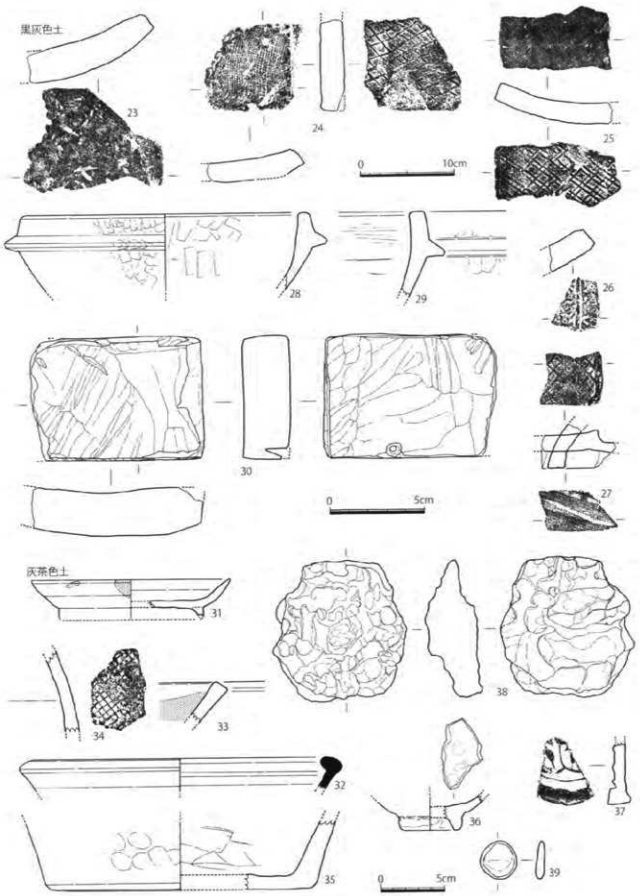


Fig. 55　第 19 次調査黒灰色土・灰茶色土出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

坏ｃ（4）　くすんだ緑色の釉を用い、灰白色で緻密な胎土を持つ。高台部分の芯が黒色化している。周防産のもの。

暗茶色土出土遺物（Fig. 54）

越州窯系青磁

椀（5）　口径18.8cm、高さ3.7cmに復元される。I-2類。

瓦類

平瓦（6,7）　6は厚さ2.0cmで、灰白色を呈す瓦質の焼成で、斜格子のタタキ目を持つ。7は厚さ1.6cmで、淡灰色を呈す須恵質の焼成で、斜格子のタタキ目を持つ。内面の布の目が粗い。

黒灰色土出土遺物（Fig. 54、55）

土師器

小皿ｂ（8）　口径7.3cm、高さ1.9cm、底径4.5cmに復元される。底部は糸切りに板状圧痕が残る。

大皿ｃ（9）　口径24.6cm、高さ5.1cm、底径18.4cmを測る。底部は糸切り。内外面全体に油煙の煤が付着する。

瓦器

椀（10）　口径16.3cm、高さ6.2cm、底径6.4cmに復元される。内面にミガキｂが施される。

須恵質土器

甕（11）　淡灰色を呈す硬い胎土に格子目のタタキを持つ。

土師質土器

鉢（12）　淡橙褐色のやや軟質な胎土を持ち、直線的に開く体部を持つ。

鍋（13）　弧を描くようにく字形に屈曲して開く口縁を持つ。内面は横方向のハケ目が施される。

瓦質土器

鉢（14～16）　口縁端部の断面形状が三角形を呈す。片口の部分を残す。15は内面に斜位のハケ目が入る。

擂鉢（17）　口縁端部の断面形状が撥形を呈し、内面に4条以上の平行した擂り目を持つ。

火鉢（18）　内傾して先に厚みを増す口縁を持つ。外面はミガキｂが残る。

青白磁

梅瓶（19）　肩の張る胴部から短く上に立ち上がる口縁を持つ。端部は断面形が小さな三角形を呈す。釉調はくすんだ灰緑色を呈す。

龍泉窯系青磁

壺×瓶(20)　底径が5.8cmに復元される。直線的に開く体部の延長に短いケズリ出しの高台が付く。透明感のない緑青灰色釉が内外面ともに厚く掛けられ、畳付け部分は施釉後に掻き取られている。Ⅳ系以降の所産であろう。未分類。

肥前系染付

椀(21)　灰色味を帯びた白色の下地で薄墨のような呉須で絵付けされる。丸椀になるものと思われる。近世後期から近代の所産であろう。

国産陶器

甕（22）　暗灰色で硬質な胎土で、肩の部分に装飾的に並行刻み目を持つタタキを施す。産地は不明。

瓦類

平瓦（23～27）　硬い瓦質の胎土に斜格子のタタキが外面に施され、内面は布痕跡が残る。25はタタキ目が二重斜格子である。24は布の目は粗い。

石製品

石鍋B類（28、29）　28は口径22.8cm、高さ6.1cmに復元される。29も大きさとしてはほぼ同じものと思われる。両者ともに外面に煤が付着する。

滑石加工品（30）　滑石を方形に切断したもので、長さ9.2cm、幅6.5cm、厚さ2.5cmを測る。円錐状に穿孔しかかった穴がある。

灰茶色土出土遺物（Fig. 55）

土師器

皿ｃ（31）　口径15.6cm、高さ3.1cm、底径11.4cmに復元される。断面三角形の高台が付けられる。

須恵質土器

鉢（32）　口径25.4cm、高さ2.6cmに復元される。口縁の断面形の内側に突出する玉縁である。東播系の所産か。

土師質土器

鉢（33）　先が厚い撥型の断面形を呈す口縁を持つ。

瓦質土器

甕（34）　外面に目の細かな斜格子のタタキ目を持つ。

火鉢（35）　底径20.6cm、高さ5.6cmに復元される。内面は工具によるケズリが施される。

白磁

椀(36)　底径4.6cm、高さ2.5cmに復元される。胎土は白褐色、釉調は乳白色を呈す。高台は厚く高い。内底面に目跡が顕著に残る。朝鮮系のものか。

瓦類

軒丸瓦（37）　周縁の内側に花文が描かれる。中国産との指摘がある。近くでは太宰府天満宮境内で出土している。

金属類

滓（38）　長さ7.4cm、幅7.1cm、厚さ2.8cmを測る椀形滓である。鉄錆が全体を覆う。

石製品

碁石（39）　長さ2.0cm、幅2.0cm、厚さ0.5cmを測る。明灰色を呈す。

暗茶褐色土出土遺物（Fig. 56）

土師器

坏ａ（1）　口径15.4cm、高さ2.4cm、底径10.7cmに復元される。

器台（2）　脚部のみの破片で、高さ5.6cm、底径7.5cmに復元される。

土製品

瓦玉（3）　長さ2.5cm、幅2.5cm、厚さ1.9cmを測る。須恵質の瓦を用いる。

暗黒灰色土出土遺物（Fig. 56）

土師器

小皿ａ（4～11）　4は口径8.0cm、高さ1.1cm、底径6.7cm、5は口径8.4cm、高さ0.7cm、底径6.4cm、6は口径8.4cm、高さ0.8cm、底径6.4cm、7は口径8.6cm、高さ0.8cm、底径7.4cm、8は口径9.0cm、高さ1.2cm、底径6.6cm、9は口径9.3cm、高さ1.4cm、底径7.1cm、10は口径9.6cm、高さ1.4cm、底径7.8cm、11は口径9.6cm、高さ1.0cm、底径8.2cmに復元される。底部は糸切りで9から11には板状圧痕が残される。

坏ａ（12～16）　12は口径13.4cm、高さ2.1cm、底径9.1cm、13は口径15.8cm、高さ3.2cm、底径

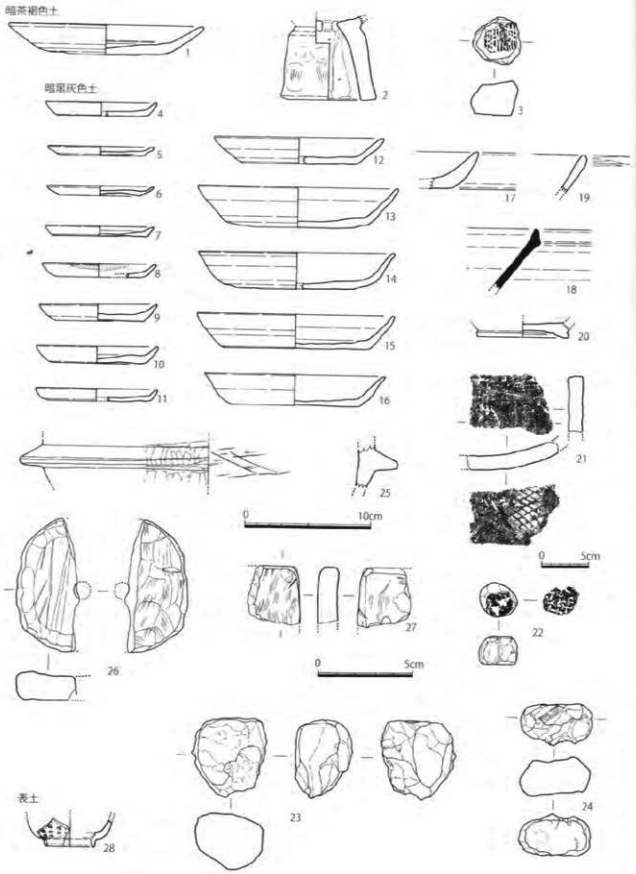


Fig. 56　第19次調査暗茶褐色土・暗黒灰色土・表土出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

11.2cm、14は口径15.5cm、高さ2.9cm、底径9.4cm、15は口径15.6cm、高さ2.7cm、底径11.6cm、16は口径14.2cm、高さ2.5cm、底径10.0cmに復元される。底部は糸切りで16には板状圧痕が残される。

大皿（17）　高さ2.9cmを測る。

須恵質土器

鉢（18）　玉縁の断面形状を呈す口縁を持つ。東播系のものか。

瓦器

椀（19）　白灰色の軟質の胎土で、口縁端部にミガキの痕跡が見られる。

越州窯系青磁

椀（20）　底径が7.2cmに復元される。三角形の低い高台の内側に沈線を施す。Ⅱ-1b類。

瓦類

平瓦（21）　厚さ1.5cmで、淡灰黄灰色を呈す須恵質の焼成で、目の細かな斜格子のタタキ目を持つ。

土製品

瓦玉（22）　長さ2.0cm、幅1.8cm、厚さ約1.5cmを測る。須恵質を呈す。

焼土塊（23、24）　23は土師質を呈し、長さ4.2cm、幅4.0cm、厚さ約3cmを測る。24は厚さ1.8cmほどで植物繊維が混じる。土壁の可能性がある。

石製品

石鍋B類（25）　鍔の径が29.8cmに復元される。外面に煤が付着する。

滑石加工品（26、27）　26は滑石を円形に加工したもので、幅7.0cm、厚さ1.4cmを測る。中心に8mmほどの穿孔を施す。27は板状のもので、長さ3.1cm、幅2.8cm、厚さ約1.1cmを測る。

表土出土遺物（Fig. 56）

肥前系染付

盃（28）　高台径が4.0cmに復元される。体部にプリント呉須で漢詩を書く。

(5) 小結

遺構は4面検出され、北縁では最下層4面が9世紀中後半、3面が12世紀後半から13世紀、2面が13世紀後半～14世紀代、4面は18世紀代以降の形成である。

3面では、土地の北端東西方向にこの土地での出入りや水処理を目的とすると考えられる19SX001a、19SX020があることから、鎌倉後期には現在の周辺に残る土地区割りが形成されていた可能性が指摘される。南北溝19SDS005の存在も同様に、東側との境を明示する施設であろう。この東境は本調査区から東に落ちた段裾に当たり、この後には本調査区側から土砂と多量の花崗岩礫が捨てられ石原の様相を呈していた。下層の2面段階ではこの東縁斜面際にたまり状遺構19SX019が形成され、儀式に用いられたと思われる完形の脚台付きの大皿や坏・皿類が廃棄され、3面同様の空間利用が鎌倉前期頃まで遡る可能性がある。

また、この頃には東斜面下で19ST009土葬墓、南側土地境で19ST025木棺墓が形成されており、条坊城内で同時期に見られる屋敷墓的な葬送があったことが知られる。19ST025は土師器を交えない陶磁器だけの供献具セット（白磁皿2、青磁皿2枚）であり注目される。鉛錬鍛冶滓もこの時期のものであり、平安後期から鎌倉前期にかけては活発に土地利用が進行していたものと想定される。

最下層のあたる4面では北辺に厚さ30cmほどの遺物包含層と若干のピットの形成が見られる。9世紀中頃から後半の土器が出土しており、原遺跡においてはじめて平安前期の安定した面が確認された。土師器坏aが2点出土し、両者ともに油煙が付着していることから、灯火具として利用されたことが知

られる。また、緑釉陶器（長門産）も出土しており、祭祀遺跡である宝満山山頂遺跡の土器組成に似ている点などから単なる山地開発型の集落ではないことが推察される。

最下層のあたる4面では原遺跡においてはじめて平安前期の安定した面が確認された。原山（原八坊）成立の過程を考える上では重要な発見であり、入唐僧円珍が寄宿したとされる仁寿年間段階（9世紀中頃）の四王院（寺）との係わりを考える上でも重要である。

協議により土地内の大半は未調査で遺構が保全されている。

表16　第19次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	切り合い等	時期	地区番号
1	19SX001	石組			M6
2	19SX002	礫群			M4
3	19SX003	礫群			J4
4		pit群			M8
5	19SD005	溝		13世紀後半～	4ライン
6		pit群		12世紀～	M6
7		溜まり状遺構		12世紀～	L5
8		pit			M8
9	19ST009	土坑			I4
10	19SD010	溝		12世紀～	Mライン
11		pit群		12世紀中頃～	L4
12		溜まり状遺構			L4
13	19SX013	溜まり状遺構		13世紀後半～	K4
14		pit群		13世紀～	M4
15	19SX015	集石状遺構			M5
16		整地	2→17・16	12世紀後半～	M4
17		溜まり状遺構	2→17・16		M4
18		溜まり状遺構		13世紀～	K3
19	19SX019	溜まり状遺構		12世紀後半～	L5
20	19SX020	石組		12世紀～	M4
21		pit群		12世紀～	L5
22		pit群			L6
23		pit群		12世紀中頃～	M5
24		落ち	暗茶色土の落ち		M6
25	19ST025	木棺墓		12世紀後半～	B6
26		pit群		12世紀～	L5
27		pit	27→19	12世紀～	K4

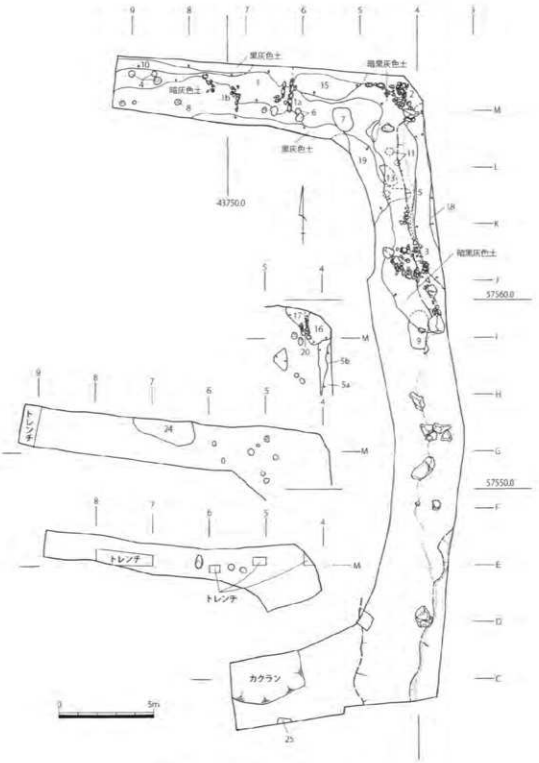


Fig. 57　第19次調査遺構略測図（1/200）

表17　第19次調査　出土遺物一覧表①

S-4
土　師　器:Ha(ⅰ)

S-5橙色土
土　師　器:Ha(ⅰ)
弥生質土器:鉢?
白　　磁:Ⅳ(1)
土　製　品:丸玉

S-6
土　師　器:Ha×b(ⅰ)　椀c　小皿a(ⅰ)　Ha
土師質土器:鍋-1
須恵質土器:鉢A-Ⅱ-b
国産陶器:甕(常滑)　大甕(東海系)
白　　磁:椀破片(1)　白磁破片(2)
龍泉窯系青磁:1-1a(1)　1-2(1)
中国陶器:瓶(2)
瓦　　類:平瓦(須恵質,小格子目)　平瓦(瓦質,格子目)
石　製　品:石鏃　板状滑石製品　磨石(瓶)

S-8b
土　師　器:Ha(ⅰ)
土師質土器
須恵質土器
白　　磁:椀破片(2)
同安窯系青磁:椀c-1b(1)

S-6
土　師　器:丸底坏　供膳具(ⅰ)
土師質土器:鉢?(四耳)
龍泉窯系青磁:椀:1?(1)
石　製　品:板状滑石製品

S-7
土　師　器:Ha(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
白　　磁:椀(1)
中国陶器:破片(1)

S-9
土　師　器:供膳具
瓦　　器:椀

S-9
土　師　器:Ha(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
白　　磁:椀:V-4(1)　V-5b(1)　鍋-1(1)　皿:Ⅳ-1a(1)
同安窯系青磁:椀:Ⅱ-1a(1)

S-10
須　恵　器:甕3
土　師　器:Ha(ⅰ)　椀c　甕b
黒色土器入椀c
瓦　　器:椀c
白　　磁:椀:V(1)

S-11
土　師　器:Ha(ⅰ)　丸底坏　小皿a(ⅰ)?
土　製　品:焼土塊

S-12
土　師　器:Ha(ⅰ)
白　　磁:椀:Ⅴ-8a(1)

S-13
土　師　器:Ha(ⅰ)　Hb(ⅰ)(黒着有)　小皿a(ⅰ)
瓦　　器:破片
須恵質土器:大甕
瓦質土器:鉢?
白　　磁:椀:Ⅴ-4(1)　鍋(1)　口縁外反(1)　白磁破片(1)
土　製　品:焼土塊

S-14
土　師　器:Ha(ⅰ)　Hb×b?(ⅰ)　小皿a(ⅰ)
中国陶器:甕:破片(1)

S-16
土　師　器:Ha(ⅰ)　分厚a(ⅰ)
同安窯系青磁:皿:1-2b(1)
中国陶器:破片(1)
土　製　品:丸玉

S-17
須　恵　器:壺?
土　師　器:供膳具(ⅰ)
須恵質土器
龍泉窯系青磁:椀:1(1)
同安窯系青磁:椀:1a-1(1)
中国陶器:石臼(1)

S-18
土　師　器:供膳具(ⅰ)
龍泉窯系青磁:椀:Ⅱ(1)
土師質土器:鍋(1)

S-19
土　師　器:Ha(ⅰ)　大坏a(ⅰ)　大坏c　小皿a(ⅰ)　坏c　大皿a　大皿c
瓦　　器:椀c
須恵質土器:鉢(東播系)-1段階?
白　　磁:椀:V-4(1)　直口縁(1)　破片(1)
皿:Ⅳ-2(2)　破片(1)　白磁破片(2)
青　白　磁:合子蓋(1)
龍泉窯系青磁:椀:1-2(1)　1?(1)
瓦　　類:平瓦(土師質,鉄格子目)　丸瓦(須恵質,斜格子目)
金　属　製　品:鉄塊,鉄製品　鉄釘?片
土　製　品:輪羽(1)
石　　製　品:砥石

S-20
須　恵　器:坏×底小(切離)　甕
土　師　器:Ha(ⅰ)
白　　磁:椀:V-4(1)

S-21
須　恵　器:小甕
土　師　器:椀c　供膳具(ⅰ?)
黒色土器:入供膳具
瓦　　類:破片(土師質)

S-22
土　師　器:供膳具

S-23
土　師　器:Ha(ⅰ)

S-25
土　師　器:供膳具
龍泉窯系青磁:皿:1-1b(2)
白　　磁:皿:(蓮-2b-2)
瓦　　類:丸瓦(瓦質,無文)
金属製品:釘

S-26
土　師　器:Ha?(ⅰ)
土　製　品:ﾌﾗｲ封(1)

S-27
土　師　器:Ha?(ⅰ)

黄茶色土
土　師　器:Ha(ⅰ?)　椀c
緑釉陶器:Hc(胴部)

黒灰色土
須　恵　器:壺?
土　師　器:Ha(ⅰ)　坏c　小皿a(ⅰ)　小皿b(ⅰ)　皿c　大皿a(ⅰ)
瓦　　器:椀　皿
土師質土器:鍋-1a　鍋鉢　鉢A-Ⅳ　七輪(双耳～)　鉢
須恵質土器:鉢(東播系)
瓦質土器:鍋炉(ﾐﾆ)-a　鉢A-Ⅱ-b　鉢A-Ⅲ　茶釜　擂鉢　大鉢
肥前系陶磁器:染付:鉢(1)　端反椀(1)
国産陶器:甕　壺(近世)
白　　磁:椀:Ⅱ-1(1)　Ⅱ-3×4(1)　Ⅳ-1a(1)　Ⅳ(16)　V-(5)
V-4a(2)　V-1a(1)　V内面線目(1)　VI-b(1)
Ⅷ-b(1)　Ⅷ(5)　V-1×Ⅷ-1・3　外面ﾍﾗ?(1)
直口縁(5)　破片(12)
皿:Ⅲ-1(6)　Ⅳ-2(3)　V-(2)　VI-1a(2)　Ⅸ(2)
Ⅸ-1a(1)　Ⅸ-1b(2)　直口縁(1)　破片(16)
蓋(1)　蓋?(1)　蓋(1)
龍泉窯系青磁:椀:1-2(5)　1-2a(5)　1-4a(1)　1-2×3(1)
1-6b(1)　Ⅱ-b(4)　Ⅳ(2)　Ⅳ(11)　Ⅳ?(1)
皿×無(未分類)
同安窯系青磁:椀:1-1(1)　1-1a(1)　1-1b(14)　椀-1c(1)　椀(1)
皿:1(1)　1-2b(1)　1-2C(1)　同安破片(1)
青　白　磁:椀(1)　合子蓋?(1)　梅瓶(1)
高麗青磁:皿(1)　高麗破片(1)
中国陶器:甕:Ⅳ(1)　壺破片(6)
鉢:1-1c(1)　鉢破片(2)　壺,破片(1)
盤1-2b(1)　盤×鉢　陶器破片(4)
須恵質(輸入):朝鮮系無釉陶器:壺(1)
瓦　　類:平瓦(瓦質,斜格子目b群)　平瓦(瓦質,二重格子目f群)
平瓦(瓦質,中型)　丸瓦(瓦質,近世～)
丸瓦(須恵質,斜格子目)　丸瓦(須恵質,無文)
石　製　品:板状滑石製品　石鏃A　石鏃B　加工滑石製品
土　製　品:焼土塊
金属製品:釘

灰黒色土
土　師　器:Hc　大坏c(ⅰ)　小皿a(ⅰ)　皿c
土師質土器:鍋炉?　鉢×鍋　鉢A-Ⅲ　大鉢?
須恵質土器:大甕　鉢(播磨系)
瓦質土器:大鉢　大鉢
国産陶器:甕(東海系?)
白　　磁:椀:V-4a(1)　V-6a(1)　破片(1)　未分類(朝鮮系)(1)
皿:Ⅷ-1a(1)　Ⅸ(1)
龍泉窯系青磁:椀:1(1)　1-2(1)　Ⅱ(1)　坏蓋-4(1)
同安窯系青磁:椀:1-1b(2)
中国陶器:壺破片(2)　鉢×盤(1)
瓦　　類:平瓦(土師質,無文?)　平瓦(瓦質,格子目大)
平瓦(瓦質,不明)　丸瓦(須恵質,斜格子目?)
軒丸瓦(型式不,中国系)
金属製品:椀型滓
土　製　品:碁石(黒)　瓦玉

表17　第19次調査　出土遺物一覧表②

暗黒灰色土
土　師　器:Ha(ⅰ)　小皿a(ⅰ)　大皿a(ⅰ)
瓦　　器:椀　小皿a(ⅰ)
須恵質土器:鉢(東海系)
国産陶器:甕(東海系)
椀:Ⅱ(1)　V(2)　V-4a(1)　V-4×Ⅷ-1・3(4)
白　　磁:直口縁(2)　白磁破片(4)　広東系(1)
皿:Ⅳ-1(1)　蓋?(1)
越州窯系青磁:椀:Ⅱ-2a(1)
龍泉窯系青磁:椀:1(1)
同安窯系青磁:椀:1-1a(1)　1-1b(2)　Ⅲ-2(1)
皿:1-1b(1)
高麗青磁:皿(1)
中国陶器:壺(2)　小鉢VI-1(1)　陶器破片(1)
瓦　　類:平瓦(須恵質,小斜格子目)
石　製　品:石鏃A　円盤状滑石製品　板状滑石製品　石鏃B
土　製　品:焼土塊　瓦玉

暗茶褐色土
土　師　器:Ha(ⅰ?)　丸底坏a　鉢?　器台
同安窯系青磁:椀:1-1a(1)
中国陶器:破片(2)
土　製　品:瓦玉

暗茶色土
須　恵　器:坏?　甕b　壺×1?
土　師　器:Ha(ⅰ?)　丸底坏a　椀c　小皿a(ⅰ,ⅰ?)　甕×鉢
黒色土器入椀?
瓦　　器:椀
肥前系陶磁器:染付:椀?
国産陶器:甕(瀬戸系)
白　　磁:椀:破片(1)
越州窯系青磁:椀:1-2(1)
中国陶器:壺破片(1)
瓦　　類:平瓦(瓦質,小斜格子目)
そ　の　他:焼骨?

黒色粘土
土　師　器:甕×鉢

茶褐色粘土
須　恵　器:小甕
土　師　器:Ha(ⅰ)　小皿a(ⅰ)　甕×鉢　大皿a
須恵質土器:鉢(東播系)
瓦質土器:鉢(東播系)
国産陶器:甕(東海系)
白　　磁:椀:Ⅳ(1)　鍋(1)　破片(2)
皿:Ⅳ-b(1)　白磁破片(1)　直口縁(1)
同安窯系青磁:椀:1-1b(1)
瓦　　類:平瓦(瓦質,小斜格子目)
石　製　品:不明滑石製品

淡灰茶色土
土　師　器:Ha(ⅰ)　大坏a(ⅰ)　小皿c
瓦　　器:小皿a(ⅰ?)?
土師質土器:大鉢b-a
須恵質土器:甕　鉢(東播系)
国産陶器:甕　鉢(東播系)
白　　磁:甕
白　　磁:外反口縁(1)　白磁破片(1)
龍泉窯系青磁:椀:1-2(1)　Ⅱ-2(1)
瓦　　類:丸瓦(須恵質,斜格子目b群)

淡茶黒色土
土　師　器:Ha(ⅰ)　坏c　小皿a(ⅰ)　小皿c　大皿a(ⅰ)　甕×鉢
瓦　　器:椀　皿a
土師質土器:大鉢
須恵質土器:鉢(東播系)
瓦質土器:甕
国産陶器:甕
椀:Ⅳ(5)　V-4×Ⅷ-1・3(2)　V-4(1)　V(2)
白　　磁:Ⅷ(2)　破片(4)
皿:Ⅲ-1(1)　VI-1(1)　Ⅸ(1)
龍泉窯系青磁:椀:1-1(1)　1-2(1)　1-3a(3)
同安窯系青磁:椀:1-1b(2)　1-1c(1)　1-2(1)　破片(2)　皿1(2)
中国陶器:壺破片(5)　耳壺(1)　甕破片(4)　盤(1)
他:小鉢?
瓦　　類:平瓦(須恵質,斜格子目f群)　丸瓦(須恵質,無文)
石　製　品:石鏃A　ﾐﾆ?石鏃B　破片
土　製　品:焼土塊　瓦玉
金属製品:釘

表土
土　師　器:Ha(ⅰ)　坏c　小皿a(ⅰ)
土師質土器:鉢?
須恵質土器:甕　鉢(東播系)
瓦質土器:鍋鉢-Ⅳ
肥前系陶磁器:染付:ﾐﾆ?(ﾌﾗｲ?)
国産陶器:甕(東海系)
椀:Ⅳ(2)　V(1)　V-4a(1)　V-5b(1)
白　　磁:内面線目(1)　破片(2)　白磁破片(1)
皿:Ⅳ-2a(1)
龍泉窯系青磁:椀:1-1(1)　1-2a(1)　Ⅱ-2a(1)　Ⅱ-5b(2)
同安窯系青磁:椀:Ⅱ-1c(1)
中国陶器:壺:破片(2)
鉢:1-1b(1)　破片(1)
石　製　品:石鏃A　破石(黒色粘板岩製)
土　製　品:瓦玉

表18　第19次調査　土師器小皿・坏計測表

S-17

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	—	—	9.8	1.9	8.6	○ ×
	小皿a	イト	—	—	9.1	0.9	7.1	○ ○
	小皿a	イト	—	—	8.8	1.15	6.8	○ ○
	小皿a1	イト	—	—	(9.4)	1.2	(7.6)	○ ○
	小皿a1	イト	—	—	(9.4)	0.8	(8.0)	— —
	小皿a1	イト	—	—	(9.6)	0.95	(8.2)	○ —
	小皿a3	—	—	—	(9.6)	1.45	(6.4)	— —
	小皿a1	イト	—	—	(8.6)	0.8	(6.7)	○ ○
	小皿a1	イト	—	—	9.2	1.2	7.0	○ ○
	坏a	—	—	—	(12.2)	2.8	(13.8)	— —
	坏a	—	—	—	(10.6)	3.2	(5.0)	— —
	坏a	イト	—	—	(16.2)	2.65	(16.0)	— —
	坏a	イト	—	—	(16.8)	2.4	(15.2)	○ —
	坏a	イト	—	—	17.6	2.6	11.8	○ ○
	坏a	イト	—	—	(16.4)	2.6	10.4	○ ○
	坏a	ヘラ	—	—	16.0	3.1	11.6	○ ○
	坏a	イト	—	—	(17.2)	2.9	12.0	— —
	坏a	イト	—	—	(9.2)	2.6	11.6	○ —
	坏a	イト	—	—	(16.4)	3.1	11.8	○ ○
	坏a	イト	—	—	15.1	2.6	9.2	○ ○
	坏a	イト	—	—	(16.2)	2.6	(13.0)	○ ○

A：凸底ナデ　B：板状圧痕

淡茶黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	—	—	(8.3)	1.1	(6.6)	○ ○
	小皿a	イト	—	—	9.1	1.2	(6.8)	○ —
	小皿a	イト	—	—	(9.7)	1.1	(6.4)	○ ○
	小皿a	イト	—	—	(8.6)	1.1	(6.2)	○ —
	小皿a	イト	—	—	—	0.9	5.4	○ ○
	小皿a	イト	—	—	—	1.2	6.6	○ ○
	小皿a	イト	—	—	(8.8)	1.0	(6.2)	○ ○
	小皿a	イト	—	—	8.0	1.3	6.0	○ ○
	小皿a	イト	—	—	(8.0)	1.1	6.4	○ ○
	坏a	イト	—	—	12.2	2.4	8.8	○ ○
	坏a	イト	—	—	(14.2)	2.5	8.8	○ ○
	坏a	イト	—	—	15.8	2.7	7.8	○ ○
	坏a	イト	—	—	(13.8)	2.6	(9.6)	○ ○
	坏a	イト	—	—	(12.4)	2.3	8.1	○ ○
	坏a	イト	—	—	(13.0)	2.6	(11.0)	○ ○
	坏a	イト	—	—	(13.2)	2.6	(8.8)	○ ○
	坏a	イト	—	—	(11.4)	2.4	7.9	○ ○
	坏a	イト	—	—	(12.4)	2.5	7.8	○ ○
	坏a	イト	—	—	(12.6)	2.6	8.8	○ ○
	坏a	イト	—	—	(12.4)	2.7	8.0	○ ○
	坏a	イト	—	—	(12.6)	2.6	(9.0)	○ —
	坏a	イト	—	—	—	2.6	(9.2)	○ ○
	坏a	イト	—	—	(13.2)	2.85	7.1	○ —
	坏a	イト	—	—	(12.9)	2.4	(8.0)	○ —
	坏a	イト	—	—	(12.0)	2.6	(8.3)	○ ○
	坏a	—	—	—	(12.6)	2.6	7.4	○ —
	坏a	—	—	—	(12.6)	2.3	(9.1)	— —
	坏a	—	—	—	—	2.3	(9.4)	○ ○
	坏a	—	—	—	(12.3)	2.8	(9.4)	— ○
	坏a	イト	—	—	(3.9)	2.8	8.9	○ —
	坏a	イト	—	—	(3.8)	2.4	8.9	○ ○
	坏a	イト	—	—	(13.8)	2.3	8.2	○ ○
	坏a	イト	—	—	(13.1)	2.5	8.6	○ ○
	坏a	イト	—	—	(12.0)	2.2	(9.6)	○ ○
	坏a	イト	—	—	(12.0)	2.6	(11.4)	— —

8、第21次調査

(1) 調査に至る経過

調査地は太宰府市連歌屋3丁目1741-1である。

平成19（2007）年10月25日、西日本グッドパートナー（株）より長屋住宅建築についての問い合わせがあり、平成19（2007）年12月18日、確認調査を行い遺構が確認された。その後建築計画を協議したところ、建物部分については遺構を破壊するような掘削は行われないが、道路に面する南側駐車場部分については、大きく掘削が行われることが明確になったため、この部分について発掘調査することとなった。

発掘調査は平成20(2008)年3月17日から3月31日にかけて実施した。調査は宮崎亮一が担当した。開発対象面積は793㎡、調査面積は100㎡である。

(2) 立地と基本層位

原川の東岸に位置し、川岸にはムクノキの大木が繁茂している。調査地の南側には四王寺林道が通り抜けているが、林道建設以前にも細い里道が通っていた。調査前は林道と調査地上面の高低差は2～3mあり、道路からは急角度の土手となっていた。

調査地は標高70m前後の四王寺山山腹で、全体的に南方向へ下るややきつい傾斜地で、平成15（2003）年7月19日の水害で山頂部が崩落し、原川を土石流が走り、調査地には乗用車が流れてきていたという被害があり、調査地の最上面にはその時の土砂が一部で残っていた。

最上面に0.6m程の耕作土が厚く堆積し、包含層を挟んで、約1mで真砂土のような地盤である淡茶色土が広がり遺構が確認され、この面を第1遺構面とした。その淡茶色土は一見地山と勘違いするような土層で、遺物を全く含んでいなかった。厚さ0.3mの淡茶色土を除去した面には南東方向にやや傾斜する暗茶色土層が面で確認できたが、遺構は確認できなかった。厚さ0.15mの暗茶色土層を除去するとピット類が確認でき、この面を第2遺構面とした。第2遺構面の基盤層は黄茶色土でその下にも堆積層が幾層にも続いているようで、傾斜地特有の地盤状況が窺える。

(3) 検出遺構

○第1遺構面

土坑

21SK001（Fig. 60）

灰色土を除去したレベルから礫が確認されていて、茶褐色土を除去した面で明瞭に確認できる。大きさは東西4.35m、南北1.68m、深さは0.9m。灰色土が埋土で花崗岩礫を多く含んでいる。並べたような痕跡は見られない。調査区南辺部にあり、埋土中に淡茶色土土で確認できた黒茶色土が南に傾斜する形で入り込んでいたため、SX005より古い土手部分に掘られた土坑と推測される。

石積み

21SX005（Fig. 60）

自然石の石積みは調査前まで全て土に隠れていた。東側半分にセメントで固められた石垣があった。土手を除去すると林道に沿うように東西に石積みが確認された。検出長6.0m、高さ0.5～0.6mを測る。林道と同じレベルから約3段分の石積みがなされているが、下方はまだ埋もれているようである。東側半分は林道によって削平されており、セメントで固められた石垣はそれ以後に造られた可能性が高い。

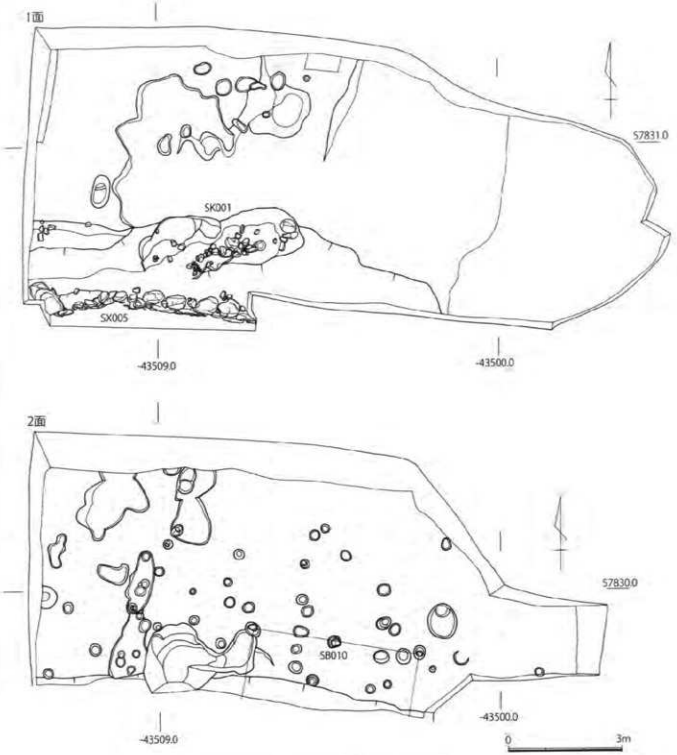


Fig. 58　第21次調査遺構全体図（1/100）

石垣を覆っていた土砂には牛乳瓶やジュース缶が含まれていた。

○第2遺構面

建物

21SB010（Fig. 60）

暗茶色土を除去した面で確認された柱列で、直径0.3m程の掘り方の底部には、花崗岩の根石を置いている。柱間は2.25mの2間で、東西4.5mを測る。東側の根石は地盤の石の可能性も考えられる。根石を置いている点から建物と考えられ、北側に展開するピットが確認できないため、南側に展開する南

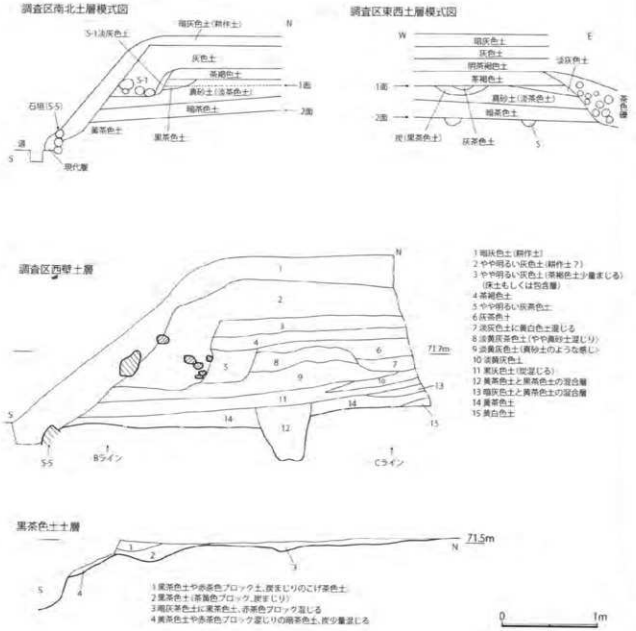


Fig. 59　第21次調査土層模式図及び実測図（1/40）

北棟と推測される。方位はE-9°6′-S。

(4) 出土遺物

土坑

21SK001 出土遺物（Fig. 61）

土師器

小皿a（1、2）　1は復元口径9.2cm、器高1.0cm、復元底径8.0cm。底部切り離しは回転糸切りのようである。2は器高1.35cm。底部切り離しは回転糸切り。

鉢(3)　復元底部径15.2cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や微細な雲母を多く含み、淡黄橙色を呈する。内部は不定方向のナデ。外面は磨滅し調整不明。

龍泉窯系青磁

椀（4）　Ⅱ-b類。

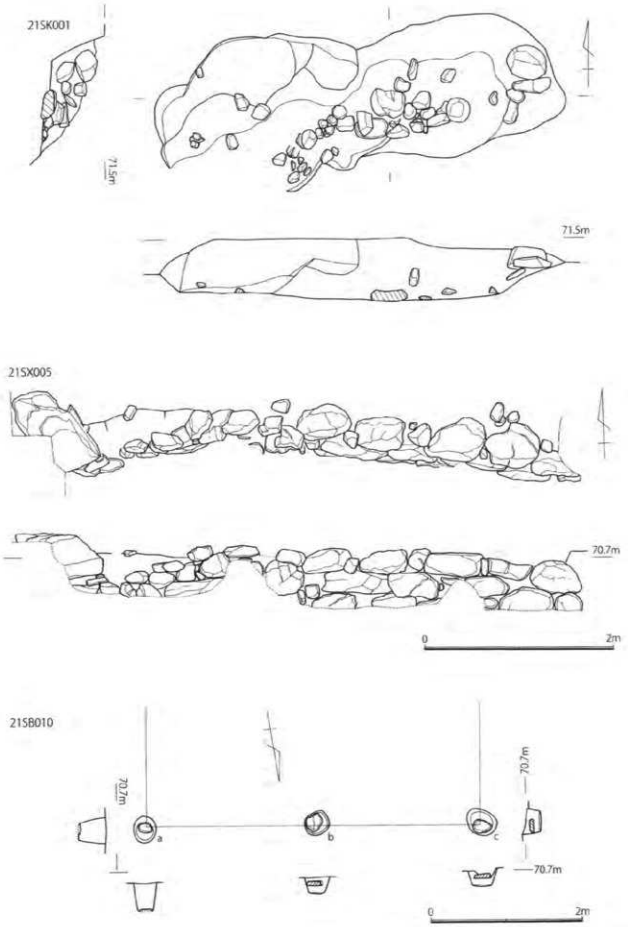


Fig. 60　21SK001・SX005・SB010遺構実測図（1/40、1/50）

土製品

土壁（5、6） 5の胎土は0.3cm以下の砂粒を多く含み、外面を厚さ0.1cm程の細かい白黄色土で整形される。内面には竹のような痕跡を残す。6の胎土は砂粒を多く含み、外面をナデ調整する。

21SK001 淡灰色土出土遺物（Fig.61）

土師器

小皿a（7～10） 復元口径9.2～9.6cm、器高0.95～1.1cm、復元底径7.6～8.2cm。外面底部は全て回転糸切りで、7以外は板状圧痕を残す。内面は回転ナデの後ナデ調整。色調は明淡橙色や茶灰色を呈する。

皿a（11、12） 内面底部は回転ナデ後ナデ調整、その他は回転ナデ。胎土は微細な砂粒を含み淡橙白色を呈する。11は復元口径11.6cm、器高1.2cm、復元底径8.6cm。底部切り離しは回転糸切りでその後ナデ調整。12は復元口径11.6cm、器高1.9cm、復元底径7.2cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。

坏a（13～17） 復元口径15.6～17.0cm、器高2.2～3.1cm、復元底径11.2～12.9cm。外面底部切り離しは、17は摩滅するがそれ以外回転糸切りである。内面は回転ナデの後ナデ調整。16・17の内面は強い回転ナデ調整。その他は回転ナデ。色調は淡黄白色や淡橙白色などを呈する。

大椀c（18） 丸味のある底部でやや外開きの高台を貼付する。復元高台径11.0cm。胎土は0.1cm以下の砂粒を含み、淡橙色を呈する。焼成は不良で全体的に摩滅する。

脚付盤（19） 脚部は太さ4.2～4.5cmで、表面にはナデ調整の指頭圧痕が残る。胎土は0.05～0.3cm程の砂粒を多く含み、色調は淡黄灰色を呈する。盤の内面はナデ調整される。

土製品

土壁（20、21） 胎土は0.5cm前後の砂粒を多く含み、淡茶灰色などを呈する。片面にはナデ調整の痕跡を残し、20の調整面は黄白色を呈する。

明茶色土出土遺物（Fig.62、Pla.10）

土師器

小皿a（1～7） 復元口径8.0～8.2cm、器高0.8～1.2cm、復元底径5.6～6.4cm。底部切り離しは回転糸切りで、3は板状圧痕を残す。色調は暗黄褐色や淡橙色を呈する。

坏a（8～11） 復元口径11.5～16.0cm、器高1.7～3.0cm、復元底径7.4～10.8cm。8・9は摩滅しているが、10の底部は回転糸切りで板状圧痕を残す。11は体部が大きく開き皿状をなしている。

瓦器

椀c（12） 丸みのある高台を貼付する。復元高台径5.2cm。外面は回転ナデ調整され、底部には板状圧痕を残す。内面は摩滅するがミガキのような痕跡を残す。

須恵質土器

鉢（13、14） 口縁部を三角形状に肥厚させる。内外面とも回転ナデ。色調は暗灰色などを呈する。13は復元口径27.4cm。14は復元口径32.2cm。

黒釉陶器

椀（15） 高台ケズリ出しで、高台径3.8cm。内面は黒色釉を厚く施す。胎土は精製され、灰色を呈する。

中国陶器

盤（16） 口縁部を方形に肥厚させる。胎土は0.1cm以下の砂粒を多く含み、灰黄色を呈する。内外面には光沢のある緑灰色釉を施し、口縁部は露胎である。

土製品

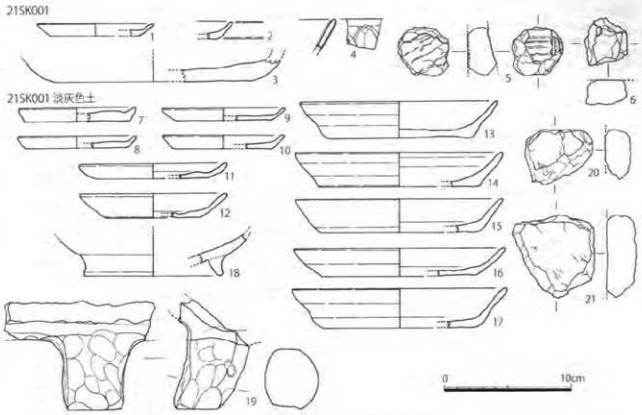


Fig.61 21SK001出土遺物実測図（1/3）

土壁（17） 胎土は0.5cm以下の砂粒を多く含み茶褐色を呈する。片面はナデ調整され、黄白色を呈する。

石製品

平玉石（18） 大きさは2.05×1.6cm、厚さ0.8cm。黒色を呈する。

石鍋（19） 石鍋の破片で、厚さ2.8cmで、内外面はケズリ調整される。

滑石加工品（20） 滑石を方形に切断したもので、大きさは1.5×0.8cm、長さ3.1cmである。

茶色礫出土遺物（Fig.62）

土師器

小皿a（21～28） 復元口径7.1～8.8cm、器高0.85～1.45cm、復元底径5.9～7.0cm。底部切り離しは回転糸切りで板状圧痕を残す。26は口縁部外面に煤が付着する。

坏a（29～33） 復元口径11.4～15.6cm、器高2.25～3.2cm、復元底径7.1～11.4cm。口径は11cm台と13cm以上の2種類ある。底部切り離しは回転糸切りで、その他は回転ナデ調整される。色調は暗茶褐色などを呈する。

瓦器

椀c（34） 焼成不良で摩滅するが、底部外面には板状圧痕が残る。復元高台径5.8cm。胎土は精製され、暗茶褐色を呈する。

白磁

大椀（35） Ⅳ類。

中国陶器

小盤（36） 口縁部を肥厚させる。胎土は0.1cm以下の砂粒を多く含む。内面は光沢のない灰色釉を施し、外面は露胎。

石製品

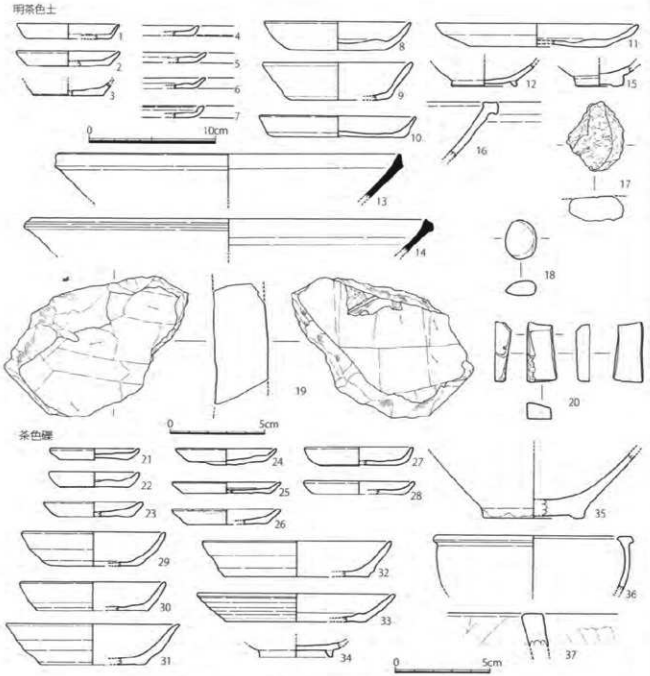


Fig. 62　第21次調査明茶色土・茶色礫出土遺物実測図（1/2、1/3）

石鍋（37）　口縁部で、内外面にうっすらとケズリ痕跡が確認できる。滑石製。

黒茶色土出土遺物（Fig. 63）

土師器

小皿 a（1）　復元口径8.7cm、器高0.9cm、復元底径7.0cm。底部切り離しは回転糸切り。

坏 a（2）　磨滅しているが、内面はナデ調整される。底部切り離しは回転糸切り。

土製品

土壁（3～6）　胎土は0.5cm以下の砂粒を多く含み、一部僅かに金雲母を含む。色調は淡橙褐色などを呈する。片面はナデ調整される。

灰茶色土出土遺物（Fig. 63）

土師器

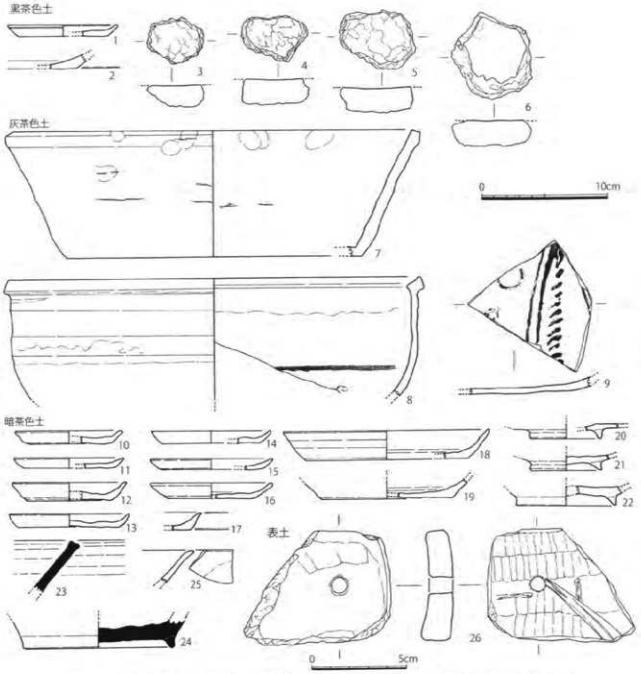


Fig. 63　第21次調査黒茶色土・灰茶色土・暗茶色土・表土出土遺物実測図（1/2、1/3）

鉢（7）　復元口径31.4cm、器高9.95cm、復元底径23.0cm。胎土は0.5cm以下の砂粒を多く含み、淡黄橙色を呈する。内面はヨコナデ、外面は斜め方向のナデで、内外面に粘土帯の繋ぎ目をみることができる。口縁部と底部はナデ調整。

中国陶器

盤（8、9）　8は復元口径22.4cm。I-2 b類。9は8の一部である可能性が高い。胎土は0.6cm以下の砂粒や黒色粒を多く含み灰色を呈する。内面は黄緑色釉に赤茶色や茶褐色釉で文様を描く。口縁部内面は釉垂れがみられる。口縁部外面と外面下半は露胎。

暗茶色土出土遺物（Fig. 63、Pla. 10）

土師器

小皿 a（10～17）　復元口径8.4～9.6cm、器高0.8～1.45cm、復元底径6.7～7.8cm。底部切り離しが観察できるものは、全て回転糸切りで、板状圧痕を残す。

坏 a（18、19） 2点とも底部切り離しはヘラ切りで、内外面とも回転ナデ調整である。18は復元口径16.2cm、器高2.3cm、復元底径12.7cm。19は復元底径10.2cm。底部には板状圧痕を残す。

小皿 c（20） 口縁部を欠損する。内外面回転ナデ。復元高台径5.6cm。

椀 c（21、22） 三角形状の高台を貼付する。21は復元高台径5.6cm。小皿 c の可能性もある。内面は回転ナデのあと不定方向のナデ調整。22は復元高台径7.8cm。底部には回転糸切りが確認できる。

須恵質土器

鉢（23） 胎土は白色砂粒や黒色粒を多く含み、色調は灰色を呈する。口縁部は殆ど肥厚しない。内外面ヨコナデ。

壺（24） 底部端に低い高台を貼付し、復元高台径12.0cm。外面はヨコナデ、底部外面は不定方向のナデ、底部内面は部分的にナデ調整で、全体的に粗く仕上がる。胎土は白色砂粒や黒色粒を多く含み、色調は暗灰色を呈する。

灰釉陶器

椀（25） 胎土は淡灰色で、回転ナデのあと内面と口縁部外面に緑灰色釉を施す。

表土出土遺物（Fig. 63）

石製品

滑石加工品（26） 石鍋を再利用したものと考えられ、外面には石鍋製作時のケズリ痕跡を残す。断面の半分程は面取りを行っていて、破片中央にある円孔は径0.8cm。大きさは5.9×7.7cm、厚さ1.5cmである。

(5) 小結

調査地は傾斜地という立地から、幾層にも堆積や整地が行われていて、遺構面は2面確認された。第1面は土坑（SX001）がある程度で、目立った遺構は展開していない。遺構面の時期は13世紀前半頃と推測される。また、第1面の基盤層である真砂土のような淡茶色土は、遺物を全く含んでいなかったため、山を削るなどの大規模な整地が行われた可能性が考えられる。その下層で第2面覆う暗茶色土層が12世紀後半頃の埋没であり、第2面に糸切りの土師器を含む遺構が少ないことや調査地全体の遺物でそれより古いものがないことから、第2面は11世紀後半～12世紀前半の遺構面と推測される。よって、根石を伴う建物跡（SB010）はその頃と推測される。その他にも多くのピットが検出されたが、面積が狭いため、遺構の展開具合がつかめない。

なお、調査地東側は原川があり、それに関係するとみられる河川氾濫原（茶色礫、13世紀末～14世紀初）が1面目東半分ほど削り込んでいるが、2面目までは達していない。

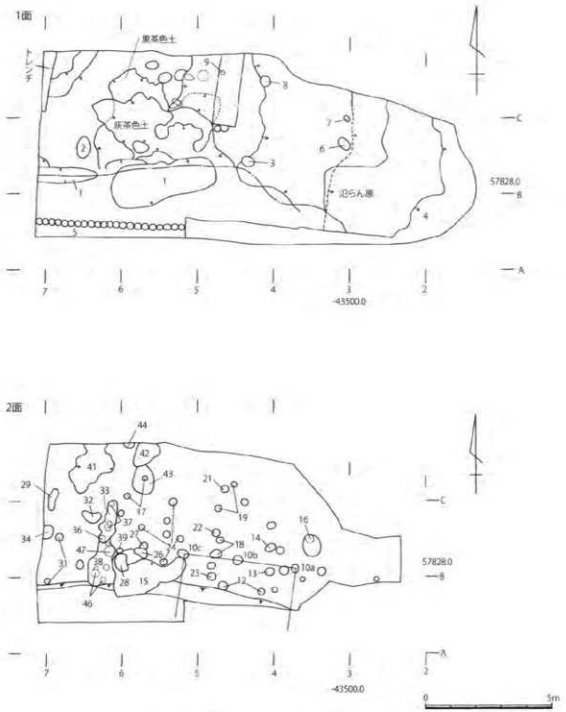


Fig. 64 第21次調査遺構略測図（1/150）

表 19、第 21 次調査遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土・切り合い等	調査面(遺構面)	時期	地区
1	21SK001	土坑	灰色土　花崗岩礫含む	1	12世紀後半～13世紀前半	B5・6
2		土坑	灰色土	1	13世紀～	B6
3		ピット	灰色土	1	13世紀～	B4
4		落ち	灰色土	1	13世紀～	A1
5	21SB005	石垣		1	近世以降	A5・6
6		ピット	灰色土(ねずみ色土)	1	13世紀～	B3
7		ピット	灰色土(ねずみ色土)	1	13世紀～	B3
8		ピット		1	13世紀～	C4
9		ピット	黒灰色土	1	13世紀～	C4
10	21SB010	建物		2	12世紀前半頃？	B3・4・5
11		ピット	淡灰色土	1	13世紀～	C5
12		ピット群		2	平安後期	A4
13		ピット		2	平安後期	B4
14		ピット		2	平安後期	B4
15		土坑	S-1とほぼ同位置だが埋土が異なる。種あり。淡灰色土	2	11世紀後半～12世紀前半	AB5・6
16		ピット		2	平安後期	B3
17		ピット群		2	平安後期	C5
18		ピット群		2	平安後期	B4
19		ピット群		2	平安後期	BC4
21		ピット		2	平安後期	C4
22		ピット		2	平安後期	B4
23		ピット		2	平安後期	B4
24		ピット		2	平安後期	B5
26		ピット		2	平安後期	B5
27		ピット		2	平安後期	B6
28		土坑	撹乱じり　S-15→28	2	平安後期	B7
29		土坑		2	平安後期	BC6
31		ピット群		2	12世紀前半？	AB6
32		土坑		2	平安後期	B6
33		土坑		2	平安後期	B6
34		土坑		2	平安後期	B6
36		ピット	S-33の底面	2	平安後期	B6
37		ピット群	S-33の底面	2	平安後期	B6
38		土坑	撹乱じり　S-38→33	2	平安後期	AB6
39		ピット		2	平安後期	B6
41		土坑	黒灰色土	2	平安後期	C6
42		土坑	黒灰色土	2	平安後期	C5
43		土坑		2	平安後期	C5
44		ピット		2	平安後期	C5
46		ピット群	S-38の底面	2	平安後期	B6
47		ピット		2	平安後期	B6
48		沼地原	厚川の沼地原	1	13世紀末～14世紀初	A～C1～3

表 20、第 21 次調査遺物一覧表①

S-1
須　恵　器壺
土　師　器坏、坏a、小皿a、大皿?、鉢、破片
肥前系陶磁器破片
龍泉窯系青磁椀:II-b(1)　破片(2)
白　磁椀:IV(1)、V-4(1)　破片(5)
中 国 陶 器破片(1)
瓦　類丸瓦(格子)
石　製　品滑石加工品
土　製　品土壁

S-1淡灰色土
土　師　器坏、坏a(小)、小皿a(小)、皿a、大鉢c、脚付盤、破片
龍泉窯系青磁破片(1)
白　磁皿:IV-2(1)
土　製　品土壁
金 属 製 品鉄釘

S-2
土　師　器坏、坏a、破片
瓦　類破片

S-3
土　師　器破片

S-4
土　師　器坏a、小皿a、破片
国 産 陶 器破片
国 産 磁 器破片
龍泉窯系青磁破片(1)
白　磁破片(1)
土　製　品土鍋

S-6
土　師　器小皿a、破片
国 産 陶 器火鉢皿、擂鉢、土瓶、破片
銭　貨銅銭
金 属 製 品鉄釘

S-7
土　師　器小皿a、破片
白　磁破片(1)

S-8
土　師　器破片
瓦　類破片

S-9
瓦　類破片(格子)

S-10a
土　師　器破片

S-10b
土　師　器破片

S-10c
土　師　器小皿a、破片
黒 色 土 器 B破片
須恵質(輸入)朝鮮系無釉陶器

S-11
土　製　品土壁

S-12
土　師　器破片
石　製　品剥片(安山岩)

S-13
土　師　器坏、丸底坏

S-14
土　師　器坏、丸底坏

S-15
須　恵　器壺
土　師　器坏、坏a(小)、丸底坏a、小皿a、破片
須恵質土器鉢
肥前系陶磁器鉢
龍泉窯系青磁鉢:II-b(1)　小椀(1)
白　磁椀:IV(1)、破片(1)　皿:VII(1)
皿:小皿(1)　白磁破片：広東系(1)、破片(1)
瓦　類平瓦(縄目)
石　製　品砥石、滑石片
土　製　品土壁

S-16
土　師　器破片

S-17
土　師　器坏、破片

S-18
土　師　器坏a、破片
白　磁椀:IV(1)

S-19
土　師　器坏、小皿a

S-21
土　師　器破片

S-22
須　恵　器坏
土　師　器坏

S-23
土　師　器坏a、小皿a、破片
黒 色 土 器 A破片
須恵質土器鉢

S-24
土　師　器坏、椀c、破片

S-26
土　師　器坏、甕?

S-27
土　師　器破片
白　磁椀:IV(1)　白磁破片(2)

S-29
土　師　器坏
土　製　品土壁

S-29
土　師　器破片

S-31
土　師　器坏、坏a(小)、破片

S-32
土　師　器破片

S-33
土　師　器坏
黒 色 土 器 A椀c

S-34
土　師　器坏

S-36
土　師　器坏
中 国 陶 器破片(1)

S-37
土　師　器坏a、小皿a(小)、破片

S-38
土　師　器小皿a(小)、破片

S-39
土　師　器坏、甕

S-41
土　師　器坏a(小)、小皿a(小)、椀c
瓦　類平瓦(格子)

S-42
土　師　器坏、丸底坏?
白　磁破片(1)

S-43
土　師　器坏

S-46
土　師　器坏

S-47
土　師　器坏、丸底坏a

暗灰色土
土　師　器坏、坏a、小皿a、破片
国 産 陶 器破片
国 産 磁 器破片
龍泉窯系青磁椀:I-1(1)
瓦　類棟L丸

茶色層
須　恵　器壺
土　師　器坏、坏a(小)、小皿a(小)、椀c、鉢?
器台、破片
黒 色 土 器 B椀
瓦　器椀c
龍泉窯系青磁椀:I(1)、II-b(1)　皿:I(1)
同安窯系青磁椀:I-1b(1)
椀:IV(2)、S-1×V類-2(1)、V-4×V類-1×3(1)
白　磁　破片(2)、大椀IV(1)
皿:V類(1)、V類-1b(1)　白磁破片(4)
中 国 陶 器小壺(1)　破片(3)
瓦　類平瓦(無文)、丸瓦(無文)、瓦玉
石　製　品石鏃
金 属 製 品鉄滓

表 20、第 21 次調査遺物一覧表②

灰茶色土

土　師	器坏、坏a、小皿a、鉢、破片	
土師質土器鉢		
須恵質土器破片		
白　磁	碗:V-4×Ⅷ-1×3(1)	
同安窯系青磁皿:破片(1)		
中国陶器盤(4)		
瓦　類	平瓦(格子)	
土　製	品 土錘	

明茶色土

須　恵	器壺、蓋	
土　師	器坏、坏a、坏a(小)、小皿a(小)、鍋c、破片	
黒色土器	B 椀c	
土　師	器椀c	
土師質土器鉢		
須恵質土器鉢		
瓦　質　土器鍋?		
肥前系陶磁器椀、破片		
龍泉窯系青磁椀:I-1a(1)、I-2(1)		
同安窯系青磁椀:I-1b(2)、I(1)　皿:-(1)		
白　磁	椀:Ⅱ-1(1)、Ⅳ(1)、V-2(1)、破片(8)	
	皿:Ⅱ-1a(1)、破片(1)	
青　磁　陶　器椀		
中国陶器盤(1)		
瓦　類	平瓦(縄目)、丸瓦(格子、無文)、破片	
金属製	品 鉄釘	
石　製	品 石鏃、滑石加工品、平玉石	
土　製	品 土錘	

黒茶色土

土　師	器坏、坏a、小皿a(小)、破片	
瓦　類	破片(縄目)	
土　製	品 土錘(多数)	

暗茶色土

須　恵	器壺	
土　師	器小皿(小、-3)、小皿a、小皿c×椀c、坏、坏a(小)、-小)、丸底坏	
	高坏、椀c、甕、破片	
須恵質土器鉢、壺		
灰　釉　陶　器椀		
肥前系陶磁器破片		
	椀:Ⅱ-1(1)、Ⅱ-3×4(1)、Ⅱ-c(1)、Ⅳ(1)、V(1)	
	V-1×Ⅷ-2(1)、V-1b(1)、V-2b(1)	
白　磁	V-4×Ⅷ-1×3(1)、破片(1)	
	皿:Ⅳ(1)、V-Ⅷ(1)、Ⅵ-1b(1)、Ⅺ(1)	
	壺(1)　白磁破片(10)、広東系(1)	
同安窯系青磁椀:I-1b(1)		
中国陶器盤破片(1)		
須恵質(輸入)朝鮮系無釉陶器		
瓦　類	丸瓦	
金属製	品 鉄滓、鉄釘	
石　製	品 剥片(黒曜石)	

灰黒色土

須　恵	器壺、破片	
土　師	器坏、坏a(小)、小皿a(小)、皿c、鍋c、破片	
龍泉窯系青磁椀:II-b(1)　破片(1)		
龍泉窯系青磁椀破片(1)		
同安窯系青磁椀:I-1b(1)		
朱　釉　青　磁椀破片(2-3)(1)		
白　磁	椀:Ⅳ(1)、V-4×Ⅷ-1×3(1)、破片(3)	
	皿:Ⅲ-1(1)　白磁破片(3)(1)	
中国陶器盤:破片(1)　鉢:I-1b(1)		
瓦　類	平瓦、破片	
土　製	品 土錘	

表土

須　恵	器壺	
土　師	器坏、坏a(小)、小皿a、鉢、破片	
須恵質土器鉢		
肥前系陶磁器椀、破片		
同安窯系青磁椀:I-1b(1)		
白　磁	椀:V(1)	
中国陶器盤:I-1b(2)		
瓦　類	平瓦(格子)、破片	
石　製	品 滑石加工品	

Ⅴ、調査まとめ

原遺跡の所在する場所はかつて「原山」と呼ばれており、原山は『征西将軍宮譜』によれば「宰府の乾にあり、昔は僧坊多くして四王寺の別所なりしと云」とされ、江戸期にはすでに遺跡となっていた中世寺院で、『仁和寺日次記』『梅松論』ほかの中世史料では一貫して「原山」と記載されている。近世地誌の『筑前国続風土記』には「石踏川の北なる山をいへり。其麓の原にむかしは無量寺と云寺あり。是四王院の別院にして四王院に属す。山門に横川、西塔、無動寺などあるかゝ如し。四王院廃絶の時、此寺も亦廃せり。昔公左遷の前より己に此寺あり。昔公薨し玉ひて後葬祭の時、此寺の僧も又其事に預る故、其寺廃せりといへとも、其僧は来て安楽寺に属し、天満宮の社僧となり八坊猶存す。是を原八坊と云。」とされている。残念ながら江戸前期にはすでに寺名も寺伝も正確には残されていないながら、宝亀 5 年(774) 太政官符によって古代山城の大野城内に設置された四王院の別院であり、菅原道真の葬送を行った寺であり、寺廃絶後は下山して天満宮安楽寺に属し、八坊あった故「原八坊」と称されたとしている。那珂川町宗石遺跡の 14 世紀に埋没した大溝から出土した銅椀には「原山　無量寿院」と釘書きされており(「宗石遺跡群」2002 年那珂川町教育委員会)、『太宰管内志』には「原山醍醐寺」の名称が見られ、山内に院や寺の名称を持つ施設や組織があったことが知られる。

史料に見る原山に相当する場所は江戸時代に描かれた古図があり参考となる。福岡市博物館が所蔵する『原山古代図』や六度寺所伝で個人所蔵の『原山古図』によれば現在の西鉄太宰府駅北側の L 字に曲がる「幸辻（さやんつじ）」から御笠川を渡ると、現在では四王寺山へ登る林道となるが、往時はここに楼門があり、その西奥に宝塔院が描かれている。さらに尾根を登れば参詣道の左に経蔵、本堂、護摩堂、鐘楼、右手に不動堂、観音堂、大日堂、中堂、奥正面に大師堂が控える中心伽藍が存在する。中心伽藍の南西に一山のシンボルであり経塚のある岡見山があり、中堂の北西側に普賢岳がありその麓に座主である華台坊が描かれる。その他谷々には座主以外の七坊のほか、従者の居所であろうか「役坊」や眺望地点の「雲ノ上」や名水の湧水地点「醍醐味」など名所の記載がある。

今回報告した発掘調査地点を絵図と照らした場合、第 15・16・17 次が「本堂」付近、第 5・6 次は「中堂」の下段付近という中心伽藍域にあたり、第 21 次は中心伽藍西の「役坊」とされる谷付近に、また第 19 次はさらに南西の「安祥寺」の注記がある谷に相当しようか。礎石を用いた堂舎に関する遺構の発見はなかったものの、第 21 次では根石を伴う建物跡 21SB010 が 11 世紀後半以降には成立しており、先に報告した「中堂」の下段の第 11 次では同時期に石垣と造成面の形成が確認されており(「原遺跡 I」2001 年太宰府市教育委員会)、そこに建つ礎石をともなう堂舎 11SB100 は 12 世紀に成立し、本報告の第 16 次でも整地が開始されているのに加え、当該時期には本報告の各場所で安定的に遺物が出土する状況から、山内がこの時期に一体的に整備された様子がうかがえる。最盛期は各調査区での遺物量などより 13 世紀代が中心と言え、第 5 次調査区では山内での街路の整備が行われ、第 15・17 次では葬送施設や祭祀施設に関わると見られる集石遺構が盛んに形成されている。しかし、遺物の出土傾向から 14 世紀には、各地区が一斉かつ急速に衰退する様子が見て取れる。これらの現象から本報告でも、従前から指摘されている原遺跡の消長傾向と合致する所見が得られたといえよう。中心伽藍から遠い第 19 次調査区の谷においても同様の傾向が指摘されることは大きな成果であった。先に示した江戸期の古図が描く複数の箇所において同時的に遺構が形成されていることは、絵図がこの一帯をひとつの山岳寺院として描いた世界観を、史実として評価する足がかりとなる。今後は安易な絵図との比較だけでなく、遺構間の相対的な関係性や場の利用の差異などを蓄積し、原遺跡全体の世界観を作り上げることが望まれる。

Fig. 65　原山関連図

絵図より復元した寺院関連遺跡としての原山と調査地点

原山古代図　（福岡市博物館所蔵）

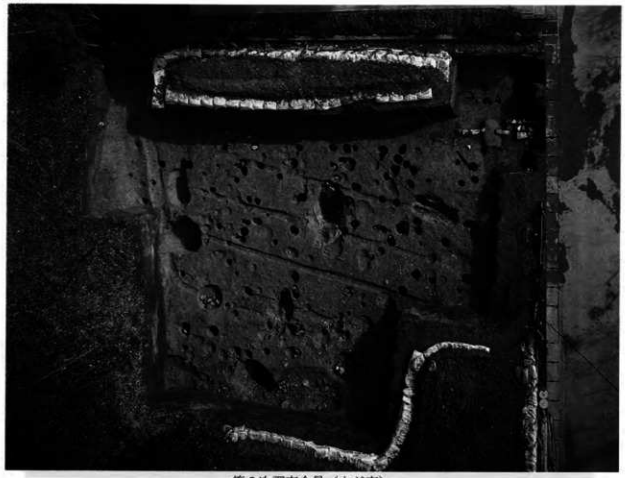
原山古図（個人所蔵に加筆）

写真図版

写真図版には遺構の主な写真を掲載している。その他の遺構写真および遺物写真は、付録のCDにカラー情報で収録している。

原遺跡空中写真（上が東）

原山無量寺本堂伝承地付近より南東の太宰府天満宮方面を望む



第５次調査全景（上が東）

第５次調査 SX100 石列（北から）

第６次調査北区全景（西から）

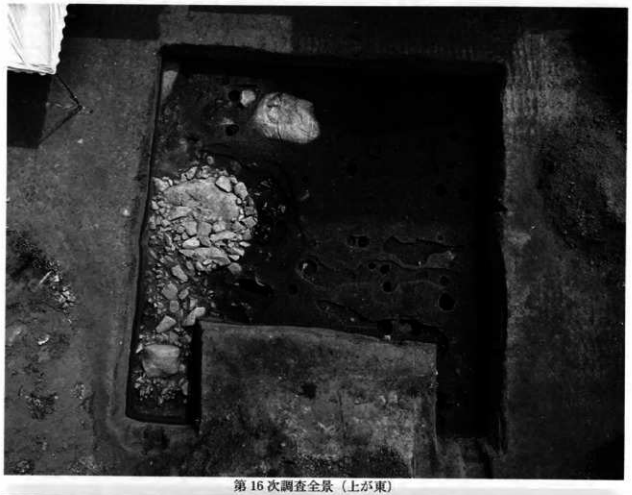
第６次調査南区全景（北から）

第 10 次調査全景（東から）

第 15 次調査全景（上が南）

第 15 次調査 SX038 検出状況（南から）

第 15 次調査 SX065 検出状況（東から）



第 16 次調査全景（上が東）

第 17 次調査全景（南から）

第 19 次調査 2 面目全景（上が東）

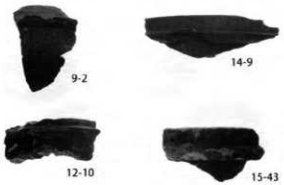
第 19 次調査　黒灰色土除去時北側全景（西から）

第 19 次調査　東側暗黒灰色土完掘時状況（北から）

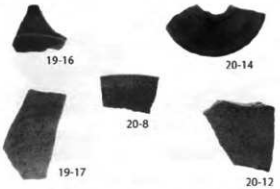
第 21 次調査 2 面目全景（上が南）

5SX025 出土土器（計測のみ）

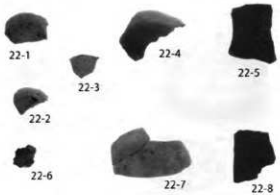
5SK045 出土土器（計測のみ）



第 5 次調査出土石鍋（Fig. 9. 12. 14. 15）

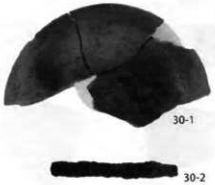


第 6 次調査出土土器（Fig. 19. 20）

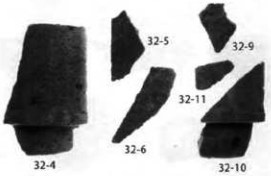


第 10 次調査出土遺物（Fig. 22）

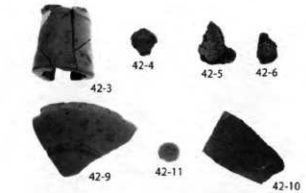
15SX075 出土土器（計測のみ）



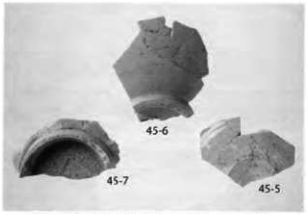
15SX020 出土遺物（Fig. 30）



15SX043・044 出土瓦（Fig. 32）

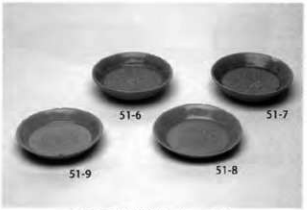


第 16 次調査出土遺物（Fig. 42）



第 17 次調査茶灰色土出土土器（Fig. 45）

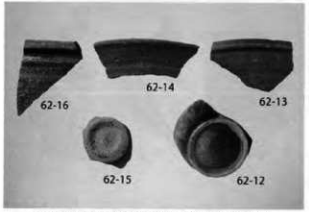
19ST009 出土土器（Fig. 51）



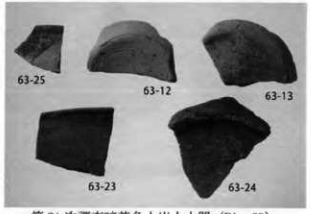
19ST025 出土遺物（Fig. 51）

19SX019 出土土器（Fig. 52）

第 19 次調査黄茶色土出土土器（Fig. 54）



第 21 次調査明茶色土出土遺物（Fig. 62）



第 21 次調査暗茶色土出土土器（Fig. 63）

報告書抄録

ふりがな	はらいせき
書名	原遺跡　3
副書名	第5・6・10・15・16・17・19・21次調査
シリーズ名	太宰府市の文化財
シリーズ番号	121集
編著者	宮崎亮一　山村信榮
編集機関	太宰府市教育委員会
所在地	福岡県太宰府市観世音寺１丁目１番１号
発行年月日	2014（平成26）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	条坊 【筑山推定案】	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	座標 X	Y	調査期間 開始	終了	調査面積 ㎡	調査原因
はらいせき 原遺跡　第5次	条坊外	太宰府市 大字太宰府	402214	210185	57961.0	−43338.0	19871116	19871211	120	専用住宅建設
はらいせき 原遺跡　第6次	条坊外	太宰府市 大字太宰府	402214	210185	57996.0	−43400.0	19880919	19880929	30	専用住宅建設
はらいせき 原遺跡　第10次	条坊外	太宰府市 三条1丁目	402214	210185	57964.0	−43378.0	19920708	19920727	50	専用住宅建設
はらいせき 原遺跡　第15次	条坊外	太宰府市 三条1丁目	402214	210185	57912.0	−43430.0	19980415	19980807	169	畑地造成
はらいせき 原遺跡　第16次	条坊外	太宰府市 三条1丁目	402214	210185	57987.0	−43455.0	19990407	19990516	58.7	専用住宅建設
はらいせき 原遺跡　第17次	条坊外	太宰府市 三条1丁目	402214	210185	57923.0	−43460.0	20010425	20010425	6.1	専用住宅建設
はらいせき 原遺跡　第19次	条坊外	太宰府市 連歌屋1丁目	402214	210185	57557.0	−43750.0	20061218	20070131	340	共同住宅建設
はらいせき 原遺跡　第21次	条坊外	太宰府市 連歌屋3丁目	402214	210185	57832.0	−43511.0	20080317	20080331	100	共同住宅建設

所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構	主要遺物	特記事項
原遺跡　第5次	社寺跡	中世	掘立柱建物、土坑 段状遺構	土師器、須恵質土器、石鍋 瓦質土器、陶磁器、瓦、鉱滓	
原遺跡　第6次	社寺跡	中世	土坑	土師器、土師質土器 須恵質土器、陶磁器、鉱滓	
原遺跡　第10次	社寺跡	中世	土坑	土師器	
原遺跡　第15次	社寺跡	中世	集石遺構	土師器、須恵質土器、陶磁器 土師質土器、瓦質土器、刀子	
原遺跡　第16次	社寺跡	中世	柵列、土坑、石組み	土師器、トリベ	
原遺跡　第17次	社寺跡	中世	集石遺構、土坑	白磁、同安窯系青磁	
原遺跡　第19次	社寺跡	中世、近世	木棺墓、石組み、集石	土師器、須恵質土器、陶磁器 土師質土器、瓦質土器、鉱滓	
原遺跡　第21次	社寺跡	中世	建物跡　土坑	土師器、瓦器、陶磁器	

太宰府市の文化財　第 121 集
原遺跡 3
－第 5・6・10・15・16・17・19・21 次調査－
平成 26（2014）年 3 月
編集　太宰府市教育委員会
発行　太宰府市観世音寺 1-1-1
印刷　株式会社　四ヶ所
〒 838-8512
福岡県朝倉市馬田 336

原遺跡3

太宰府市の文化財調査報告書

—第5・6・10・15・16・
17・19・21 次調査—

太宰府市の文化財 第121集
太宰府市教育委員会
平成26年
(2014)

008・C11・144